

地域資源を体感する

～持続可能な地域社会のしくみづくり～

ー 未来の地域づくり支援総合プロジェクトー

東京大学フィールドスタディ型政策協働プログラム
オリエンテーション
2018年4月18日-19日

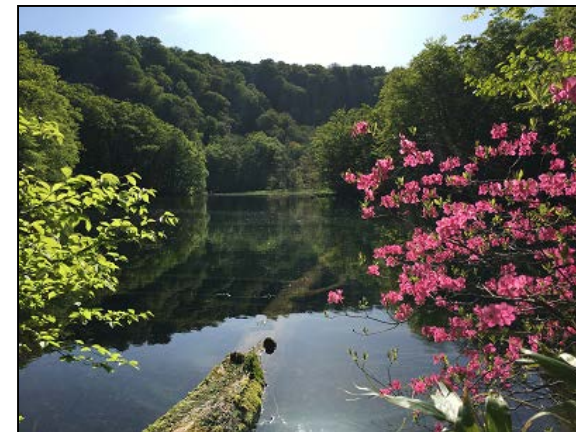
青森県



青森県 ～三方海に囲まれた本州最北の地～

三方を海に囲まれた青森県は、四季折々に美しい姿を見せる雄大な自然と豊かな風土に恵まれています。

春の弘前城の桜祭り、夏のねぶた祭りを始めとする伝統的な祭りや郷土芸能が今なお受け継がれ、日本一の収穫量を誇るりんごやにんにく、全国でも有名なマグロやひらめなどの山の幸、海の幸を活かした郷土料理や温泉も豊富です。



新緑の菅沼



晩秋の菅沼



地域資源を体感する ～持続可能な地域社会のしくみづくり～

－未来の地域づくり支援総合プロジェクト－
(受入地域：青森県十和田市)

【現状と課題】

◆ 高速交通網の整備と産業の変化

高速交通体系網の整備に伴い通過型の観光が増加し、観光客、修学旅行生等が減少し、ホテルの廃屋が林立する状態



◆ 地域交通機関の衰退

少子高齢化、人口減少が進む中、地域バス路線が減少し、通勤、通学、買い物弱者が急増

◆ 就学環境と医療機関の減少

人口減少に伴い、小中学校が統廃合・診療所の受診機会が減少

国立公園の再生に向けた満喫プロジェクトの取り組み

地域コミュニティの維持

【プログラム内容】

地域資源の発掘と街づくり団体との体験交流

事前に調査した現状、課題をもとに青森県の豊かな固有の自然を体験。まちづくり団体、地域住民との交流から自然と共生する課題と地域づくりの未来を探ります

【取組1】 地域との交流対話

- 地域住民との活動体験、児童生徒との体験交流を通じ、地域の課題と未来を探る



【取組2】 地域資源の再発見 自然・歴史・文化を知る

- 十和田湖の自然・歴史・文化を知り、体験メニューを通して、地域資源の価値を掘り起す



【取組3】 持続可能な地域社会のしくみづくりの提案

- 人口減少した地域社会で豊かな自然と持続可能な地域社会のしくみづくりを提案



【実施概要】

- 受入地域
青森県十和田湖休屋地区
- 受入人数（要調整）
3名～5名
- 受入期間（応相談）
平成30年8月20日（月）から
平成30年9月20日（金）の間

- 地域おこし協力隊、地域住民が交流をサポート
- 現地域内移動をサポート

【プログラム目標】

持続可能な
地域づくり

地域づくり（ビジョン）への
提案

現地活動調査フィールド

平成17年1月1日 十和田市、十和田湖町合併

青森県十和田市

- ✓ 平成29年3月31日 十和田湖畔休屋
世帯数97 人口217人
- ✓ 十和田湖小学校 児童数5名
平成30年4月1日小中学校統合



◆十和田湖休屋地区
十和田八幡平国立公園
十和田八甲田地域

【取組1】
現地活動
～地域との交流対話～

【取組2】
現地活動
～地域資源の再発見～

【取組3】
持続可能な地域社会
のしくみづくりの提案



「持続可能な地域社会のしくみづくり」 －取組フェーズ－

- ① 国立公園持続可能性調査 平成28年度
- ② 学生を通じた東京大学との交流
- ③ 青森県及び受入地域の特徴の把握 平成29年度
- ④ 地域のリソース&地域課題の発掘
- ⑤ 東京大学、行政、地域団体、住民との協力関係
- ⑥ 専門知と地域知を地域課題の解決へ活用 平成30年度
- ⑦ 実現可能なプロジェクト検討
- ⑧ 持続可能な地域社会のしくみづくりへの道筋提案



2017年度 現地活動から見た地域課題

－人口減少の進んだリアルな地域社会－

地域の範囲：国立公園十和田湖休屋地区

地域の盛衰：明治以降

明治41年－
大正初期

大町桂月紀行文発表
十和田湖の名が知れ渡る

大正後期－
昭和27年

十和田神社参拝客への宿提供
昭和11年国立公園指定知名度向上

昭和28年－
昭和45年前後

昭和28年「乙女の像」建立
観光客急増 交通網整備

昭和60年－
平成3年頃

観光客急増
自然・社会環境に影響

平成3年頃－
平成14年頃

平成3年に観光客ピーク
日帰り客個人型 減少傾向

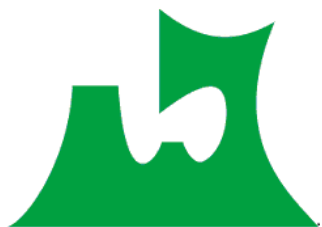
平成14年頃－
現在

平成14年八戸・平成22年青森・平成28年北海道
新幹線開業 通過型観光減少加速 国際化へ展開

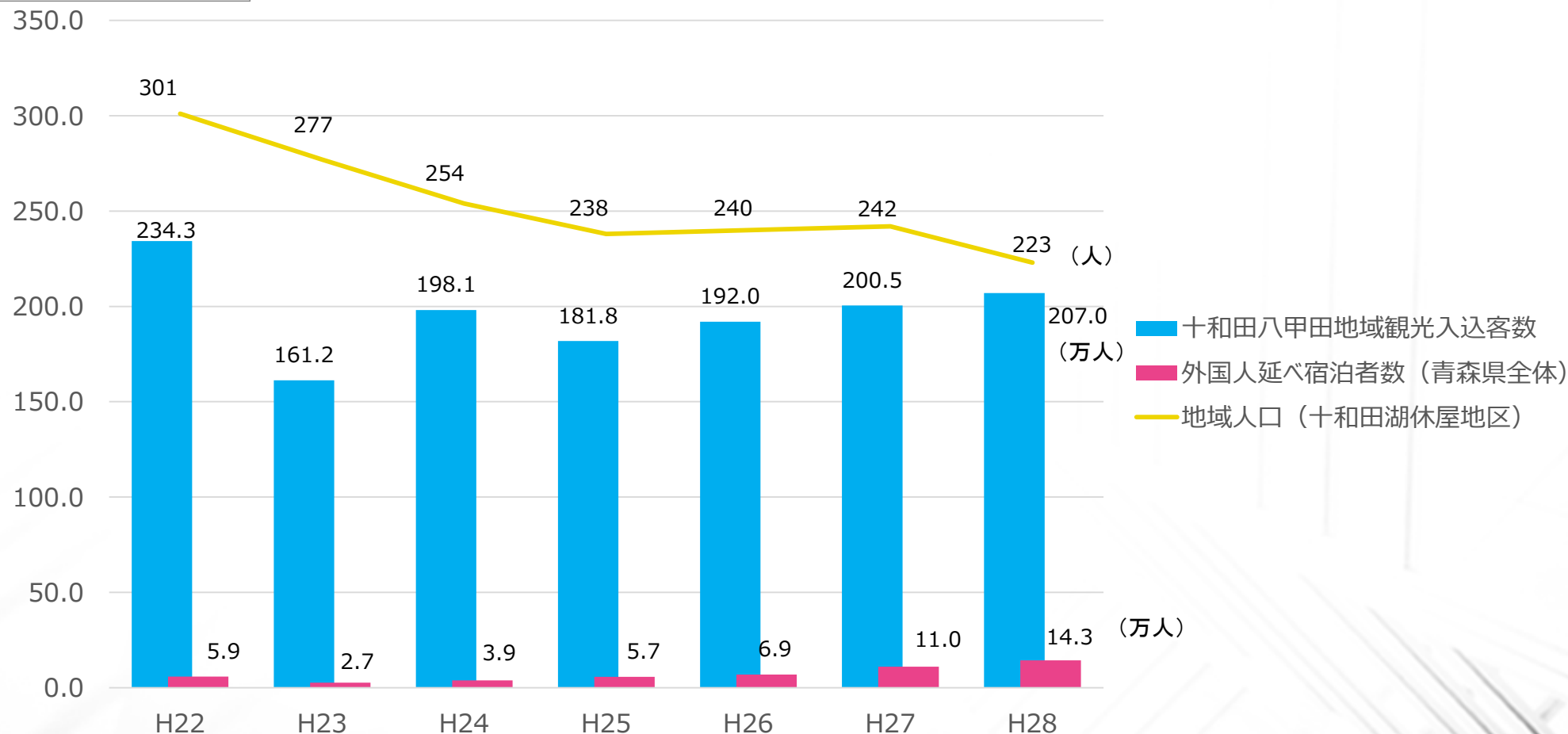
直近20年で人口半減

- ・ 子育て世代 . . . 中心市街地に移住→通勤
学校教育 . . . 小中学校統合
- ・ 高齢者世代 . . . 観光業衰退・継承者不足
観光・一次産業 . . . 生涯現役、域内移動
- ・ 建物景観 . . . 大型観光施設が廃墟化
- ・ 自然景観 . . . 観光減少により回復
- ・ 域内外コミュニティ、危機管理機能の脆弱化

人口減少が進行した
リアルな少子高齢地域社会



十和田八甲田地域観光入込数 十和田湖休屋地区地域住民人口推移





2016年度 観光客・地域住民・観光客調査比較 ～地域課題の共有へ～

地域の範囲：国立公園十和田八甲田地域 休屋地区

「観光客」	「住民」	「事業者」
✓ 魅力：自然環境が突出	✓ 魅力：自然環境・ <u>歴史文化</u>	✓ 魅力：自然環境・ <u>特産品</u>
↓	↓	↓
✓ 課題：施設の老朽化 <u>地域内の移動</u> 駐車場の有料無料	✓ 課題：施設の老朽化 サービス不足 <u>交通の不便さ</u>	✓ 課題：施設の老朽化 サービス不足 <u>交通の不便さ</u>
✓ 取組： <u>自然環境の保全</u> 施設整備	✓ 取組：食・土産の向上 <u>地域外との連携協力</u>	✓ 取組：自然環境の保全 <u>地域資源の掘り起こし</u>



十和田湖休屋地区の第一印象

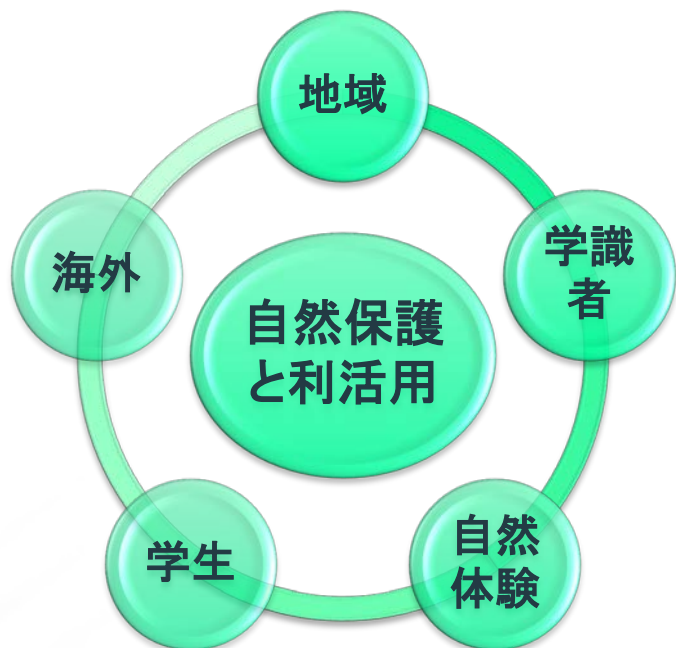
－ 2017年度参加学生 －

- ◆十和田湖はきれいだけど、全体の大きさがわかりにくい（全体の5分の1くらいしか見えない）
- ◆生活するとなれば自家用車が必須（買い物や通院のために、十和田市街に行くにしても秋田県側に行くにしても片道40分はかかる！）
- ◆観光地なのにコンクリートむき出しの建物ってどうなの？
- ◆よくよく見れば少子高齢化が進んでいるが、観光客が多いためあまり目立たない





2017年度 現地活動テーマ 「自然保護と利活用を両立する共生社会」



科学的 知見

- 生物、植物、地質など火山活動との関連調査
- 世界のカルデラ湖との比較など固有の価値の向上

新たな社会イン フラの整備

- 公共交通機関を補完する新たな交流拠点
- 自然と向き合いながら人が暮らせる場づくり

国際的 取組

- 世界の学識者が研究するフィールドへ
- 世界の学生が自然を体験する環境づくりへ

地域の自然を理解し活用する多様な人材が交流するしくみづくりへ



2017年度の課題とテーマ 自然保護と利活用を両立する共生社会とは？

自然を解明・活用



保護意識が向上



科学的知見とは？EX.湖中調査

解明されていない固有の自然は？世界との比較は？



固有の価値を地域社会へ還流

地域コミュニティを補完する新たな社会システムとは？

Next Stage 東京大学の知見を活用へ



地域における取組① ～学術機関等の活動～

◆ 自然科学分野

- ①東北大学植物園八甲田山分園（高山植物研究所 S4～）
- ②東京大学 生産技術研究所 海中観測実装工学研究センター 浅田研究室（湖中センサー調査H21）
- ③産業技術総合研究所 地質情報研究部門（八甲田・十和田湖地質調査H26-H28）
- ④京都大学フィールド科学教育研究センター（海洋生物環境学分野・ヒメマスバイオリギング調査H27・H28）
- ⑤十和田湖環境保全会議（青森県・秋田県 水質・透明度・プランクトン調査 H13～）

◆ 社会システム・街づくり・国際交流分野

- ①弘前大学大学院地域社会研究科（十和田湖観光再生行動計画）
- ②青森中央学院大学国際交流センター（【国際交流】奥入瀬溪流・十和田湖）
- ③岩手大学 農学部（環境省十和田八幡平満喫プロジェクト持続可能性調査）
- ④青森県立十和田西高等学校（奥入瀬エコロードフェスタガイド）



地域における取組② ～国立公園再生活動～

国立公園満喫プロジェクト
～国立公園の魅力を世界に～



十和田湖ウォーク50km
～豊かな自然を踏破する～



十和田湖ヒルクライム
～紅葉の樹林を登り切る～



固有の自然を
生かした活動

十和田湖マラソン
～神秘の湖を駆け抜ける～





地域における取組③ ～地域で暮らす人との交流～ 地域のコミュニティはどこへ向かっているのか

児童・生徒と
～地域の未来を語る～



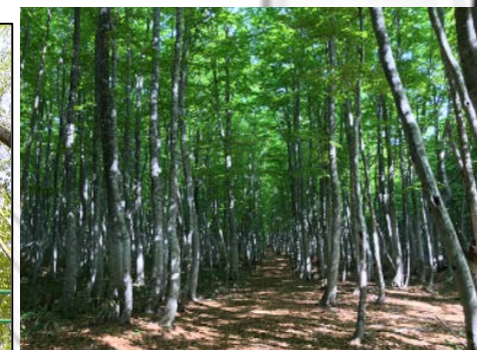
地元漁師と
～ふ化放流の継承を語る～



ネイチャーガイドと
～四季の十和田湖を語る～

固有の自然と
生きていく

国内外類似地域との連携
～ブナ原生林の森を語る～



森の神

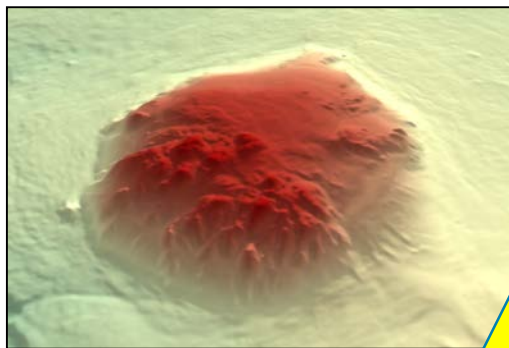
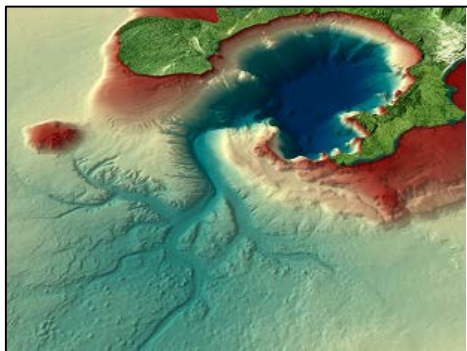


地域における取組④

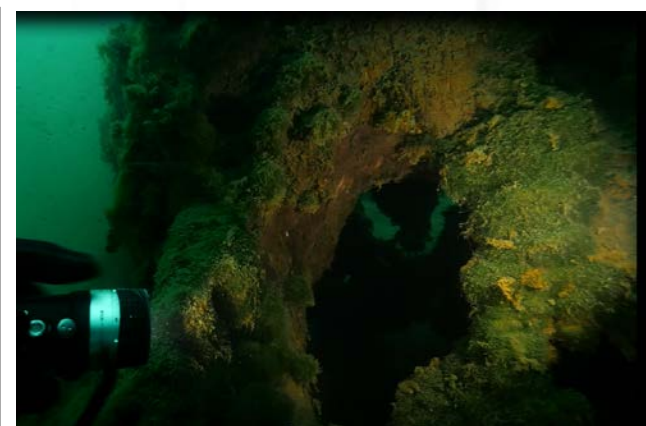
～固有の自然を解き明かす～

自然と暮らしていく価値と新たなマーケットの創出

カルデラ湖中センサー調査
～二重カルデラ湖の秘密～



火山活動の生態系への影響
～湖中の知られざる景観を探る～

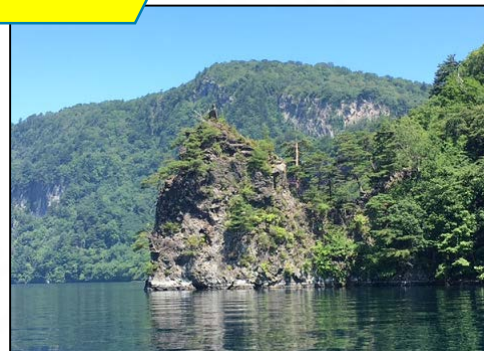


ヒメマス（ヒメマス）の歴史と生態を探る
～支笏湖移入・バイオロギング～



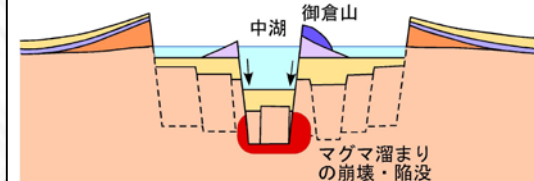
固有の自然を
深く探る

十和田火山の地質と火山活動史
～1万5千年前の噴火から学ぶ～



後カルデラ期
(6000-1100年前)

6000年もしくは1100年前の噴火に伴うマグマ溜まりの崩壊・陥没により、中湖カルデラが形成





地域における取組⑥ ～四季の自然の価値を体感する～

四季を紐解く

- ✓ 観光化されていない本来の自然の価値
- ✓ 滞在しなければ知りえない四季と時間毎の自然
- ✓ 地域を知るガイドの専門知
- ✓ 体験活動を通じた自然感



固有の自然 コケ



紫明亭 展望台



源流地 グダリ沼



赤沼(微酸性沼の紅葉)



氷瀑



火山活動と十和田信仰



東京大学の知見の活用可能性について

- ① 自然科学
- ② 先端技術の実装（地理情報、センサー技術、A I 等）
- ③ 考古学
- ④ スポーツ科学
- ⑤ 社会科学（持続可能な地域社会）、観光行動学

上記全般で、東京大学の知見を活用する可能性があるが、参加決定する学生の専門分野、受入地域と調整しながら、地域課題の設定、現地活動を通じて道筋提案を行う



現地活動から道筋提案までの体制

- 1 東京大学との地域課題設定検討
- 2 地元大学の地域フィールド活動知見の活用
 - 1) 弘前大学大学院社会研究科
 - 2) 弘前大学理工学部地球環境防災学科
- 3 東京大学知見活用の検討
 - 1) 社会科学研究室（社会システム）
 - 2) 農学生命科学研究科
（観光行動学・森林学）





活動地域と現地活動スケジュール

実施場所	目的	地域	募集人数	活動期間
青森県 十和田市	地域資源を体感する持続可能な地域社会のしくみづくり	十和田湖休屋地区	3名～5名	1年間 (夏、秋、冬の活動を推奨)

4月中旬

- 地域及び課題の設定
- オリエンテーション

5月参加学生決定

- 地域、東大専門知教官への事業概要説明
- 年間スケジュール等の検討

夏期現地活動
(8月～9月)

- 現地経験学生からの引き継ぎ
- 現地活動2週間

秋期現地活動
(10月)

- 夏期現地活動からの専門知の収集整理
- 最終報告に向けた道筋検討

冬期事後調査・
現地報告会 (2月)

- 事後調査、整理
- 現地報告会
- 振り返り、最終提言整理

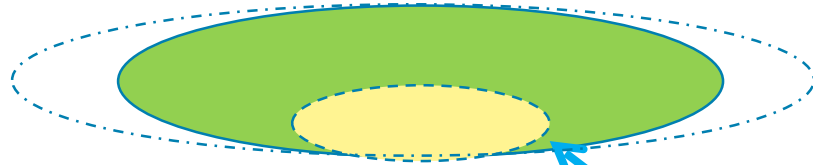
3月学内報告会

- 地域資源、専門知の最終整理
- 学内報告会



地域資源を活用した 地域社会のしくみづくりのイメージ

消費者層

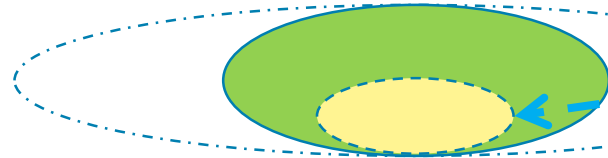


個人消費型・グローバル化
消費者ニーズの多様化

各層をつなぐ
新たな層1



地域生活層



各層を補完
する要素

人口減少した地域社会
少子高齢化により20年で半減

各層をつなぐ
新たな層2



地域資源層



固有の地域資源
20年で自然環境が回復

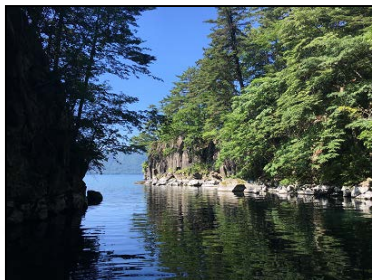
多様な知見を活用し地域社会の未来像を道筋提案



青森のリアルな課題を体感！道筋提案してみませんか ～地方から日本を変えるチャレンジ～

「皆さんの声」を青森県の「未来の地域づくり」にお届けください。
心よりご応募をお待ちしております！

十和田湖の自然・歴史・文化



十和田湖自籠の入江



ヒメマス採卵



ヒメマス天井

地域の魅力・課題を前年度参加学生から
情報入手してください。必要資料は随時
要望により提供いたします

地域の自然と暮らす住民との交流



ルパンのおじさん



ネイチャーガイド



ヒメマス漁師



ダケカンバの森



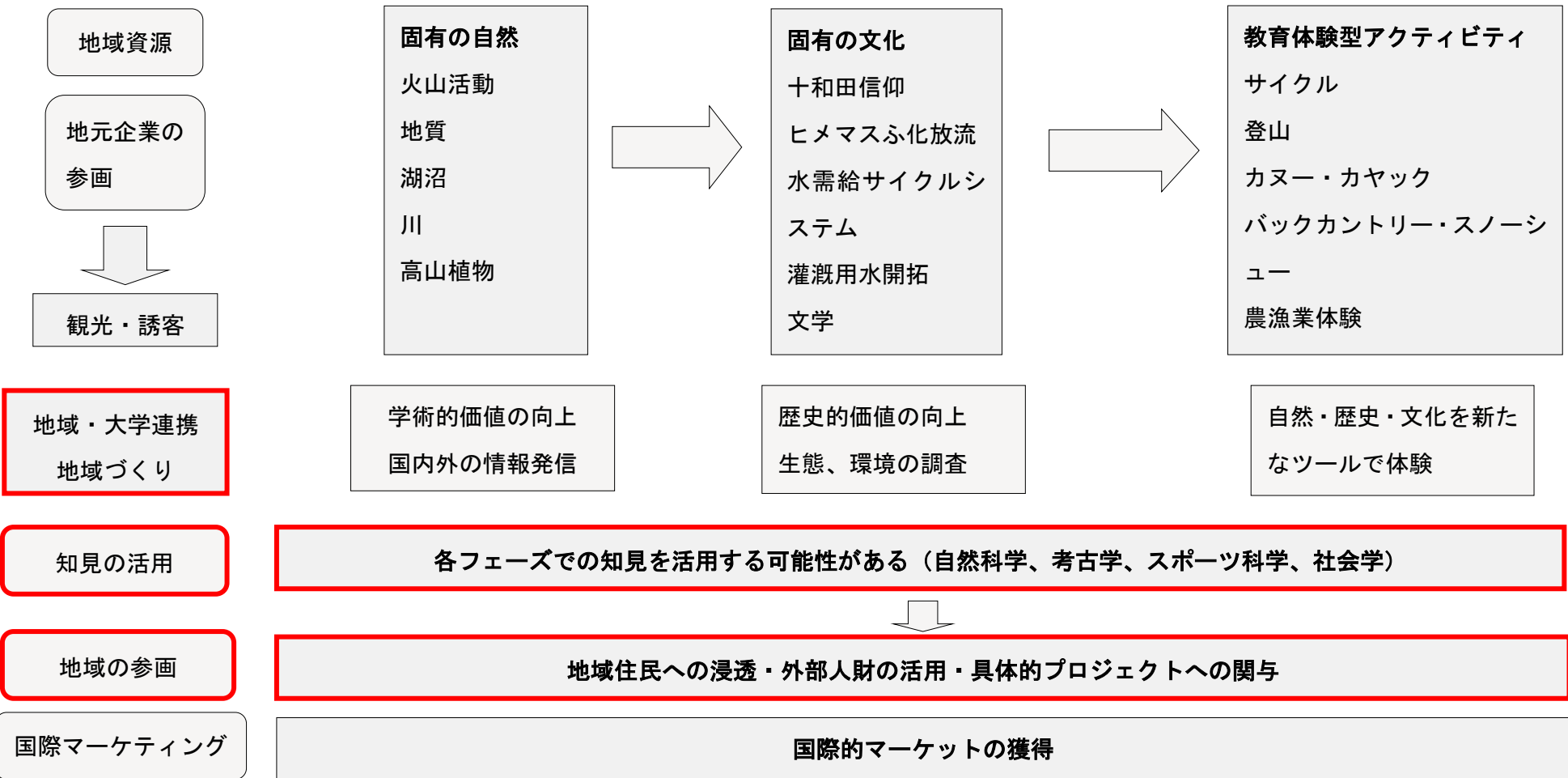
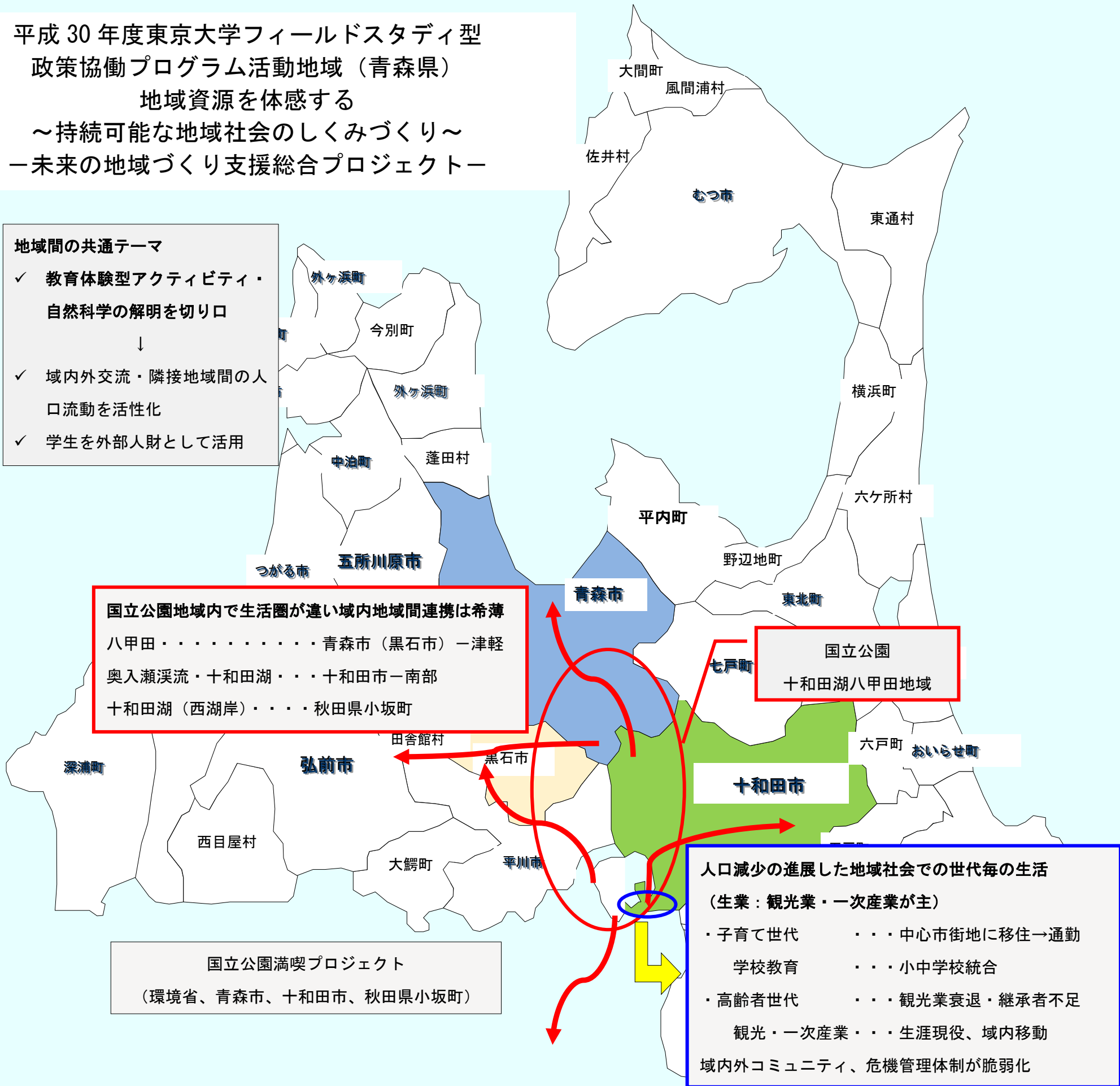
十和田湖紫明亭



十和田湖冬物語

平成 30 年度東京大学フィールドスタディ型
政策協働プログラム活動地域（青森県）
地域資源を体感する
～持続可能な地域社会のしくみづくり～
—未来の地域づくり支援総合プロジェクト—

- 地域間の共通テーマ
- ✓ 教育体験型アクティビティ・自然科学の解明を切り口
 - ↓
 - ✓ 域内外交流・隣接地域間の人口流動を活性化
 - ✓ 学生を外部人財として活用



東京大学フィールドスタディ型 政策協働プログラム提案書



ユネスコ
食文化創造都市
鶴岡
UNESCO Creative City
of Gastronomy

「観光果樹園を中心とする 地域振興支援事業」

山形県・山形県鶴岡市

1. 山形県の概況



ユネスコ
食文化創造都市
鶴岡
UNESCO Creative City
of Gastronomy

羽田空港	JAL / 60分	山形空港	空港ライナー 約30分	山形市内				
羽田空港	ANA / 60分	庄内空港	庄内交通 / 25分 庄内交通 / 35分	鶴岡市内 酒田市内				
東京駅	東北・山形新幹線 【つばさ】1時間57分	米沢	30分	山形	10分	天童	33分	新庄

山形県のプロフィール

山形県は、東北地方の日本海側に位置し、東京から概ね北に300km、山形新幹線で約3時間の距離にあり、一般には、全国生産量の7割を占める「さくらんぼ」と鮮やかな四季で知られています。

人口：1,122,957人（平成27年国勢調査）

面積：9,323,46km²（全国第9位）

市町村：35市町村（13市19町3村）

自然

山形県は、月山、鳥海、蔵王など日本百名山に数えられる秀麗な山々と日本海に囲まれ、南から連なる米沢、山形、新庄の各盆地と庄内平野を「母なる川」最上川が流れる、美しい自然に恵まれた地域です。

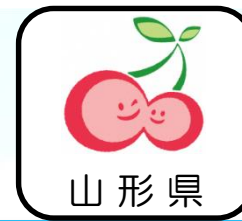
特産品

米（つや姫、雪若丸）、さくらんぼ、西洋なし（ラ・フランス）、すいか、メロン、ぶどう、枝豆（だだちゃ豆）、牛肉（米沢牛など）、本酒・ワイン 等



2.

鶴岡市の概況



ユネスコ
食文化創造都市
鶴岡
UNESCO Creative City
of Gastronomy



黒川能



丸岡城跡・楽朋館



観光果樹園



農家民宿

鶴岡市 山形県の海岸部に位置
平成**17**年**10**月**1**日に6つの市町村
が合併 東北一広い自治体となる。
人口 **129,652** 人 (※H27国勢調査)
面積 **1311.53** km²

櫛引地域 鶴岡市南部に位置
人口 **7,243** 人 (※H27国勢調査)
国指定無形民俗文化財「黒川能」
肥後加藤家終焉の地「丸岡城跡」
「果樹産地」産直・観光果樹園



ユネスコ食文化創造都市(2014/12認定)

ユネスコ創造都市ネットワークを通じて、世界の創造都市と交流を深めると共に「世界の食文化創造都市」としての魅力を国内外に強くアピールし、鶴岡食文化の存在感を高めていきます。

食と風土の博物館構想

(鶴岡ガストロノミー フィールド ミュージアム構想)

食文化と農林水産業を主軸とする観光振興[通年] 2年周期の食文化の祭典[ビエンナーレ]

鶴岡ツーリズム

食と風土の祭典

☆出羽三山の精神文化・日本遺産
～自然と信仰が息づく「生まれかわりの旅」～



☆城下町・日本遺産
～サムライゆかりのシルク～



農水省 SAVOR JAPAN(農泊 食文化海外発信地域) (2016認定)

鶴岡市の価値ある食文化資源を活かし「食文化の学び」と「体験の場」を提供することで、世界中から食文化を楽しみ、学ぶ人々を鶴岡に誘客することによる地域産業の振興と、地域資源を維持発展させる好循環を形成する地方創生の取り組みを実践する。

5年後(H31)へインバウンド10倍計画
外国人旅行者 4,000人→40,000人へ
(延べ宿泊数)

- 内対象国: フランス・イタリア・ドイツ
・アメリカ・オーストラリア
- 平成28年度 / **12,000人泊**(延べ宿泊数)
- 満足度 **80%以上**

4. 観光分野の現状と課題



ユネスコ
食文化創造都市
鶴岡
UNESCO Creative City
of Gastronomy

【現状】

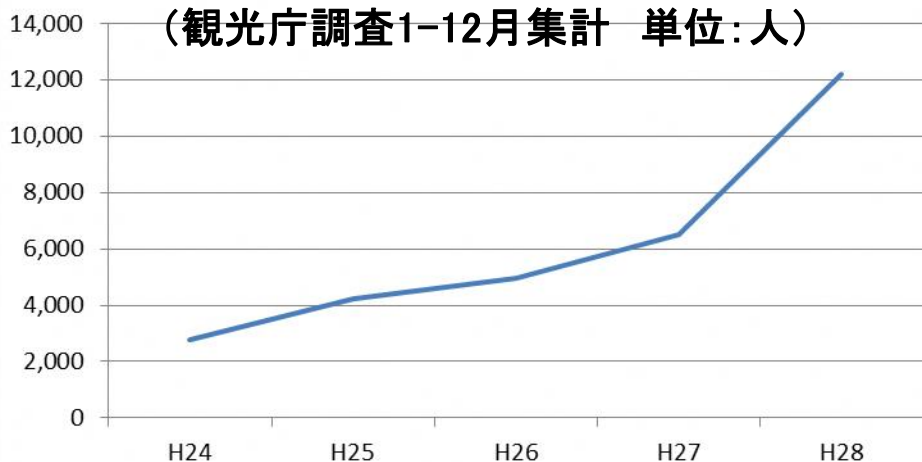
- 鶴岡ツーリズムを推進し、食文化を活かした観光振興と農林水産業の成長を目指している。
- 鶴岡ツーリズムにおける体験型観光の目玉に観光果樹園の取り組みを推進している。
- 鶴岡にあって櫛引地域は果樹産地のメッカ（さくらんぼ、桃、ぶどう、和・洋ナシ、りんご、庄内柿等）

【課題】

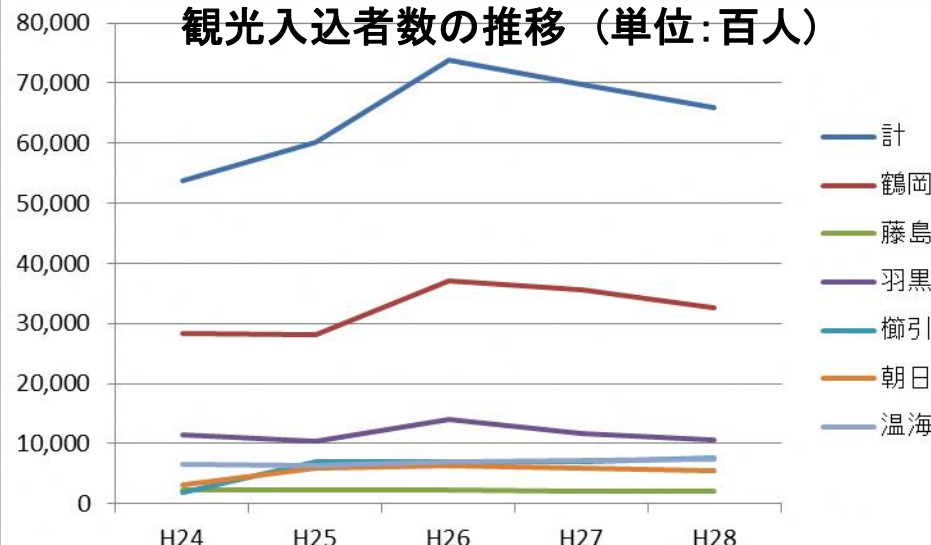
- ◆ 国内外からの訪問者が学びや体験できる観光資源の新たな価値の創出が必要である。
- ◆ 鶴岡の食文化の魅力を伝える、観光果樹園と鶴岡の様々な地域資源との連携と情報発信が不足している。
- ◆ 観光果樹園を含む果樹振興による地域の活性化を図っていきたい。

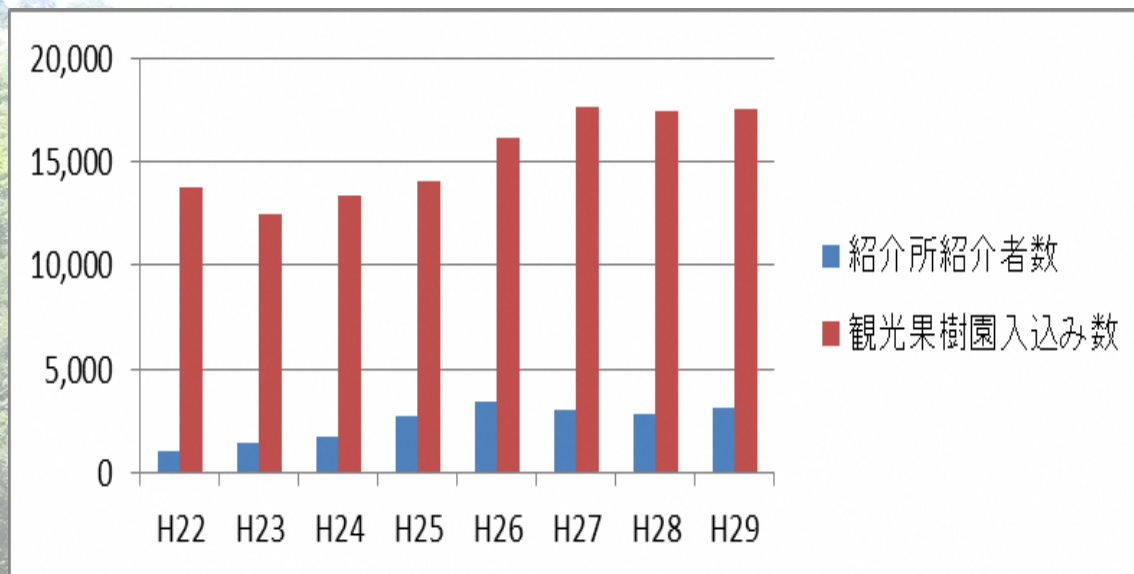
外国人延べ宿泊者数の推移

(観光庁調査1-12月集計 単位:人)



観光入込者数の推移 (単位:百人)

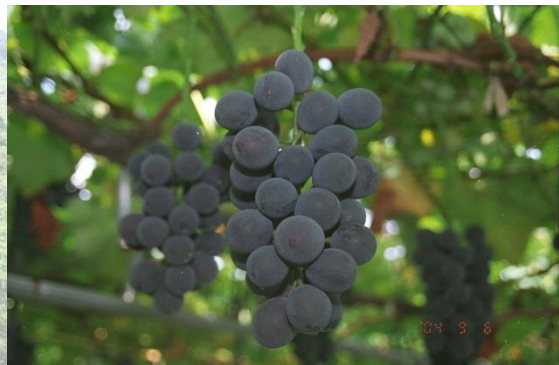




観光果樹園入込者数 (櫛引地域H29)

さくらんぼ	7,717人
ぶどう	8,026人
りんご・なし	1,765人
合計	17,508人





- ① 観光振興の視点から見た
「観光果樹園経営」のアイデア提案
⇒ データ分析等による事実や法則の発見
- ② 周辺の地域資源との関わりや地理的特性に着目した
「観光果樹園の役割と可能性」のアイデア提案
⇒ 果樹産地である内陸との差別化
- ③ 鶴岡を元気にするための「櫛引果樹ブランド」の
ポテンシャルに関する考察
⇒ 少量多品目産地の目指すところ
- ④ 鶴岡の未来と将来設計は
「ユネスコ食文化創造都市」への提言
⇒ 食文化は地方都市を救えるか
- ⑤ 合併した市町村の行政運営に関する考察
⇒ 地域の尊重と融合のプロセス



受け入れ地域 山形県鶴岡市櫛引地域 **人数** 3～5人

受け入れ期間 6月中旬～6月下旬 さくらんぼの季節

※柔軟な対応が可能 8月下旬～9月中旬 ぶどうの季節

行政の支援 現地活動を支援します。

果樹園組織や住民、地域おこし協力隊等との連携・交流のセッティング
観光果樹園、産直施設、農家民宿、観光施設等の案内や手配等

フィールドワークのプログラム内容

地域資源や地元の 取り組み体験

- 観光果樹園体験、産直施設、観光施設訪問など
- 農家民宿への宿泊
- 250年の歴史のある甲州ブドウとワイン造り視察体験

観光果樹園組織や 産直、観光関係者 等との交流

- 地元の方々との交流
- 地元の研修会等への参加

地域資源の調査活動

- 観光果樹園、産直施設調査
- 宝谷地域おこし協力隊員との協働調査
- 行政、観光関係者へのヒアリング

観光果樹園を中心とする 地域振興方策の検討

- 観光果樹園の振興方策のアイデア提案・実施
- 鶴岡ツーリズムとの連携方策のアイデア提案
- 果樹振興による地域振興方策の提案



ユネスコ
食文化創造都市
鶴岡
UNESCO Creative City
of Gastronomy

ご清聴ありがとうございました。

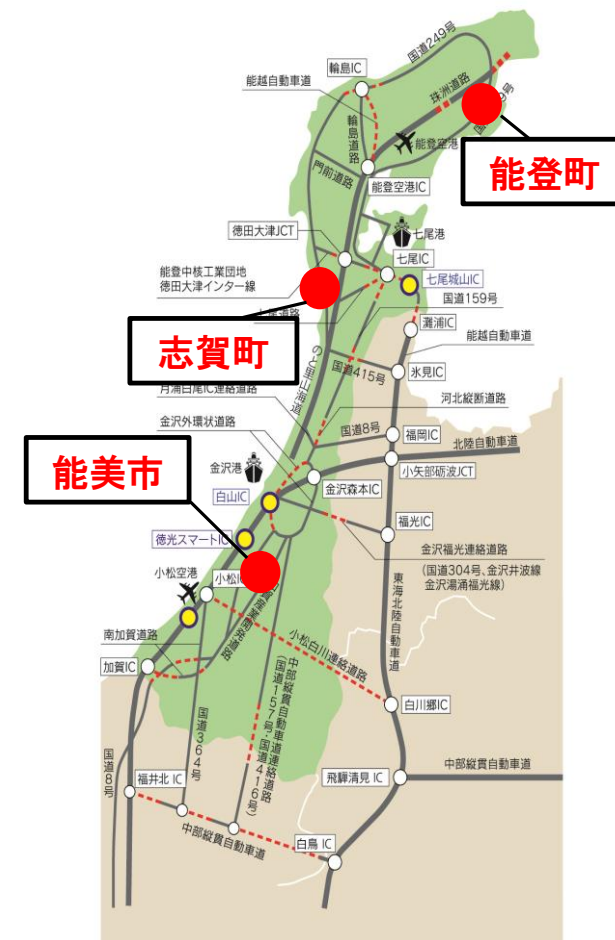
石川県

フィールドスタディ型政策協働プログラム
オリエンテーション

東大生と共に取り組む政策プログラム(全体概要)

石川県内の下記地域に約3週間～1か月(8月20日頃～9月20日頃)滞在し、能登町・志賀町・能美市での現地活動を通じ、それぞれの課題解決策を提案していただきます。
(具体的なスケジュールや役割分担は、参加人数や学生の希望を踏まえて決定します)

活動地域	活動内容	活動期間
能登町	2017年度のFSプログラムの活動を通じて、気づきを得た、地域の人々のパワーが発揮できるような地域の人たちが輝く舞台をつくる	うち3週間程度
志賀町	地域に眠る素材を磨き上げたスローツーリズムのメニュー化及び、仕組みの提案	うち3週間程度
能美市	国造ゆず産地を未来に継続していくための持続可能な生産・消費体制等の構築	うち3週間程度

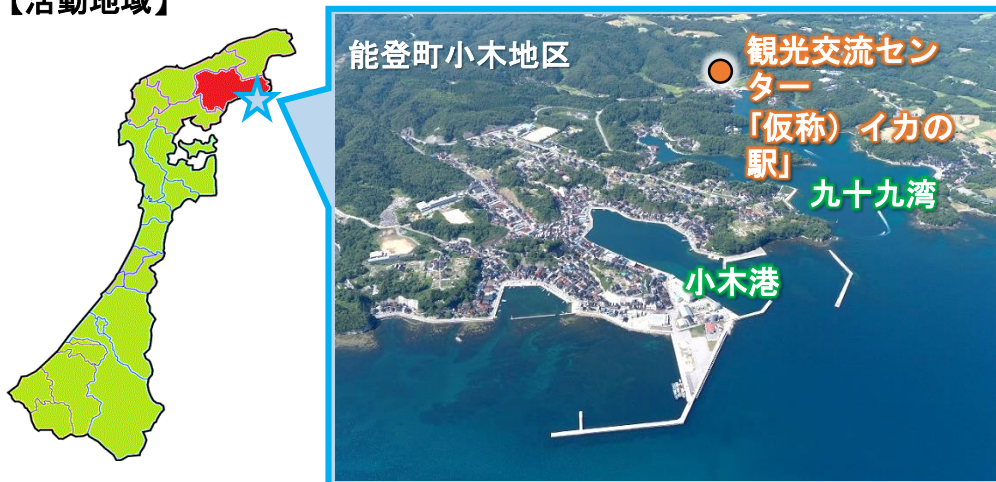


MISSION 地域の人たちが輝く舞台をつくる！

能登町

観光交流センターができる九十九湾エリアに、地域の人たちの出番と居場所をつくり、観光客と地域が交流できる、誰もが「あってよかった」と思う施設をつくる

【活動地域】



【活動内容】

祭りなどの地域行事に参加しながら、子どもたちからおじいちゃん、おばあちゃんたちまで、多くの地域の人たちと出会い、一緒に活動するとともに、舞台となる九十九湾エリアを調べながら、地域の人たちがやりたいことをできる舞台（環境）を考えていきます。『地域の人たちが輝く舞台を一緒につくりましょう！』



【活動スケジュール（案）】

7月～	顔合わせ(東京)、事前調査(WEB等)
8月～9月 3週間程度	地域奔走 地域の人たちと出会い、一緒に活動し、想い・やりたいことを知る 地域住民への中間報告会(能登)
10月～	学内奔走 整理分析し、出番や居場所を考える 地域奔走(短期) 出番や居場所をつくってみる
2月	地域住民への成果報告会(能登)

【2017年度 FSプログラムから】

能登町は人口減少が著しく、地理的な条件も非常に悪い場所に位置しており、観光交流センターは「数字上ではとても厳しい」、数字を変える何かが必要となりました。そこで、九十九湾周辺を調査すると、地域の人たちはパワフルで、豊富な地域資源(海、景色、食、祭りなど)があることがわかりました。

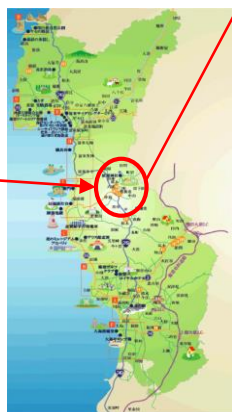
そこで気づいたこと、「地域の人」×「地域資源」が、数字を変える仕組みになるかもしれないということです。2018年度FSプログラムでは、「地域の人たちが輝く舞台をつくる！」を課題に設定しました。

能登町は、2011年に世界農業遺産「能登の里山里海」に認定され、大きな産業がなく、一次産業が中心です。人口17,658人（2015年国調）で、社人研では、2040年8,896人になると推計されており、人口減少が大きな課題となっております。活動する小木地区は人口2,200人の港町で、函館、八戸と並ぶイカの三大漁港として栄えてきた小さな港町です。この地区も人口減少は著しく、また基幹産業であるイカ釣漁も、年々漁船数、水揚げ高が減少し、地域経済の縮小が課題となっております。この課題の解決に向けた一つとして、日本百景の一つに数えられる九十九湾（リアス式海岸）に、交流人口の拡大の拠点として観光交流センター「（仮称）イカの駅」の整備を進めております。その運営方法を地域住民が検討しております。観光交流センター「（仮称）イカの駅」は、九十九湾やイカを活かし、レストラン・物販・遊覧船事業などを行います。

東大生と共に取り組む政策プログラム

地域に眠る素材を活用したスロートーリズムのメニュー化及び、仕組みの提案

活動地域：志賀町熊野地区



熊野
地区

【活動地エリア】

石川県羽咋郡志賀町熊野地区

【活動目的】

地域の潜在資源を掘り起こし、体験や交流などを中心とした（新たな）旅のスタイルを創出

【活動内容】

①地域での暮らしを通して地域の魅力を探る。

* 自分たちの足で里山を歩き、見て、体感・体験して、感じたことを、新たな視点・観点で地域の魅力を発掘→情報整理・リストアップ

②住民との意見交換会を通してコンテンツ・ルートの検討および、集客・交流サービス（おもてなし）の仕組みを考える

* 住民の視点から、外部の視点から意見を出し合うことで、互いに新たな気付きを持ってさらに磨き上げる→独自性の高い体験メニューの商品化

* 地域ぐるみのより一体的な集客・交流サービス（地域で提供できるおもてなし）を地域内外の視点で考え、話し合う。

③モニタリングによる検証

* 来訪者視点でベネフィットを実際に体験していただく

【活動期間】

8月20日～9月20日 3週間

【滞在場所】

くまの地区（草木）にあるシェアハウス（古民家）* 自炊



● 課題: 国造ゆず産地を未来に継続していくための持続可能な生産・消費体制等の構築

● 現場で必要とされていること

生産者・地域・行政等がメリット、デメリットと思っていることを把握したうえで、国造ゆず産地を未来に継続していくための持続可能な生産・消費体制等の構築が必要とされているが、うまく進んでいない。

【メリット】農薬不使用栽培(H29石川県特別栽培農産物認証)／約700本のゆずの木がある団地あり(石川県内生産量第2の産地、表年約10トン、裏年約2トン)／生産者を応援する市民団体あり／etc

【デメリット】生産農家数減少(H61...46戸、H30...7戸)、生産農家高齢化(平均年齢約80歳)／老木化(生産開始30年あまり経過)／今年2月の大雪で多数の枝折れ／低い知名度(地元でも知らない人多い)／etc



● 学生と貴学に期待したいこと

地方にある小規模だけど地方自治体の「顔」となっている農産物の産地存続に対して関心のある学生、地域づくりに関する仕組みづくりに挑戦してみたい学生にお越しいただければと思います(ゆず好きかどうかは問いませんが、積極性ある学生希望)。生産者等からのヒアリング等を基に、国造ゆず産地を未来に継続していくための生産・消費体制等の構築提案を期待します。また、学生には、「市外・県外在住の若者」として、生産者等との交流による多くの気づき・元気を与えていただければ幸いです。

● 最終的に結果として求めたいこと

生産者・地域等関係者に対して、現地報告会で課題解決の提案をしていただくとともに意見交換していただき、学生が本プログラムを通して感じたことも生産者・地域に伝えていただきたいと思っています。

● 年間スケジュール提案 (現地活動2~3回、現地最終報告会1回を希望します。ヒアリング日程調整、移動の支援します。)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
内容					● (●) 現地活動 (8~9月)			● 現地活動(11月)	現地最終報告会 (12~2月で1回)		
	← 電話、電子メール等でのやりとり(随時) →										

福井県



©FUKUI/play set products

フィールドスタディ型政策協働プログラム オリエンテーション
2018年4月18日・19日

あらかじめ、
幸せだったらいいな。



福井県のキャッチコピー

「あらかじめ、幸せだったらいいな。」

福井のお国自慢！



都道府県幸福度ランキング **1位**

(日本総合研究所 2016年版)

仕事分野👑（女性就業率など）1位、教育分野👑（全国学力テストなど）1位・・・

その一方で。。

都道府県魅力度ランキング **39位**

(ブランド総合研究所 2017年版)

ざっくり言ってしまうと、

このギャップを埋めるのが、**地域づくり**や**まちづくり**なんです！

ちなみに福井といえは。。

禅宗（曹洞宗）の本場 大本山永平寺

（年末の『ゆく年くる年』でも有名ですね）

住民1人あたり寺院数


2位

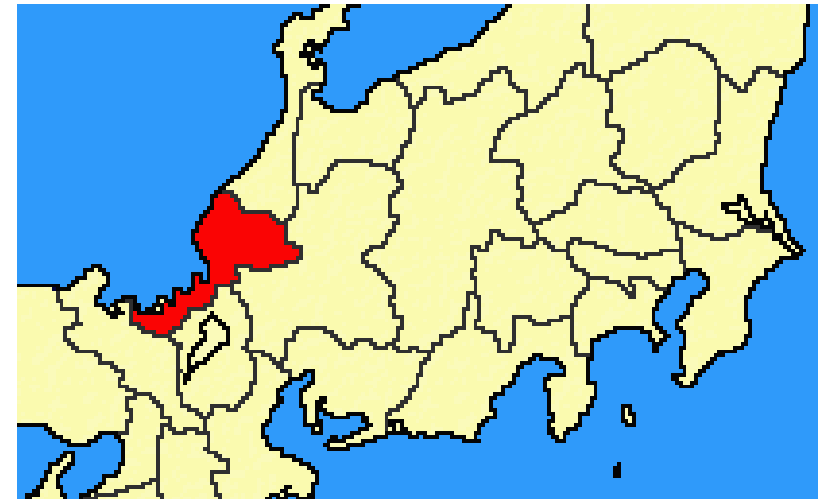


「カギ」のような変わったカタチ

カギの持ち手を「^{れいほく}嶺北」、

差し込む部分を「^{れいなん}嶺南」といいます

（嶺北は独特な福井弁、嶺南は関西弁寄りです）



東大生と共に取り組む政策プログラム【福井市】

福井の寺社と宗教文化を活用したツーリズムの提案

活動地区	福井県福井市東郷地区 【キーワード】 米どころ、報恩講料理、地酒、歴史、堂田川、おつくね祭り、観光
プログラム目標	東郷地区の観光まちづくりが持続可能なものとなり、地域の活性化や交流人口の増加につながるよう、地域の特性(浄土真宗文化や歴史など)を活かした観光プログラムの提案。
活動内容	【宿泊】 福井の寺社・道場やふるさと茶屋に宿泊 等 【体験】 精進料理・報恩講料理等の試食やプチ修行(座禅、写経、読経等)、テクノ法要の体験 等 【探求】 サイクリングによる魅力探しや福井の宗教、文化に関する調査 等
スケジュール	2018年8月10～14日、9月1日～10日(応相談)



おい町はこんな町です。



おい町



ー福井県おい町ー

○福井県の南西部（嶺南地域）に位置

・人口：8,272人、世帯数：3,177世帯

○豊かな自然に囲まれている

・町の9割は森林、日本海の美しいリアス式海岸の眺望

○海の幸・山の幸に恵まれている

・若狭アマダイ、きのこ、自然薯（じねんじょ）、ぼたん鍋が名物

○伝統文化を感じることができる

・暦会館（安倍晴明の子孫に由来）、若州一滴文庫（直木賞作家 水上勉）

○原子力発電所が立地している

・大飯原子力発電所3・4号機（1・2号機は廃炉決定）



野鹿の滝



ぼたん鍋



暦会館



若狭湾の眺望

○奥名田エリア※での空き家対策の提案

※エリア情報：9割以上が山林、周山街道（国道162号線）が地域を貫く。
地区人口：1,023人、世帯数：384世帯、高齢化率：39.8%、空き家件数：75件以上

少子高齢化、過疎、地域経済の縮小、地域の担い手の減少…中山間地域が抱える問題が集約された「空き家」の問題を題材に、地域住民との対話や自然体験を重ねながら隠れた地域資源を発見し、政策提言を行うことで、「空き家」の解消や地域の諸問題の緩和を目指します。

【活動内容】

フィールドワーク ・エリア内を回って、空き家や地域の実態を知る。
・地域の自然・食・文化風習・産業・コミュニティを体験

交流 地域内で頑張る住民との対話・気づきの交換
(中塚町長との意見交換も調整中)

検討 よそ者・若者の視点と地域での経験を掛け合わせ
各問題の本質を再認識し、取組みの方向性を得る。

提言 空き家の利活用／除却に有効なしくみの提案
連動する地域問題への事業計画提案(と実行)

空き家対策計画に反映

提言された事業の実現

【活動期間】

8月27日(月)～
～9月9日(日)の
2週間(調整可能)

【受入れ体制】

自然体験を行うNPO&大学院生、地域おこし協力隊員、古民家に詳しい建築士、三セク職員がサポートします。

【皆さんに期待すること】

町民・町職員がうまく見えていない地域の問題・可能性をズバツと指摘したとがった提言をまとめましょう！



東京大学フィールドスタディ型政策協働プログラム

山梨県の課題について

2018/04



山梨県 「かがやき 安心 プラチナ社会を目指して」



○ 山梨県の紹介

(1) 位置について

東京都に隣接しています。

(2) 自然について

東京都に隣接はしているものの、自然が非常に豊かであり、県土の78%は森林となっています。

また、日本一の標高を誇る富士山、第2位の北岳、第3位の間ノ岳は全て山梨県にあります。

その山々を水源とした水資源も豊富で、ミネラルウォーターの生産量は日本一です。

(3) 産業について

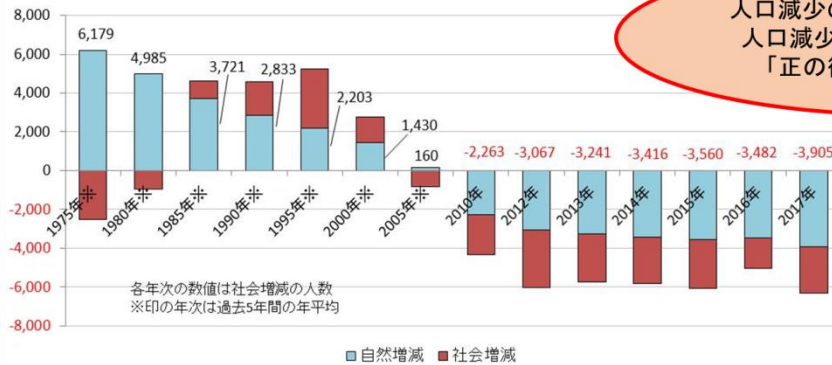
産業については、果樹王国で、ぶどう、もも、すももなどの栽培が盛んで、それぞれ日本一の収量となっています。

また、中央道でアクセスしやすいことから、機械電子産業を中心とした製造業も立地しています。

近年、日本を訪れる外国人観光客が増えていますが、山梨県にも、特に2013年に富士山が世界文化遺産に登録されてから、多くの外国人観光客が訪れています。

山梨県が現在取り組んでいる課題

- 背景 : 人口の減少、特に社会減少
- 取り組み課題 : 若年世代の移住増加による人口の正の循環への転換



人口減少の「負の連鎖」を断ち切り、
人口減少に歯止めをかけるため、
「正の循環」への転換が必要



○ 山梨県が現在取り組んでいる課題

(1) 背景

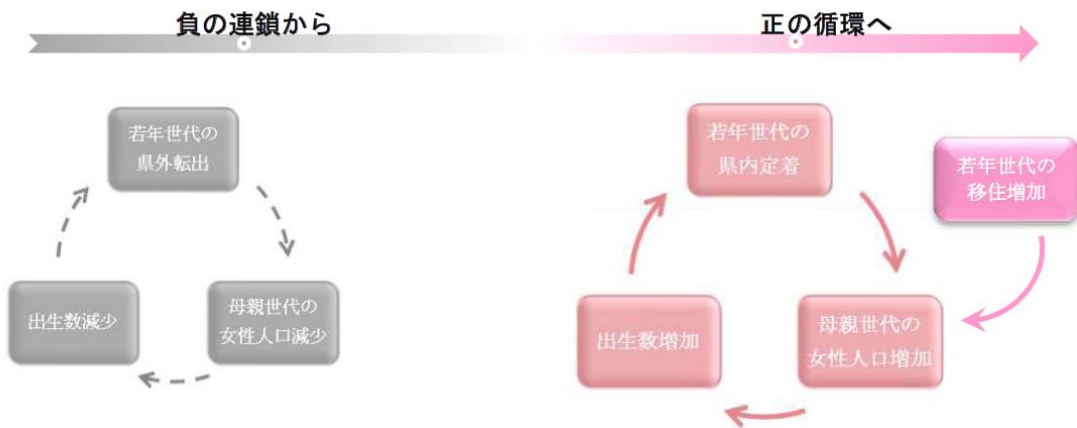
東京都に隣接していますが、2005年以降、人口の減少が続いています。自然増減、社会増減、ともに減少していますが、特に、社会増減は2012年以降、年間3,000人以上の減少が続いています。

(2) 課題

県で策定した地方創生のための計画、山梨県まち・ひと・しごと創生総合戦略では、負の連鎖から、正の循環へ、転換していくことを課題としてあげています。

若年世代の多くが、進学や就職時に東京圏に転出し、その結果、県内における母親世代の女性人口が減少、低い出生率とあいまって、子どもの数が減少し、更なる人口減少につながる「負の連鎖」が生じています。

これを転換するために、若年世代の移住増加によって、母親世代の女性人口の増加、子どもの数の増加、若年世代の県内定着、という「正の循環」に転換していくことが、今回の政策協働プログラムの大きな課題となります。

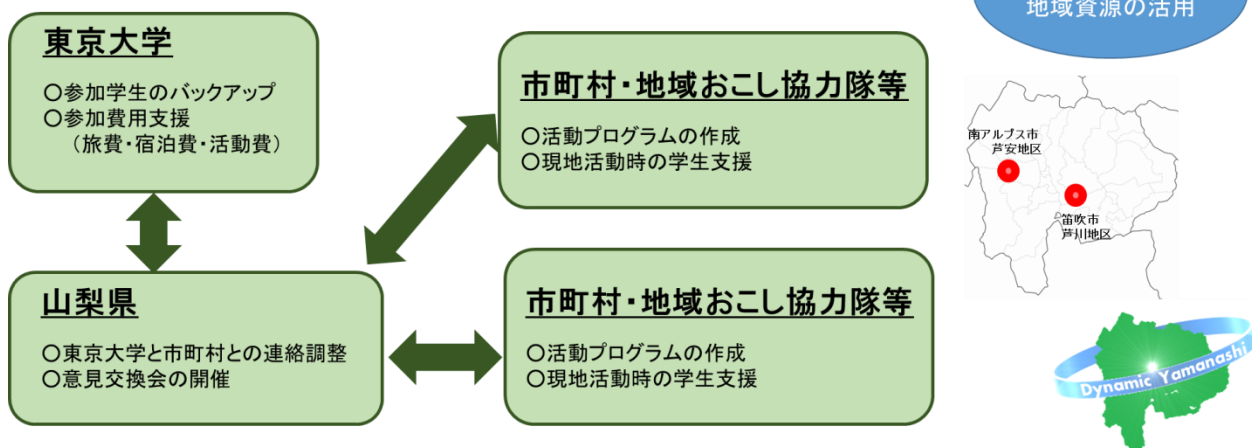


出典：山梨県まち・ひと・しごと創生総合戦略

東大生と共に取り組む政策プログラム

・テーマと目標

『若者・子育て世代等を対象とした移住促進策の検討』



○ 東大生と共に取り組む政策プログラム

(1) テーマ

今回、東大生の皆さんと一緒に考えていただきたいテーマは、『若者・子育て世代等を対象とした移住促進策の検討』です。

(2) 活動内容等

東大生の皆さんには、各調査地区で、市の担当者や地域おこし協力隊、まちづくり団体の方達に話を聞いたり、一緒に行動し、それぞれの地区が持つ特性、地域資源を活用して、この課題にどのように取り組んでいったら良いか、道筋を提案していただきたいと考えています。

今回の調査地区では、昨年度も、皆さんの先輩方が調査を行っています。その内容に制限される必要はありませんが、その成果も活用しながら、調査、分析を行っていただきたいと思います。

また、山梨県には、山梨総合研究所という地域シンクタンクがあります。活動期間中に、その研究員との意見交換会を設定する予定ですので、その段階での調査結果や考え方を発表していただき、その後の道筋提案のための意見交換を行いたいと思います。

(3) 調査地区

先ほども説明したように、今回の調査地区は昨年度からの引き続きとなります。具体的には、南アルプス市の芦安地区、笛吹市の芦川地区。ともに自然豊かな地区ですが、なかなか観光等で行く機会が少ない場所です。

ぜひ、この機会に、この地区に長期に訪問していただきたいと思います。

フィールドの紹介(1) 南アルプス市芦安地区

- ・ ユネスコエコパークに登録されており、日本第2・3位(北岳・間ノ岳)の山を抱える南アルプスの玄関口に位置する

- ・ 人口300人(※H30年3月1日時点)

- ・ 芦安小・中学校は、特色ある教育に力を入れており、地域外から通う児童・生徒が多い

 - ユネスコエコスクールに指定(学校登山・自然体験等)

 - 小中一貫教育と英会話科がある(文科省の特例認定)

 - 運動会や文化祭は小・中学校と地域住民が一緒に行う

- ・ 地域の将来を考える住民の集まり「芦安みらいサロン」があり地域団体や個人の活動などの情報交換を行っている

- 平成29年度 FSプログラムでの取り組み

 - ・登山客を集落に誘導する仕組みづくり

 - ・芦安独自の大豆の発酵食品「しょうゆの実」の利活用



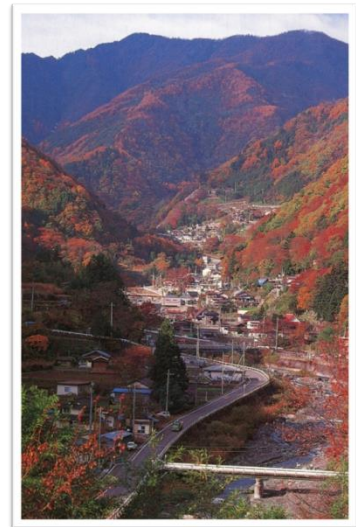
芦安みらいサロンの様子



学校登山(仙丈ヶ岳3032m)



しょうゆの実



山に囲まれた芦安集落全景

○ 調査地区の紹介

(1) 南アルプス市芦安地区

山梨県の西端に位置し、人口は、平成30年3月1日時点で300人です。

特色として、

① 南アルプス市は、ユネスコエコパークに登録されており、芦安地区は、その核心地となる3000m級の山々の玄関口です(日本第2・3位の北岳、間ノ岳を含む)。

② 人口減少や高齢化が進んでいますが、H26年以降ベビーラッシュが続き若干の人口微増がありました。主な要因は、地域外から転入された若い世帯の増加にあります。主に県内からの移住でしたが、県外から自然豊かな環境を求めて移住された方もいます。

③ 地域の小中学校では、特色ある教育に力を入れており、そういった教育に魅力を感じる保護者の方が、お子さんを地域外から通わせるケースが多く、減少していた児童・生徒数も増えてきています。

○ユネスコスクール：登山教室・自然体験教室

○小中一貫教育、英会話科：文科省の特例認定

○地域と一体となった教育環境：運動会、文化祭は小・中、地域住民が一緒に

フィールドの紹介(2) 笛吹市芦川地区

- 兜(かぶと)造りの藤原邸を代表とする古民家群
- 小保(小学校・保育園)連携の少人数教育
- 住民同士の相互扶助等のつながり濃さ



(2) 笛吹市芦川地区

甲府盆地のやや東よりに笛吹市が位置し、市の南端の山間部の溪谷沿いに立地する、人口 350 人程の地域です。

特色として、

- ① 日本の原風景のような山村が広がり、茅葺の兜造りの古民家 150 数棟が残っています。東日本最大で約 30 万本の日本スズランの群生地があり、新道峠からは河口湖越しに富士山を望むことができます。
- ② 兜(かぶと)造りの古民家群が 150 数棟残り、修復された藤原邸は一般に公開され、地域住民の憩いの場となっています。
- ③ 小保(小学校・保育園)連携の少人数教育が行われていて、児童 4 人、園児 5 人と先生の目が行き届く環境にあり、小保連携が密接に行われています。また、住民が子供に対して温かい支援・協力をしています。
- ④ 住民同士の相互扶助等のつながり濃さ 住民が減少していますが、住民間の相互扶助など助け合いなどが色濃く残っています。

東大生へのメッセージ

・地域創生のために必要なもの

よそ者：別の視点で地域を見る

若者：新鮮な目で地域を見る

ばか者：常識にとらわれずに地域を見る

・学生の皆さんへの期待

それぞれの地域が、自ら考え、行動し、
変革を起こしていくための起爆剤

斬新な、しかし、地に足の付いた提案を

なかなか訪れる機会
がない地域での活動を通
じて、東京では得が
たい経験を！！



○ 東大生へのメッセージ

(1) 地域創生のために必要なもの

何かを変えていくためには、「よそ者」「若者」「ばか者」が必要と言われます。今回のプログラムでも同様に、地域創生に取り組んでいくためには、現状とは違った取り組みが必要になります。

そのため、学生の皆さんは、

- ・よそ者として、東京の大学に通う地域の人とは別の視点で
- ・若者として、学生としての新鮮な目で
- ・ばか者として、常識にとらわれずに

地域の調査を行っていただきたいと考えています。

(2) 学生の皆さんへの期待

学生の皆さんには、それぞれの地域が、自ら考え、行動し、変革を起こしていくための起爆剤となるような提案、今までにないような切り方での提案など、斬新な、しかし、地に足の付いた提案をしていただきたいと思います。

最後に、今回の調査地区は、山梨県の中でもなかなか訪れる機会がない地域ですので、その場所での活動を通して、東京では得がたい経験をしていただきたいと考えています。

長野県

フィールドスタディ型政策協働プログラム
平成30年4月18日・19日

長野県ってどんなところ？



しあわせ信州

長野県キャッチフレーズ 「しあわせ信州」

信州にあるたくさんの「しあわせ」を感じ、多くの方に
信州を好きになって欲しい。

信州が好きで多くの方と「しあわせ」を分かち合いたい。



長野県PRキャラクター「アルクマ」

長野県の目指す方向

長野県の目指す方向と
東大FSが目指す方向と似ています！

政策推進の基本方針とめざす姿

学びの県づくり

子どもから大人まですべての県民が主体的に学び、個々の持つ能力を社会の中で発揮している
「学びの県」をめざす

＜クリエイティブな社会をつくる ～産業や地域のイノベーションを促進する～＞

産業の生産性が高い県づくり

時代や環境の変化に柔軟に対応する足腰の強い産業が持続的に発展し、地域の活力を生み出し、県民の生活を支えている「産業の生産性が高い県」をめざす

人をひきつける快適な県づくり

豊かな自然・文化と利便性を併せ持つ質の高い生活を送り、国内外と活発に交流しながら人生を楽しむことができる「人をひきつける快適な県」をめざす

＜安心して希望あふれる社会をつくる ～県民の思いに寄り添う～＞

いのちを守り育む県づくり

自らの健康と豊かな自然環境を守り、安心できる暮らしを次世代に継承している「いのちを守り育む県」をめざす

誰にでも居場所と出番がある県づくり

誰もが等しく社会からその存在と役割を認められ、自らの可能性に挑戦し、自分らしく生きている「誰にでも居場所と出番がある県」をめざす

自治の力みなぎる県づくり

多様な主体が協働しながら地域の課題解決に自ら取り組み、県全体の魅力を高めている
「自治の力みなぎる県」をめざす

【共通視点】

- 人口減少社会に立ち向かう
- 県民起点で現場に立脚する
- 先端技術を活用する
- 様々な主体と連携する
- グローバルな視点を意識する

「学びと自治の力」が推進エンジン
となつて政策を展開

長野県の取り組み課題（まちづくり分野）

県ではこんなことをやっています！

●危険で狭隘な踏切の解消（街路事業）

◆危険な踏切の立体交差化・踏切拡幅を推進



（松本市（都）出川～双葉）

・踏切待ち時間を解消

最大33分/時間→0分に！

・踏切周辺事故を解消

44件/（4年間）→0件に！

●空き家対策（空き家連絡協議会設置等の取組）

◆市町村・関係団体と協働して空き家対策を推進



空き家対策セミナーの様子



あんしん空き家流通促進事業

・空き家対策市町村連絡会

・空き家対策支援協議会（専門家参画）

・空き家セミナー

利用可能な空き家は積極的に活用！

●次世代のまちづくりの担い手育成の取組

◆次の世代をつくる子供たちへの学習機会を創出



①担い手育成（善光寺地区まちあるき）



②環境学習（烏川渓谷緑地）

①まちづくり担い手育成

善光寺地区まちあるき

②環境学習

烏川渓谷緑地での学習会

信州の魅力を知ってもらう！

【まちづくりのキーマンを育成】

民間主導の好事例 ～善光寺門前周辺の再生～

善光寺門前周辺では、民間主導でリノベーション手法による空き家等の再生が行われ、まちの新たな賑わいを創出しています。



この動きを県内各地に拡大させる！

【信州まちなかりノベーション推進事業（H28年度～）】

善光寺門前のような動きを県内各地に波及、活性化させるため、全国で活躍する講師を招いた講演会、県内実践者によるセミナー、空き家見学のまち歩き等を実施し、地域の「キーマン」となる人材の育成していきます。



キックオフ講演会



まち歩き（辰野町）



セミナー（松本市）

今回のミッションは？

政策協働プログラム

フィールド：長野県千曲市（千曲川河川エリア）



東京から鉄道で1.5H、バスでも4.0H
でアクセスできる“ちよどいい自然”を
感じられる地域です！



H29東大FSフィールド
(戸倉上山田温泉)



H30東大FSフィールド
(千曲川河川エリア)



今は荒れた河川内の敷地…
ここが今回のフィールド！可能性は無限大です！

政策協働プログラム

課題：魅力的な資源が千曲川を挟んで分断・点在し、活かされてきていない

姨捨の棚田



稲荷山伝統的建造物保存地区



ブレイブウィリアーズ



戸倉上山田温泉



この中にH29東大FS
メンバーがいます！！



森將軍塚古墳



あんずの里



【課題】

日本の棚田100選にも選ばれている「姨捨の棚田」やH29東大FSが奔走した「戸倉上山田温泉」、新体育館の完成を控える「ブレイブウォリアーズ」などなど、千曲市には魅力的な資源がいくつもあります。市中央を流れる千曲川によってそれらは分断・点在している状況です。

千曲市としては、これらの魅力を市民や市外の方々にもっと知って欲しいと考えています。

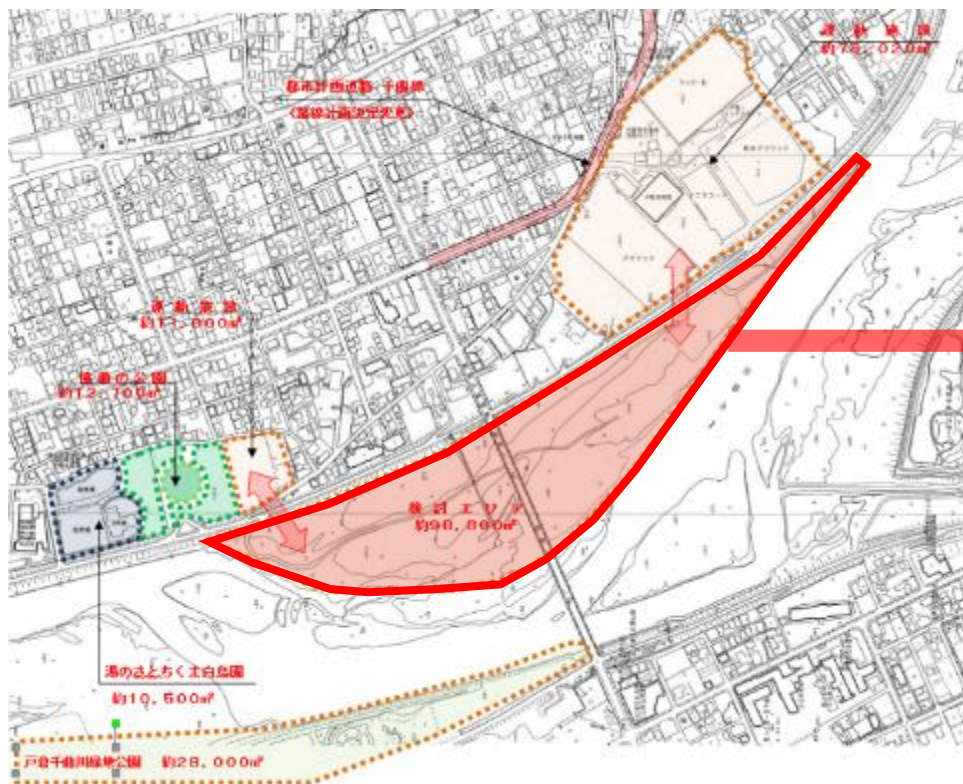
そこで、今回のミッション！

政策協働プログラム

ミッション：点を線に！線を面に！～資源を活かす場づくりを考える～

千曲市に点在する資源をつなぎ、市民や観光客が憩う場を一緒に考えましょう！みなさんのアイデアが形になる可能性も！！

千曲市では、課題解決のため、千曲川河川エリアを活用できないか？と検討を始めました。河川の活用については、国も「かわまちづくり」という取組みの中で積極的に進めており、みなさんのアイデアや市民の声を参考に、具体的な整備につなげていきたいと考えています！



【かわまちづくり支援制度】

地域が持つ「資源」や地域の創意に富んだ「知恵」を活かし、関係機関の連携の下、「河川空間」と「まち空間」が融合した良好な空間形成を目指す取組です。

<http://www.mlit.go.jp/river/kankyo/main/kankyou/machizukuri/>

【みなさんにやって欲しいこと】

対象地である千曲川河川エリアは、交流施設を備えた温泉“湯のさとちくま白鳥園”と“運動施設”を結ぶエリアとして、整備していくことが検討されています。

ここを単なる公園とせず、市民が日常的に憩える場としつつ、市内に点在する資源を結び、活用できるような場にできるようなアイデアを一緒に考えて欲しいと思います。

具体的に整備することを検討しているため、良いアイデアは形になる可能性があります！しかし、逆を言えばありきたりなアイデアは形になりません。まだ白紙の状態なのでやりがいは十分あると思います！

是非、足跡（爪痕？）を残すくらい奔走してください！

6月～	【事前調査】 <ul style="list-style-type: none">WEB等を使った資料調査現地調査に向けた作戦会議 ※場合によっては東京近郊の先進地視察
8月～	【現地調査】 8/中～9/上（2週間程度） <ul style="list-style-type: none">行政や地域の方々の意見を収集（中高生との意見交換会も実施予定）みなさんの外部の視点と内部の視点を融合資源を活かす場づくりを考える
9月～	【分析・整理】 「コミュニティ」「まちづくり」「公共空間」などを専門とする先生方の協力を得ながら、提案をブラッシュアップ
2月～	【成果発表】 地域の方々へアイデアを提案！

政策協働プログラム

受け入れ体制について

○現地滞在環境

滞在期間は8月末～9月上旬の2週間程度を予定しています。

H29東大FSメンバーから「毎日温泉に入っていたおかげで疲れもなく奔走できました！」と感想をもらったのでH30もフィールドに隣接する戸倉上山田温泉での滞在を予定しています。疲れを気にせず奔走してください！

なお、周辺にはコンビニやコインランドリー等もあるので生活に不便はないと思います。

※ただし、温泉目的での参加はNGです。お互い本気でやり遂げましょう！



○現地移動環境

【東京⇄現地】

- ・北陸新幹線（東京→上田）→しなの鉄道（上田→戸倉） 約1.5H（時間重視）
- ・千曲バス（池袋→上田）→しなの鉄道（上田→戸倉） 約4.0H（価格重視）

【現地】

- ・中長距離 路線バス等（状況に応じて県や市の公用車でも対応します）
- ・近距離 レンタル自転車を確保予定

東京⇄現地の
行き来が容易です！
(急用にも対応可能)



○地元交流

対象エリアの活用を考える上で、地元の中高生の意見も大切だと思います。したがって、地元中高生との意見交換会を実施します。

長野県は大学生が少ないので、高校生たちは大学生との交流を楽しみにしています！意見をもらう代わりに、みなさんの経験などアドバイスをしてもらえると嬉しいです！（写真はH29の様子）



みなさんへのメッセージ

今回のミッションは、千曲川を活用した「まちづくり」！ですが…
まず、みなさんをお願いしたいことは、
まちを、見て、感じて、触れて、千曲市を好きになってもらうことです。
温泉に浸かり、おいしい料理を堪能し、楽しく過ごしましょう！！
そして、ミッション達成のため、いっぱい地域を奔走してください。

☆アピールポイント

- ・ほどよい自然と素敵な温泉があります！
- ・地元中高生との交流会もやります！
- ・みなさんが関わる余地がたくさんあります！
- ・長野県内の観光地を案内しちゃいます！



先進地視察（山ノ内湯田中温泉）



休日観光（戸隠山登山）



フィールドスタディ型政策協働プログラム
オリエンテーション
2018年4月18日・19日



プログラム①

離島における空き店舗活用等による 賑わいの創出

離島における空き店舗活用等による賑わいの創出

【フィールド】


志摩市 渡鹿野島(わたかのじま)

- 伊勢志摩国立公園内のリアス海岸(的矢湾)に浮かぶ有人離島
本土までは渡船で5分
- 江戸時代から風待ちの港として栄えた
- 人口:219人(H27国勢調査)・・・15年間で53%の減少
- 高齢化率:53.7%
- 温泉や美しい景観、新鮮な魚介類、伝統的な祭りなどの観光資源を生かした観光業が主な産業
- 島への観光入込客数:約67,000人(H28)



ハート形の渡鹿野島

【現状と課題】

- ネットで検索すると・・・  → イメージを払拭したい
- 観光団体や自治会、警察等と共同でまちづくりの会議を毎年開催→家族連れのお客さん増
- 平成24年度～26年度にかけて、四日市大学の学生とともにまちおこしの取組
→「ハート形の島」としてのPR(ホームページの作成)、ペアによるウォークラリーの継続

それでも・・・



ウォークラリーの様子

- ◆ ホテル、旅館で過ごす客が多く、島内を歩くことが少ないため、空き店舗が増えている
- ◆ 人口減少も相まって、島の活力が低下している

離島における空き店舗活用等による賑わいの創出

【具体的なプログラム】

<活動期間: 3週間程度(応相談)>

渡鹿野島の資源を生かして賑わいを取り戻したい！

- 離島という地理的に厳しい地区ではあるが、だからこそ「離島ならではの」取組が可能ではないか
- 伊勢志摩サミットが開催された志摩市→知名度の向上をもっと活用できないか
- 観光客に島内を歩いてもらうには、どんな仕掛けが必要？
- 観光客だけではなく島民も豊かになる空き店舗の活用とは？
- これまでの取組をさらにステップアップさせていくには何が必要か など



【東大生に期待したいこと】

島民との対話や交流を通じて、都市部に住む若者の視点で、空き店舗や島にある資源を生かした「しまおこし」の方策を検討してください！！



海に囲まれた小さな離島で、東京では決してできない経験をしてみませんか？
温泉に入って、おいしい海の幸を食べながら、島民の方々と交流するという貴重な体験ができるチャンスです！
みなさんの参加をお待ちしています！！



渡鹿野島に住むアイドル
わたるくん&かのんちゃん

プログラム②

古民家シェアオフィス「土井見世邸」 ブランディングプロジェクト

古民家シェアオフィス「土井見世邸」ブランディングプロジェクト

【フィールド】

尾鷲市朝日町「土井見世邸」(どいみせてい)

- 尾鷲有数の山林経営家土井家の住宅で、主屋は昭和6年に建築された和風モダニズムの建物
- 平成27年8月、主屋を含む建造物9件が国の登録有形文化財に登録
- 旧熊野街道沿いの広大な敷地に建ち並ぶ主屋や蔵の数々は、当時の風情あるたたずまいを今に残す貴重な建物群
- 9代目当主の土井治氏は、東京帝国大学出身の英文学者
- 歴史的・文化的価値の高さから後代への保存と継承が求められており、長らくその活用方法が議論されてきた



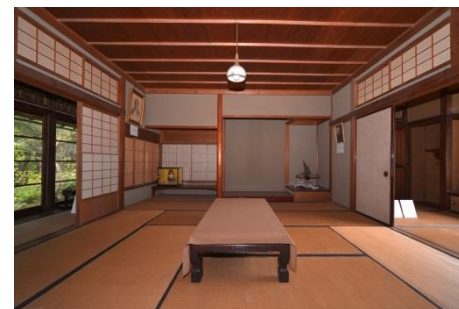
尾鷲市



登録有形文化財「土井見世邸」

【現状と課題】

- 所有者と地元NPOが連携し、コワーキング&シェアオフィスとして活用する方向で検討
- 市内外の企業によるサテライトオフィス、ノマドワーカー、大学研究者や学生の利用を想定
- 単なるシェアオフィスではなく、文化的な展示・発表の場やカフェ、学生や研究者が集う学びの場など、新しい人材とネットワークが創発するプラットフォームの役割を期待
- 市政功労者としても表彰された土井治氏の業績があまり知られていない



「土井見世邸」主屋一階

- ◆ 古民家シェアオフィス「土井見世邸」の中長期的なビジョンの策定、ブランディングの構築が重要
- ◆ 尾鷲が生んだ東京帝大出身の英文学者、土井治とは？ → 「土井治再評価プロジェクト」

古民家シェアオフィス「土井見世邸」ブランディングプロジェクト

【具体的なプログラム】

<活動期間: 3週間程度(応相談)>

地方創生のプラットフォームとなる古民家シェアオフィスとは

- 多様な主体が有機的に混ざり合う場とすることで、地域課題の解決や地方創生に向けたイノベーションが起こるプラットフォームの役割をもつ古民家シェアオフィスとは？
- 尾鷲を拠点として継続的に活動してもらうユーザーの発掘をどうするか
- 関係人口の増加や将来的な移住につなげるためには？
- 東大のアーカイブやネットワークを活用した土井治氏の顕彰ができないか など



【東大生に期待したいこと】

移住定住を担当する地域おこし協力隊や住民等とともに、「土井見世邸」活用ビジョンの提案やブランディング、潜在的なユーザーの提案、「土井治再評価プロジェクト」の企画立案など自由で幅広い活動を期待しています！！



土井治氏の80年後の後輩として、大先輩の邸宅を活用した古民家シェアオフィスのスタートに携わってみませんか？
尾鷲は東大生の力を必要としています！
(昨年度も来てもらいました！)
みなさんの参加をお待ちしています！！



移住定住コンシェルジュ(地域おこし協力隊)

平成30年度フィールドスタディ型政策協働プログラム

滋賀県

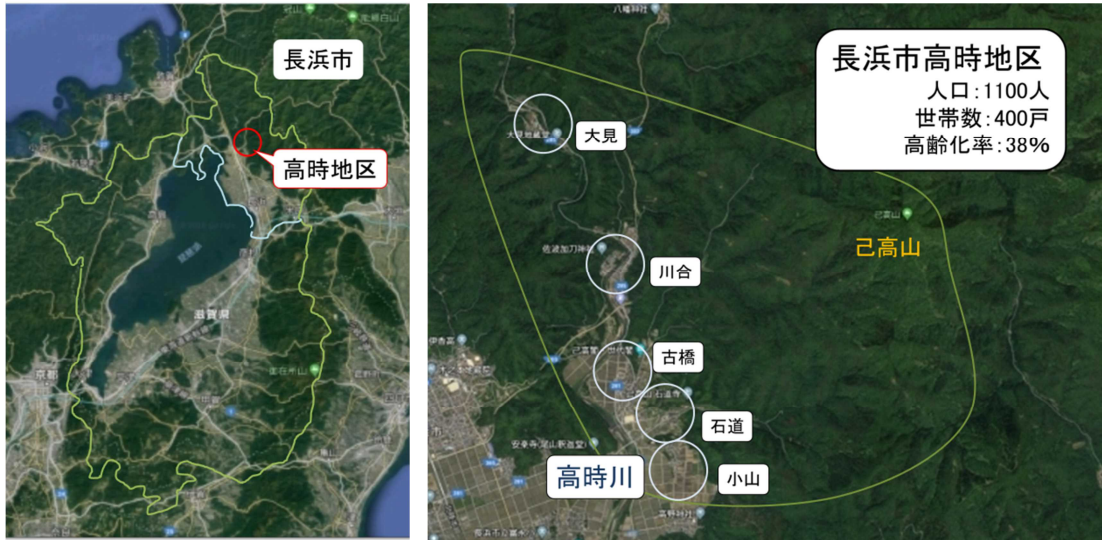
長浜市高時地区と米原市

① 滋賀県長浜市高時地区

『地域資源を活かして、将来性のある元気な地域づくりを提案してください!』

<場所>

滋賀県北部の長浜市にある、高時川上流の5つの字が高時地区です。



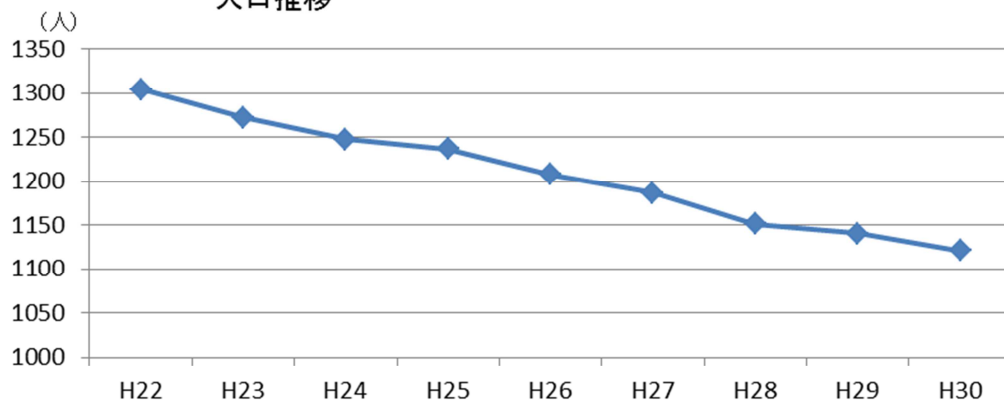
<課題>

人口の減少に伴い、少子高齢化が進んでいます。

少子高齢化が進むことで、たとえば次のような問題が起きています。

- ・ 独居老人が増える → 医療・福祉の問題
- ・ 空き家、空き地が増える → 防犯・防災の問題
- ・ 地域の行事（祭事、奉仕作業）が出来なくなる → 文化資本継承の問題
- ・ 農業の後継者不足、休耕地が増える → 景観・土地資源継承の問題
- ・ 高齢で草刈り、雪どけ、買物、病院通いが出来ない → 生活の質の低下

長浜市高時地区(字:大見、川合、古橋、石道、小山)の
人口推移



<地域資源>

高時地区には、日本の原風景が残っています。地域資源としては、次のようなものがあります。

※このほかにもあるかもしれません。現地で見つけてください！



<皆さんに期待すること>

若者が定住し、I・Uターンを迎えられる、将来性のある元気な地域づくりについて、提案してください。

皆さんには、「若者が定住し、I・Uターンを迎えられる、将来性のある元気な地域づくり」を目指した、高時地区の地域資源を活かした事業の提案を期待します。

この高時地区は日本の原風景が残り、自然や文化的資源に大変恵まれた地域です。急速に変化する現代、変わっていくものと変わらないもの。ぜひこの地を訪れて、地域の人も気付いていない変わっていないもの、大切に残したいものをみつけ、提示し、生かしてください。

② 滋賀県米原市

地域公共交通における福祉部局との連携プロジェクト

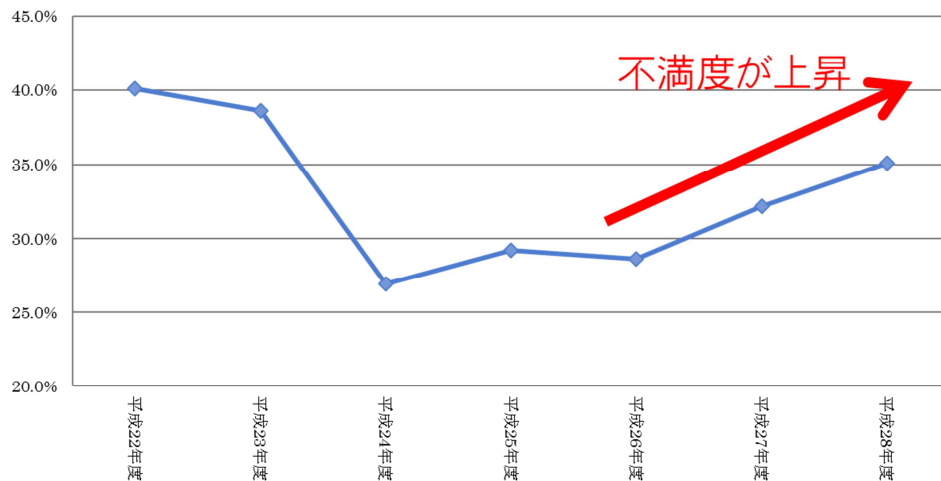
～交通弱者への切れ目ない移動手段の提供～

<背景>

1 まち・ひと・しごと米原創生総合戦略では、『駅を核として、地域と地域を結ぶステキなまちを創る』を基本目標の一つとして掲げている。実現していくためには、駅や小さな拠点と地域間等が地域公共交通で結ばれ、安心・安全かつ便利で快適に移動できる環境が必要。

※市民意識調査においては、地域公共交通に対する不満度が近年上昇傾向。

不満度

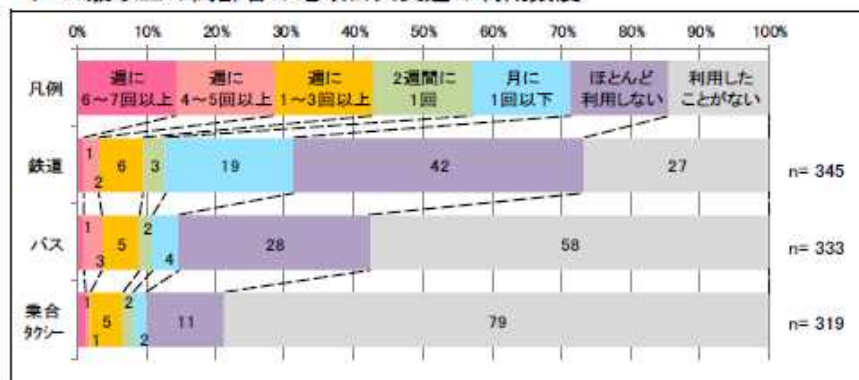


2 全国的に高齢運転者による重大な交通死亡事故が相次ぐなど、今後高齢化が進む中、自動車の運転に不安を感じる高齢者が、自家用車に依存しなくても生活の質を維持していくことが課題。

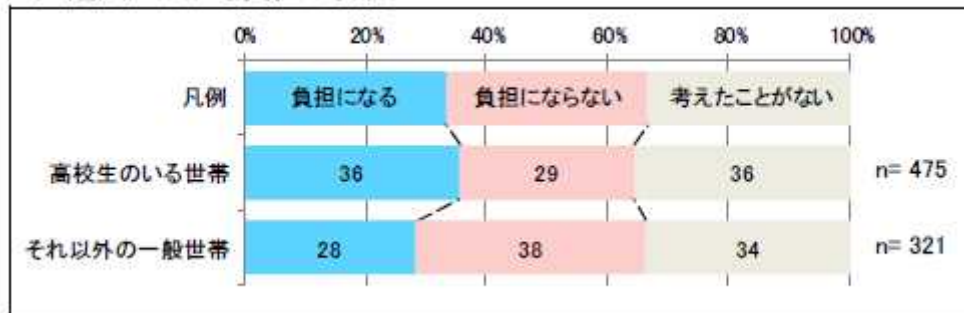
※高齢者の地域公共交通の利用は少なくマイカーまたは家族送迎に依存。

※家族送迎は家族にも負担がある。

◆ 65歳以上の高齢者の地域公共交通の利用頻度



◆ 送迎にかかる負担の状況



3 高齢者の移動に関して公共交通施策と福祉施策の連携の強化。

※介護保険制度・地域支え合いによる外出支援・福祉有償運送と地域公共交通の連携の
 いっそうの強化が必要であり、特に介護保険対象者の近辺の移動実態は不明。(施策間
 のスキマにいる高齢者等がいるのでは。)

<現在の取組>

- ・乗合タクシーを利用した外出支援
 →公共交通施策である乗合タクシーに要支援者等が乗車できるようにする取組
- ・道路運送法の許認可が不要な地域支え合いによる外出支援の取組の育成
 →公共交通施策ではカバーできない高齢者等の移動支援を地域がボランティアで提供す
 る取組

<目標>

- ・交通弱者への切れ目ない移動手段の提供
- ・質の高い移動手段の米原モデルの構築
 →地域公共交通と地域支え合い外出支援を多重的に提供し、交通弱者の移動を充実する
 ことにより、すべての市民が、安心・安全かつ便利で快適に移動できる環境を構築し、
 人口減少の克服に寄与する。

<皆さんと一緒に取り組むプログラム>

人口減少および高齢化が進むなかで、地域公共交通を維持するには？安心安全かつ便利に
 移動できる環境とは？

<現地活動> 人数：2名程度 現地活動期間：2週間程度

- ・地域公共交通の利用者、乗合タクシー事業者、地域支え合い外出支援の提供者のヒアリ
 ング
- ・地域支え合い外出支援の課題把握と要介護状態を含めた交通弱者への切れ目のない移動
 手段の提供に関する考察

- 地域公共交通利用者の属性と満足度、地域支え合い外出支援の利用者の属性と満足度、乗合タクシー事業者の実態把握、地域支え合い外出支援の提供者の実態把握を通して、課題を把握する。
- 地域公共交通を維持し、（維持するために、市民の理解を得るような効果を定量的に把握するか、）安心安全かつ便利に利用できる移動環境とは何かを考察する。
- 交通弱者への切れ目ない移動手段の提供を考察し、質の高い移動手段の米原モデルを構築する。

<スケジュール>

現地調査までに

- ・米原市の地域公共交通の把握
- ・米原市の福祉施策（移動に関すること）の把握
- ・ヒアリング内容の設計
- ・地域公共交通担当者との意見交換
- ・福祉部局担当者との意見交換

現地調査

- ・乗合タクシー事業者のヒアリング（0.5日）
- ・地域支え合い外出支援提供者のヒアリング（0.5日）
- ・乗合タクシー利用者のヒアリング（1.0日）
- ・地域支え合い外出支援利用者のヒアリング（1.0日）
- ・地域公共交通担当者との意見交換
- ・福祉部局担当者との意見交換

現地調査以後

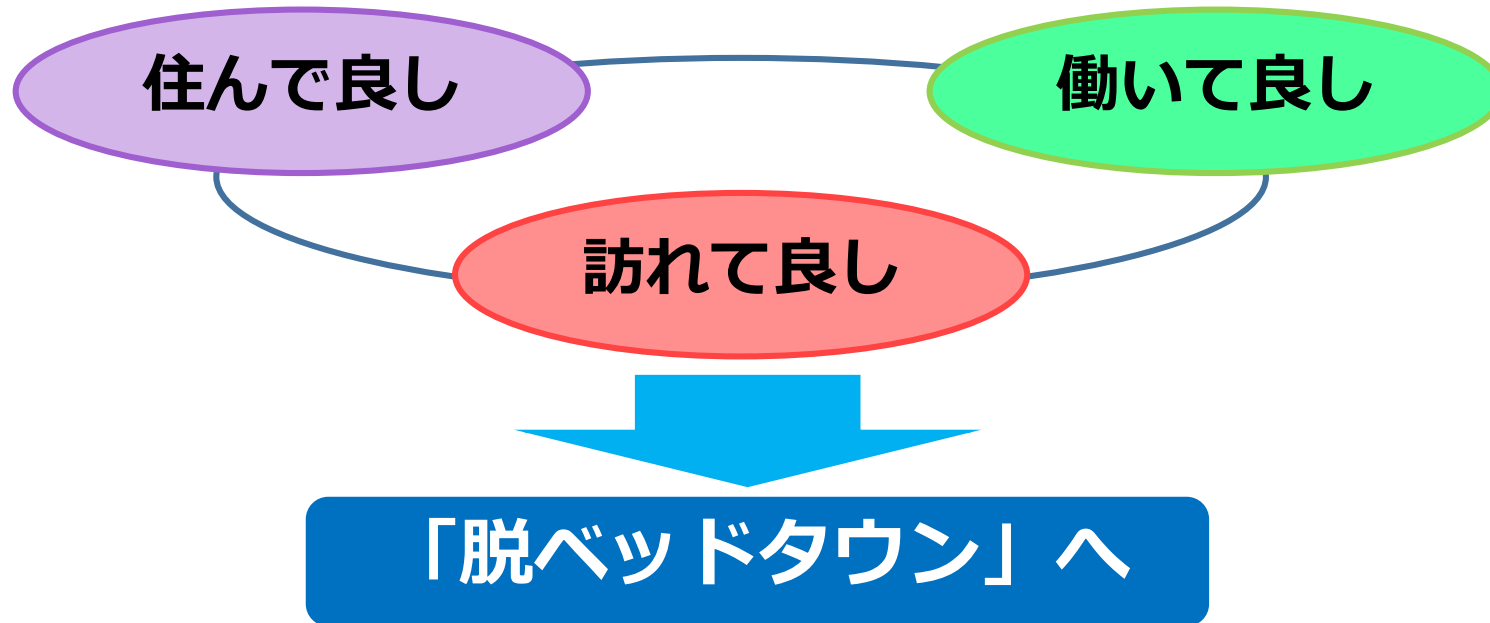
- ・考察
- ・地域公共交通担当者との意見交換
- ・福祉部局担当者との意見交換
- ・11月頃に次年度予算の仕込み

奈良県

フィールドスタディ型政策協働プログラム
オリエンテーション

2018年4月18日・19日

人口減少社会における奈良県の地方創生の考え方



- ・ 高齢化への対応。健やかに暮らせる奈良に
- ・ 女性が光り輝く奈良に
- ・ 南部・東部地域の振興

**「交流・定住の促進により、南部地域・東部地域を
頻繁に訪れてもらえる、住み続けられる地域にする」**

- ・ 若者と女性に仕事の間を

- ・ 奈良の観光を通り過ぎ型から滞在型へ

吉野川の源流域に位置する 川上村

下流域：国道沿いの集落



上流域：傾斜地に点在する集落



- ・ 県南東部に位置
- ・ 南北に国道169号線
- ・ 面積 269.26 km²
(95%が山林)
- ・ 人口 1,313人
(高齢化率 58.7%)
- ・ 26集落の多数が
支流沿いに点在

東部地区暮らしがつつく集落づくりプロジェクト



一般社団法人「**かわかみらいふ**」を設立し、
村民のスタッフが、

- ・ 移動スーパーや食品・日用品の宅配
- ・ 高齢者の声かけや見守り
- ・ コミュニティカフェ
- ・ 体操教室や巡回診療



今後の集落の基本単位（概念）
～二つの集落ネットワーク圏を想定～



29年度からは、常駐する保健師が地域へ出
向き、**健康チェック・予防相談等を行う**
「コミュニティナース」事業、さらに村唯一
のガソリンスタンドを**継業**し、生活利便と高齢
者の見守りなどの集落の点検機能の充実を図っ
ている。

コンセプト

- ★ 新たな雇用の場と村民の役割づくり、活躍の場をつくる
- ★ 村民が村民の日々の暮らしを支える共助の仕組みをつくる
- ★ 民間の活力とノウハウを活かし、事業継続と健全経営を図る

日々の暮らしの維持と
相互の支えあい

過疎地域における高齢者への住民サービス提供の実態とあり方を探る

(受入地域：奈良県川上村)

現状と課題

- ・人口：1955年をピークに、その後一貫して減少
8,132人(1955年)
→**1,313人(2015年)**
- ・高齢化率：58.7%
- ・村の東部地区には、小規模でコミュニティ維持が困難な集落が多い。

村が始めた取り組み

- ・村東部地区に暮らしを支える拠点（一般社団法人かわかみらいふ）を設置
- ・移動スーパー・宅配事業による買い物利便確保
- ・巡回診療やコミュニティナースの活動
- ・公営ガソリンスタンド事業

目 標

暮らし続けられる村づくり

今回予定している活動内容

○受入人数：2～3名

○現地活動期間：2週間程度

○活動内容：

- ・村民主体の「かわかみらいふ」を設立し事業を展開しているが、この取り組みの地域への貢献度、または費用対効果の検証
- ・村内で活動する地域おこし協力隊員との交流等を通じて、地域での生活維持に寄与するプロジェクトの企画・立案
- ・地域の住民への聞き取りやアンケート調査
- ・住民サービスに関する各地の事例収集
- ・ICTなど先進技術の活用検討 などを想定



東大生の皆さん、住み続けられる地域づくりへの提案をお待ちしています。是非、参加してください。

鳥取県

フィールドスタディ型政策協働プログラム

鳥取県はアイデアで勝負！ 「スモールイズ パワフル」

県内のどの市町村からも「天の川」が見え、環境省の全国星空継続観察で何度も**星空日本一**に！



全国人口最少、街の明かりも少ないという点を逆手にとり、2017年から「**星取県**」と銘打って、情報発信・観光誘客を展開



<県観光戦略課・星取県サイト：<http://www.pref.tottori.lg.jp/265953.htm>>

ポケストップが100以上集中、安全にポケモンGOを楽しめる砂丘で、ゲーム配信3日後にいち早く

「鳥取砂丘スナホ・ゲーム解放区」 宣言

多くのメディアで紹介され全国で話題に

鳥取砂丘にめずらしいポケモンが登場する公認イベント

2017.11月に「**Pokemon GO Safari Zone in 鳥取砂丘**」を開催

3日間で約9万人が鳥取砂丘に来場

(2016.11月の砂丘への1日あたり最高入場者数約4,800人)



<鳥取県ポケモンGOポータルサイト：<http://www.pref.tottori.lg.jp/tottorigo/>>

鳥取県はアイデアで勝負！ 「スモールイズ パワフル」

蟹取県へウェルカニ!!



「カニはいるけれど金はない」、2014年に「蟹取県」と改名宣言し、鳥取のカニ知名度UPで、冬の旅館に大勢の客が来るように！

○鳥取県のカニの5つの日本一

- ①水揚げ量
- ②消費量
- ③カニの牧場面積
- ④新鮮活がに出荷
- ⑤カニにかける思い



<ウェルカニキャンペーンサイト: <https://www.kanitoriken.jp/>>

平井知事「スタバはないけどスナバはある」

全国で最後のスタバ進出に合わせ、鳥取砂丘と地元の珈琲文化をPR「勝手にスナバキャンペーン」を実施



すなば珈琲

知事のスナバ発言を受けて鳥取駅前に誕生！



スターバックスの全店舗中、開店初日の売上が過去最高！（開店前に出来た1000人の行列も話題に）

鳥取県は暮らしやすさ全国トップクラス

【特徴的な指標】

- **都道府県幸福度ランキング 総合 第8位** (日本総合研究所調べ2016)
生活/地域部門 1位・教育/社会部門 2位・仕事/雇用部門 4位・移住幸福度 (シニア世帯) 1位

※日本総合研究所が编者となり、地域の幸福に関して可能な限り主観的な要因を除外し、国勢調査などの統計データをもとに客観的に分析・ランキングされたもの

- **子育てがしやすい環境 第1位** (地域ブランド調査2017:株式会社ブランド総合研究所)

- **通学・通勤に要する時間 第3位**

- **余暇時間 第5位**

(社会生活基本調査2011:総務省)

- **住みたい田舎ベストランキング** (田舎暮らしの本:宝島社)

鳥取県内市町が2年連続で1位を獲得!

岩美町 2016年版 **総合1位**、2017年版 **総合10位**

鳥取市 2017年版 **総合1位**、2018年版 **総合4位**

- **住みよさランキング2017** (東洋経済新報社)

安心度 鳥取県倉吉市 1位 4年連続



鳥取県で有名な鳥取市。県庁でもあり、ライフスタイルに応じて都市と田舎の双方の暮らしが楽しめる。移住者に対しての「アフターケア」も含めたきめ細かい対応と、移住者が活躍できる場の多さで、昨年の9位から一気にトップに躍り出た。

第5回 日本「住みたい田舎」ベストランキング!

総合部門 ランキング 第1位 鳥取県 鳥取市

総合点数 **78.12点**

面積 765.7km²
人口 19万1072人 (2016年10月現在)
平均気温 14.9℃

アクセス 大阪からJR鳥取線まで特急で約2時間40分。車の場合は鳥取ICまで2時間30分~3時間。
鳥取県医師会地域振興課 ☎0857-20-3184

都市と田舎が見事に共存 快適な自分暮らしができる



鳥取県の課題と取組

- 鳥取県の人口は1988年をピークに人口減少傾向が続いており、高齢化も進み生産年齢人口も減少するなど、2007年には総人口が60万人を下回っている。
- 東京圏に集中している人の流れを変えると同時に、子どもが増え「人口減少に歯止めをかける」対策と「人口減少でも持続的で活力ある地域をつくる」対策の両方を推進していく。

(1) 移住定住8千人の実現 ~2015~2019年度までの5年間でIJUターン8,000人を目指す~

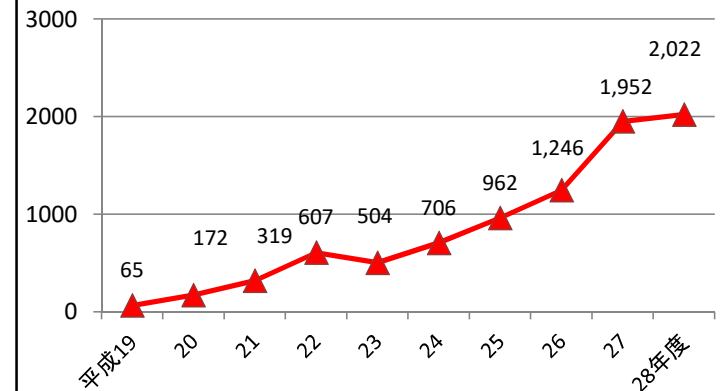
主な取組

- 相談・情報発信体制の充実
(サポートセンター設置、相談員設置、住宅バンクシステム運用)
 - 市町村の取組強化への支援
(空き家改修、お試し住宅設置等の支援、受入れ体制づくり)
- 移住者目線での支援拡充

取組成果

- 2009~2014の6年間の移住者数
4,344人 ⇒ **全国1位**
- 2015~2016までの移住者数
3,974人
(2017上期 933人, **過去最高**)

移住者数推移



くっとり移住定住ポータルサイト: <https://furusato2.tori-info.co.jp/iju/>

⇒ 生涯活躍のまち (CCRC) の推進

- [目標]・アクティブ・シニアから晩年のシニアまで、充実した生活と安心して暮らせる町をつくる。(健康寿命+地域への貢献)
- ・地域が抱える課題の解決へとつながる人材の誘致
 - ・現在お住まいの町民の方々も利益共有できる環境づくり。



鳥取県湯梨浜町では、2016年12月に「まちづくり会」を設立し、取組を推進。

鳥取県の課題と取組

(2) 少子化対策の強化 ～子育て環境日本一を目指す～

全国に先駆けた多様な取組

- 中山間地域市町村の保育料軽減(2014～)
→中山間地域へ子育て世代の呼び込み
- 保育料無償化
→第3子以降無償化 (2015～)
第1子と同時在園の第2子無償化 (所得制限あり) (2016～)
- 在宅育児への支援 (2017～)
→現金給付、現物給付、保育サービス料軽減
- こどもの医療費助成の対象者を拡充
→対象を中学生まで (2011～) から高校生まで拡充 (2016～)
- 自然を活用した特徴的な保育「森のようちえん」

全国で唯一

取組成果

- 合計特殊出生率の回復
2008年:1.43(全国17位)
→ 2016年:1.60 (全国11位)
- 4年ぶり出生数の増!
2014年:4,527人
→ 2015年:4,624人(プラス97人)

良好な子育て環境

※1 厚生労働省
※2 総務省「国勢調査」

待機児童数
0人 (年度当初)
第1位 (※1)

小児科専門医数
132.0人 (対10万人)
第1位 (※1)

産科・婦人科専門医
57.1人 (対10万人)
第1位 (※1)

女性就業率
50.9%
第5位 (※2)

東大生と共に取り組む政策プログラム①

(生涯活躍のまちづくりへの提案と多世代を呼び込むための地域の魅力の情報発信)

【活動地域】 鳥取県湯梨浜町

【目 標】 生涯活躍のまちづくりの提案とアクティブシニアを含む多世代を呼び込むための地域の魅力の情報発信

【活動内容】

- 若い世代の視点による湯梨浜の地域資源の点検、地元住民、移住検討者のニーズ把握・分析
- 大都市の移住希望者への情報発信の検討・効果の測定、移住に結びつけるための企画支援
- 移住に結びつけるための具体的な働き方、仕事の組み合わせ方提案
- 生涯学習を軸とした、個々が生涯活躍できる交流メニューづくり
- 町内に設置される各拠点を結びつける交通ネットワークなどの仕組みや各拠点の活用方法の提案
- 松崎駅前拠点施設の黒字化に向けた事業企画提案 など

【滞在期間の想定】 2週間～1ヶ月(応相談)

【参 考】 湯梨浜町のCCRC

http://www.pref.tottori.lg.jp/secure/1039980/moderupuran_yurihama.pdf

生涯活躍のまち実現に向けた重点課題のイメージ



東大生と共に取り組む政策プログラム②

(湯梨浜町の魅力を最大限に伝え、交流人口・入込客を増やす仕組みづくり)

【活動地域】 鳥取県湯梨浜町

【目 標】 湯梨浜町の魅力を効果的に伝え交流人口・入込客を増やすための提案

【活動内容】

○新たな地域資源の発見や、湯梨浜町の地域資源を活かした新たな着地型観光商品の提案

○湯梨浜町にある地域資源の魅力を伝える効果的なPR方法の提案 など

地域資源 : 湯梨浜が発祥のスポーツグラウンド・ゴルフ、

日本初の公認コースとして認められたノルディックウォーク、

東洋一の梨選果場見学、東郷湖・日本海を望む山陰随一の梅溪散策

滝床料理、倭文神社等

【滞在期間の想定】 2週間～1か月(応相談)

【参 考】 町観光協会

<http://www.yurihama-kankou.jp/>

本町のグラウンド・ゴルフの取組み

<http://www.yurihama.jp/soshiki/7/8207.html>



湯梨浜町をモデルとした生涯活躍のまちのイメージ

- ・アクティブ・シニアから晩年のシニアまで、充実した生活と安心して暮らせる町をつくる。(健康寿命+地域への貢献)
- ・地域が抱える課題の解決へとつながる人材の誘致
- ・現在お住まいの町民の方々も利益共有できる環境づくり。

ハワイ信生苑
グループホーム信生ゆりはまの里
はわいグループホームあずま園
シニアコートゆりはま
アロハデイサービスセンターあずま等



ノルディックウォーキング

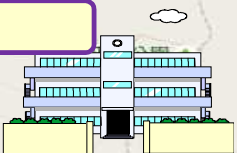


住環境
・高齢者住宅の整備
・町営住宅建替えによる多世代集住地域 など

継続的なケアの提供

藤井政雄記念病院
倉吉病院 等

Googleマップを加工



アクティブシニアの大学の利用・指導と交流

鳥取短期大学
鳥取看護大学



羽合エリア



中央公民館羽合分館



はわい温泉

松崎地区
町営住宅

町立中央公民館

湯梨浜町役場
東郷支所



海水浴



マリンスポーツ

各エリアをネットワーク化



東郷エリア

松崎駅前
拠点施設

ル・サンテリオン東郷
ガーデンハウス野花

和菓子屋、語学教室、
婚活機能等シニアの活躍の場

まちの保健室出張所



仕事情報、活動情報の提供機能



スーパー

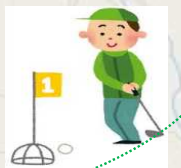
コミュニティ拠点
※東郷地区、羽合地区など複数候補地

泊エリア



湯梨浜町役場
泊支所
中央公民館
泊分館

グラウンドゴルフ



鉢伏山

東大生への知事からのメッセージ

- 小さくても勝てる。人口最少県だからこそ、鳥取県にできる事があるはず。そんな信念で改革をリードします。
- 中山間地の保育料無料化や都市部も含めた第3子無料化に加え、昨年度から在宅での保育にも7割の自治体が支援金を導入するなど、少子化対策に切り込み、出生率は1.60に急成長。28年度は人口最少県ながら移住者2千人を越え、全国トップクラスを記録しています。
- 全国で初めて手話言語条例を制定した波は全国各地へ広がり、県内に就職する学生には奨学金返還免除制度を全国に先駆けて導入しました。
- ぜひ鳥取でとびっきりの挑戦をして下さい。

「過疎最先端の島根」と“ご縁”を結びませんか

昭和30年(1955年)92.9万人あった県人口が
平成27年(2015年)に69.4万人に
この間に人口の約1/4が減少

平成4年には死亡者数が出生者数を上回る「自然減」の状況
平成7年国勢調査において、老年人口と年少人口の割合が逆転

“過疎最先端の島根”は早くから定住や地域づくりに取組んできました



面白い話題

- 合計特殊出生数1.75で**全国2位**(H28)
- 平成27年と平成22年の国勢調査結果の比較で20代から40代の人口が島根県は**1.5%の増加**。
平成7年から5年ごとの国勢調査の結果比較でも、僅かであるが連続でプラスとなっている。**特に離島中山間地域で増加**

“過疎最先端の島根”の中でも“先進の取組市町”である
『雲南市』と『邑南町』を、自信を持ってご提案します

幸運なんです。
雲南です。

平成30年度フィールドスタディ型政策協働プログラム 課題

「雲南コミュニティキャンパス (U.C.C) プロジェクト」への参画
～地方創生最先端で地域の未来を切り開く現場にチャレンジしてみませんか?～

うんなんし

(平成27年国勢調査)

島根県 雲南市

○ 人口 **39,092人**

○ 高齢化率 **36.5%**

(平成22年:41,917人)

(平成22年:32.9%)

雲南市は“チャレンジの連鎖”により持続可能なまちづくりに挑戦しています

中学生・高校生の**チャレンジ**

意欲ある大学生の**チャレンジ**



地域に飛び出し、多様性を学ぶ

地域の未来をつくる若者**チャレンジ**



ひろがる“志ある若者”のネットワーク



地域の現場で、社会で役立つ力をつける

見えてきた成果

地域課題解決に対してアクションしたことのある高校3年生の割合

平成27年 50% ▶ 平成28年 68%

U.C.C事業参加をきっかけに市内活動に複数回参画した大学生の割合

平成27年 26% ▶ 平成28年 45%

地域課題解決へチャレンジしようとした若者の人数

平成27年 18名 ▶ 平成28年 20名

幸運なんです。

雲南です。

平成30年度フィールドスタディ型政策協働プログラム 課題

「雲南コミュニティキャンパス (U.C.C) プロジェクト」への参画

～地方創生最先端で地域の未来を切り開く現場にチャレンジしてみませんか?～

活動地域 = 雲南市全域

ミッション: 大学生のインターンシップをコーディネートせよ!!

雲南市の地方創生における大学生人材育成事業「雲南コミュニティキャンパス(U.C.C)プロジェクト」事務局の**“右腕”**として、市内NPO等と連携を図りながら全国の大学生が雲南市でチャレンジするためのコーディネートを行って頂きます。

【業務内容】

- ・地域運営組織、地域企業、大学機関との調整
- ・大学生の学びを最大化するためのワークショップの企画・実施
- ・インターンシップ中の大学生への伴走支援・メンタリング
- ・大学生を呼び込むための広報、情報発信

【求める成果】

- ・U.C.C事業の推進・改善に向け、事業分析と報告書の作成

年間のスケジュール:

6月 | 7月 8月 9月 | 10月 11月 | 12月 1月 2月 | 3月

6/9-10
事前合宿

インターンシップ参加者に対しての
伴走・メンタリング等の活動支援

次年度企画作成

中高生・大学生対象
実践型プログラム支援

報告書
作成



NPO等に
インターンシップ
する大学生を支援

大学生向け
イベント実施



『地区別戦略』の現場から、地域の持続可能性を探る

～住民主体で地域の未来を考え動く。地方創生の最先端へ～

しまねけん おおちぐん おおなんちよう
島根県 邑智郡 邑南町

過疎・高齢化に直面する地域に入り、クラウドファンディングを活用して、持続可能な地域運営に挑戦してください。

○ 人口 11,005人

高齢化率 43%

(65歳以上)

(2017年12月31日現在 住民基本台帳)

現場で必要とされていること：

「持続可能な地域運営体制の構築」

地域を担う『人材』『資金』の確保

○ 人口推移 10年で

13%(1,907人)減少

(国勢調査 2000年 13,866人、

2010年 11,959人)

学生に期待すること：

地域の“価値”を探り、カタチにする

地域の“価値”を『人材』『資金』に繋げる

結果として求めること：

クラウドファンディングの実施と結果の分析

持続可能な地域運営に必要な活動の提案

年間のスケジュール：

6月 7月

| 8月

9月

| 10月

11月

12月

| 1月

2月

| 3月

事前調査

| 現地調査

地域プレゼン

| クラウドファンディング実施

| 結果分析(企画実施)

| 報告会

『地区別戦略』の現場から、地域の持続可能性を探る

～住民主体で地域の未来を考え動く。地方創生の最先端へ～

おおなん

ひわ

邑南町

日和地区

○ 人口 427人

世帯 180世帯

高齢化率 **44.5%**

(65歳以上割合)

(2017年12月31日現在 住民基本台帳)

○ 人口推移

10年で14%(74人)減少

(国勢調査 2000年 503人、2010年 429人)

具体的な活動：

1. 住民と交流し、地域の現状や想いを聞き取る
2. 地域を持続するために必要なものについて、企画提案する
3. 地域の“価値”を活かした企画について、クラウドファンディングを実施する
4. クラウドファンディングの結果を分析し、日和地区の今後の地域運営に関する活動提案を行う

日和地区の魅力と強み：

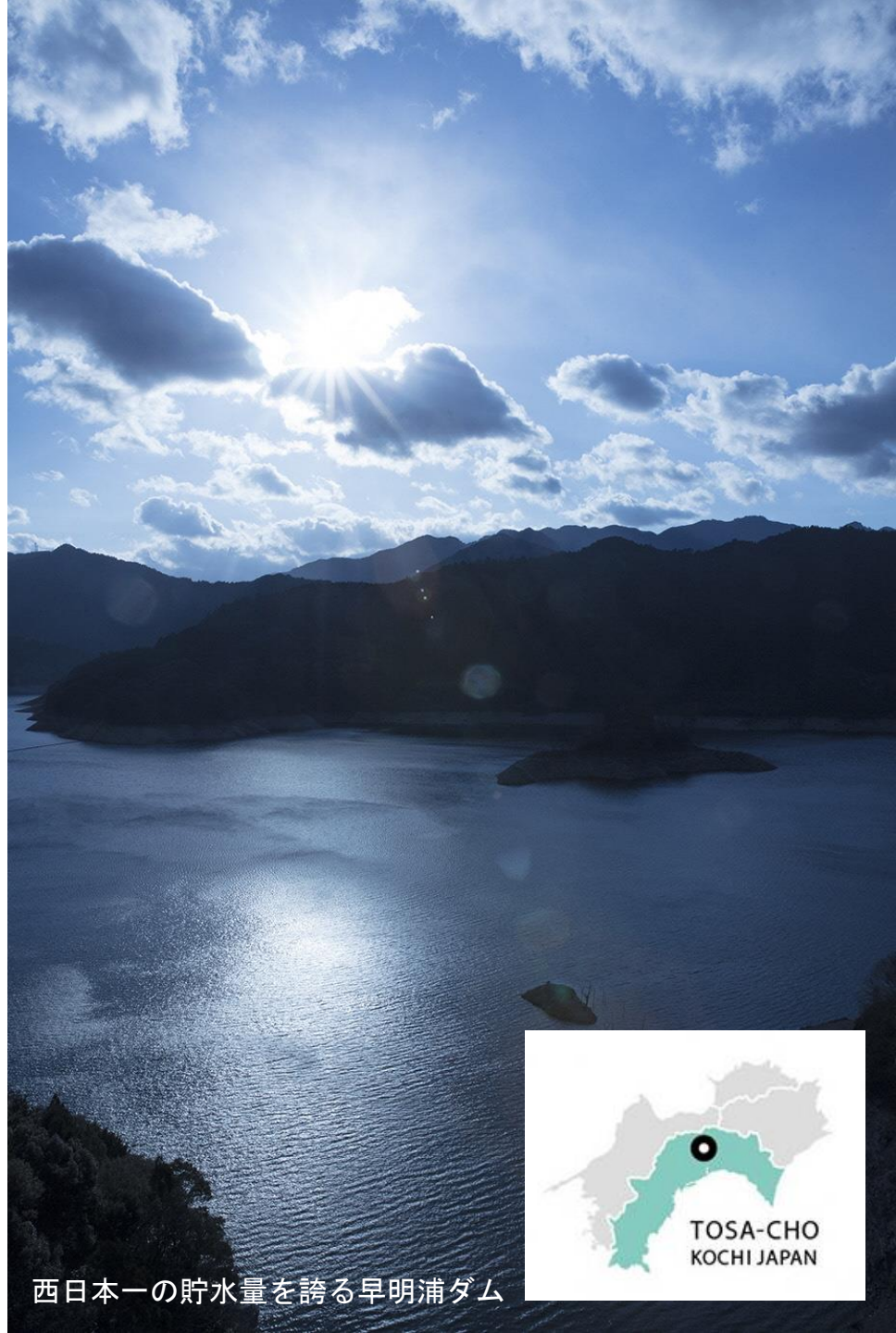
- ・人口約400人の「顔と名前が分かるコミュニティ」
- ・保育所、小学校が廃校になり、**人口減少に対する危機感がある**
- ・新しい地域のお祭り「騒祭（そうづきんさい）」が開催され、地域総出の地域活性化に向けて動きだしている
- ・地域のこれからについて話し合う場がある
- ・**何もないから何でもできる**、「やってみんさい」の精神がある

クラウドファンディングの内容について、学生のアイディアを最大限に尊重します。



高知県・土佐町は、四国のちょうど真ん中あたりに位置し、日本三大河川・吉野川の源流流域にある美しい自然に囲まれた町です。

人口は約4,000人。豊かな自然環境を活かした農・畜・林業が盛んなほか、生活インフラや子育て環境の充実にも積極的に取り組み、高知県内でも移住者の多い地域です。



西日本一の貯水量を誇る早明浦ダム



土佐町で学びの文化をつむぐプログラムの企画提案

NPO法人SOMA（ソマ）のインターンシップとして、人口4000人の町で、「だれでも、いつでも、なんでも」学べる学びの文化の醸成を目指す。コーネル大学やスタンフォード大学出身者とともに、既存のシステムの外側の教育プログラムや、町と大学が本質的に連携した持続可能かつ発展型の学びのプログラムの企画立案と実施。



活動地域	高知県土佐町
活動内容	NPO法人SOMAのインターンシップとして、地域の人材育成事業および「町の学舎 あこ」の運営などに携わり、SOMAのスタッフや地域住民等との対話を通じて地域特性の深い理解に基づいた学びの機会の創造をSOMAと共に進め、東京大学が有する先端の専門知を地域に効果的かつ持続的に還元する方策を検討・実施する。
滞在期間	SOMAからの遠隔授業による事前学習→8月20日～9月20日の4週間程度の研修→研修後、学びのプログラムの企画立案（SOMA遠隔参加）→11月に土佐町にてプログラムの提案
目標	東京大学と土佐町をつなぐ学びのプログラムの企画提案
備考	受け入れは最大5名まで可能。 NPO法人SOMA Webサイト https://nposoma.org



2017年度 地域の未来を担う人材育成事業 事業実績書

平成30年3月31日
特定非営利活動法人SOMA
代表理事 瀬戸昌宣

- ① 【項目】 てらこ屋事業
【場所】 あこ
【参加人数】 4148人
【期間】 6/1-7/13,9/11-3/30
【内容】

老若男女問わず、全世代が様々な学びに接することができる場を提供する事業。時間、資源に制限のある環境の中で「自分の興味に従って、自由に学び浸る」事のできる場を目指し、運営。小中高校生のための放課後、自由に利用ができるコワーキング・コスタディスペースとして学校教育に関する勉強はもちろん、学校では学ぶことができない学びのプロデュースを行った。座談会等を通じ、社会人と共に学ぶ機会も創出した。将来像をより具体的に描く事にも繋がり、各分野を幅広く教授できる講師陣の常駐が、学びで足踏みをしなくてすむ環境を提供できた。

- ② 【項目】 コワーキングスペース事業
【場所】 あこ
【参加人数】 312人
【期間】 6/1-7/13,9/11-3/30
【内容】

町内には開かれたコワーキングスペースがなく、異分野交流、特定のプロジェクトに没入できるようなスペースがない。そうした環境下、一人での作業はもとより、複数人での会議をしながらの作業を可能にし、ホワイトボードやポストイットを使ったワークショップも手軽にできる環境を提供した。また、利用者の起業やビジネスアイデアの実現のために、利用者間での技術や能力のマッチングの機会も提供した。

- ③ 【項目】 土佐町座談会
【場所】 あこ,他周辺施設
【参加人数】
【期間】 全13回実施
【内容】

様々な分野で活躍するトップランナーを招いて、講演会形式の座談会を行った。普段は触れることのできない生き方をする人々に触れる中で、学生も社会人も新たな生き方の示唆を得ることを可能にした。地域の学校とも協働し、登壇者を学校に招いて、学生と直に触れられる時間も創出できた。

- ④ 【項目】 土佐町マイプロジェクト
【場所】 あこ,他
【参加人数】
【期間】 逐次
【内容】

土佐町マイプロジェクト：マイプロジェクトとは、自らの人生を振り返って、自分の本当にやりたいことを見つけ、それを自分たちだけのプロジェクトとして実行する仕組みである。自己肯定、自己実現、地域課題の解決と教育機会を結ぶ学びの形を提供した。自らの思いや夢を安心安全に語れる場所をオーガナイズし、学生のみならず、20～40代の地域の若手がライフスタイルを考え、話し合える機会を提供した。

- ⑤ 【項目】 土佐町アイデアソン
【場所】 あこ,他
【参加人数】
【期間】
【内容】

土佐町アイデアソン：「アイデアソン (Ideathon)」は、アイデア (Idea) とマラソン (Marathon) を掛け合わせた造語で、ある特定のテーマについて多様性のあるメンバーが集ま

り、対話を通じて、新たなアイデア創出やアクションプラン、ビジネスモデルの構築などを短期間で行うイベントのことを指す。未来を語るアイデアソンと題し、こちらから町内の各地区に向く形でアイデアソンも実施した。

- ⑥ 【項目】 学校教育支援事業
【場所】 土佐町小中学校,嶺北高校
【参加人数】
【期間】
【内容】

学校教育支援事業：学習指導要領の縛りの中、学校現場がこれに柔軟に対応することが難しい分野に関し、その補完機能を担う形で活動を行った。嶺北高校における魅力化プラットフォームの立ち上げ、自主活動におけるその補助、小中学校においては、英検指導等、英語学習を中心に事業を実施してきた。

- ⑦ 【項目】 遠隔授業事業
【場所】 あこ,他（遠隔配信地等）
【参加人数】
【期間】
【内容】

座談会等のイベントを土佐町の遠隔地へ配信する環境の整備、技術指導を行うとともに、他地域のイベントのあこでの受信、参加など、ICT機器を活用し、地理的な制約のある土佐町の中で、新たな学びの空間を創出する事を目的として、事業を展開した。また土佐町小学校では、オーストラリアの小学校との遠隔でのコミュニケーション授業も実施した。

- ⑧ 【項目】 教育コンサルティング
【場所】 あこ,他
【参加人数】
【期間】
【内容】

教育コンサルティング：町の学生、個人、親子、事業体、団体、ワーキンググループなどが学びの場や機会を必要とする際に、その場作りの提案や、ミーティングなどのファシリテーションを行った。異なる視点で、より高度な知識の観点から提案を行うことで、その学びを促進することにつながった。また、町内では教育機会の確保が難しいものに関して（留学や特定職種でのインターンシップなど）は費用の助成なども行った。

てらこ屋事業 実施報告

特定非営利活動法人SOMA
代表理事 瀬戸昌宣

【概要】

期間：6/1~7/13,9/11~3/30

利用者数：のべ4148人（うち高校生284人,中学生869人）



【所感】

6月1日から7月13日にかけてのプレオープン期間中は、嶺北高校の期末試験期間中を中心に利用者の増加が見られた。成績の向上が見られたこともさることながら、短期間であったにも関わらず、教え合う事や、ともに学ぶ事など、その学びの姿勢に大きな変化が見られた。

9月の本格オープンからは、土佐町小中学校の生徒による利用が飛躍的に増加した。中学校の試験期間中は、中学生の一日あたりの利用者数が、30名を超える日もあった。また、施設の周知も進んでおり、高齢者等を中心に、パソコン・スマートフォンの使い方等を学びに学生以外の利用者の増加も見られるなど、学びの文化の醸成に寄与できていると考える。

既記の通り、中高生問わず試験期間を中心に教え合う姿が散見される他、質問の仕方にも変化が見られるなど（以前:答えを聞くための質問,“受動的な問い”→昨今:なぜこの答えになるのか、ここで問われているのはどういう意味なのか等々,“主体的な問い/学び”）、学びの質に関しては明確に変化が伺える。

また、あこに常駐するスタッフの得意分野/特性などの周知も進んでおり、学生各人がそれぞれの興味に応じて、それを利用できる環境が構築できていると考える。

コワーキングスペース事業 実施報告

特定非営利活動法人SOMA
代表理事 瀬戸昌宣

【概要】

期間：6/1-7/13,9/11-3/30

利用者数：309人

【所感】

これまで町内には開かれたコワーキングスペースがなく、異分野交流や特定のプロジェクトに没入できるようなスペースがなかったことから、自営業者や、デザイナー、ブロガーなどを中心に一定数の利用をいただき、好評をいただいている。会議スペースとしての活用も見られ、小中高校のPTA、行政機関職員等にも活用をいただいている。

また、子育て世代の母親らによる利用もあり、より緩やかな利用形態としてのコミュニティスペースとしても認知度の高まりがある。

専門的な職務に従事する大人が仕事をする傍らで、学生が勉強している様子が恒常的に見られ、そうした大人の発言、立ち居振る舞いなどを学生が自ずから学ぶ事にも繋がり、てらこ屋事業との相乗効果も認められる。

小型のプロジェクト、ホワイトボード等を設置した事から、今後もコワーキングスペースとしてのさらなる利用が見込まれる。



プレオープン直後から会議スペースとしての利用が継続的にある。



勉強に励む学生の傍ら、子育ての話などをする母親の姿も。

土佐町座談会 実施報告

特定非営利活動法人SOMA
代表理事 瀬戸昌宣

【概要】

全13回を実施。様々な分野で活躍するトップランナーを招いて、講演会形式の座談会を実施した。一部の座談会では学校とも協働し、登壇者を学校に招き、学生と直に触れられる時間を創出することもできた。

a. 【上映会「かすかな光へ」】※独自事業

- ・実施日：7/1
- ・参加人数：39名
- ・実施概要：教育研究者大田堯氏を追った映画を題材に、保護者ら地域の方々に「教育」についての理解の促進、深化を図った。
- ・所感：保護者を中心に多くの参加があった。法人設立直後という事もあり、SOMA各メンバーの簡単な紹介もした。SOMAの事業を進めるにあたり「教育」そのものを問う機会を創出できた事については良い機会を提供できた事と考える。

1. 【座談会（早川克美教授）】

- ・実施日：7/13
- ・参加人数：40名
- ・実施概要：京都造形芸術大学より早川克美教授（デザイナー,芸術教養学科学科長）をお招きし、実施した。改修工事前のあこを題材に、空間デザインについて考えるとともに、あこに追加したい機能や、物について考えてもらった。
- ・所感：SOMAの目指すデザイン力の開発に寄与するとともに、あこを題材にする事により、当事者意識の醸成も図ることができた。



2.【座談会（森田真生氏）】

- ・実施日：8/15
- ・参加人数：42名
- ・実施概要：森田真生氏（独立研究者,平成28年度小林秀雄賞『数学する身体』）を講師にお招きし実施。数学する愉しみや、数学することの意味についてお話していただくことで、実際に日々数学という学問に向き合う学生のみならず、その保護者やその上の世代に向けても、「数学する」という事についての意識の醸成を図った。
- ・所感：プレオープン中にあこに来ていた高校生らの参加も見られ、これまで学校の「勉強」や、試験対策という枠組みのなかで数学に処してきた学生たちにとっても、多面的に「数学」という学問を捉え直すという意味において良いきっかけづくりになったと考える。



b.【ドローン講習会】※独自事業

- ・実施日：8/27
- ・参加人数：20名
- ・実施概要：西脇資哲氏（日本マイクロソフト株式会社業務執行役員,ドローンエヴァンジェリスト）を講師にお迎えし、実施。ドローンの操縦技術を学んだ。
- ・所感：中高校生、役場職員など、幅広い層の参加があった。最新技術にふれるとともに、講習会では、西脇氏より、「ドローンのある未来」についてお話を伺うことができ、高校生含め、そうした近未来の社会/土佐町の実像を考える良い契機となった。講習会の終了後には、参加者が実際にドローンの購入を検討する様子が見られるなど、大きな刺激を与える事出来た。



3.【座談会（早川克美教授）】

・実施日：9/28

・参加人数：47名

・実施概要：早川克美教授（前述）をお招きし、あこを題材に空間デザインを考える座談会の二回目を実施した。色をテーマに、それぞれの人生経験の中の“色”を問いながら、それぞれにとってどんな色が心地よいと感じるのかなど、その認識などについても考察する講演となった。

・所感：あこという場の位置付けとして、常に変化する場であるというところにそのひとつがある。その意味で、利用者全てが、あこの場作りについて主体的かつ能動的に処する姿勢を喚起する上で、各人それぞれの“色”を知り、表現する事はその一助になったのではないかと考える。



4.【映画みんなの学校/上映会（真鍋俊永氏,木村泰子氏）】

・実施日：10/1

・参加人数：60名

・実施概要

先進的な取り組みをすすめる大阪の大空小学校をテーマにした映画みんなの学校の上映会を行うとともに、同校の校長をつとめた木村泰子氏、並びに取材、撮影を行った真鍋氏に副代表鈴木大裕を交え、講演、トークセッションを行った。

・所感

インクルーシブ教育（障害のある生徒や、その他心身に問題を抱える生徒を、完全に特別支援学級などに移すのではなく普通学級の枠組みの中で育むことを目指すもの）を実践した木村氏のお話は、そうした概念をとりまく混濁した観念とは関係ないところにあるもので、実践家の立場から、現代の公教育において何が不足しているのかを明確に提示していただく事ができた。教育に直接関係するものも、そうでないものも、「教育」というものを学校という隔絶された場所におくのではなく、それぞれが当事者意識を持って（必ずしも教育一般に限らず）、社会のさまざまな分野において関係性を構築していくことの必要を説いていただけと事の意義は極めて大きかったものとする。



5. 【座談会（タムラカイ氏）】

・実施日：11/10

・参加人数：26名

・実施概要：タムラカイ氏（富士通デザイン株式会社,グラフィックカタリスト）を講師にお招きし、主としてキャリア論について講演会を実施。

・所感：自身大企業に所属しながら、描くという事を通じてキャリアを形成してきた講師のお話には、世代を問わず多くの方々が熱心に耳を傾けていた印象である。特にこれから進路を決定する学生に向けては大きな刺激になった事と考える。後述するエモグラフィの技術についてもお話をいただき、自身のキャリアを形成していく手段、判断の基準として、「感情描く」という手法を学んだ事は、参加者の今後のキャリア形成にとっても大きく寄与するところがあったと考える。



6. 【ワークショップ (タムラカイ氏)】

・実施日：11/11

・参加人数：24名

・実施概要：前日の講演に引き続き、タムラカイ氏を講師として実施。現代では、キャリアや人生設計を考える上で、合理的にそれを設計していく事がその主眼であるように思われているが、そうした習慣から視点を変え、「感情を描く」エモグラフィという手法を導入することにより、より自らの人生や、各人の思いにそって、自らの人生を考えていくことを目指した。

・所感：前日に引き続き学生の参加も見られ、そうした参加者の目標設定といった意味でも大きく寄与できたと考えられる。学生含め、あこを利用する方々の思いに応接する機会が形作れたことは、運営側にとっても大きな意義があった。



c. 【小学生向けプログラミング教室】※独自事業

・実施日：11/26

・参加人数：18名

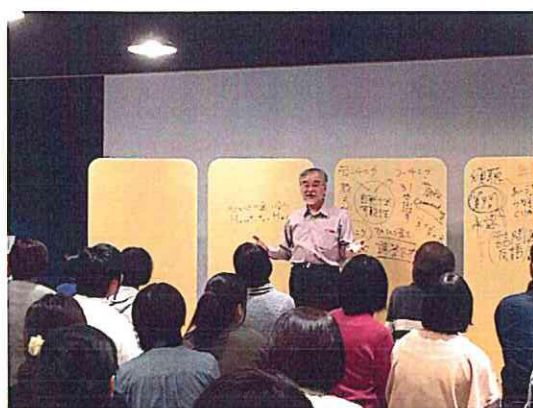
・実施概要：講師に西日本電信電話株式会社の有馬氏、松浦氏を招き実施。“ozobot”というプログラミング学習用機材を使用し、低学年向け及び高学年向けの講座をそれぞれ実施。

・所感：“ozobot”は、複雑なプログラミング言語等を用いることなく、逐次、分岐、繰り返しといった、プログラミングの基礎を学ぶことができ、またデータ上ではなく、実際にロボットがその指令に従って、動く様子が見れる事から、参加した小学生の没入度にも深いものがあった。中には、こちらの意図を超えて、自ら構築したプログラムにそって“ozobot”を動かしている参加者も見られ、その創造力の開花、或いは発露に大きく寄与できたと考える。



7.8.【座談会（本間正人教授）】※コーチング,英語学習の二回を同日開催。

- ・実施日：12/2
- ・参加人数：計56名
- ・実施概要：本間正人先生（京都造形芸術大学教授,同副学長）を講師にお招きし、実施。2022年の小学校での英語学習必修化など、今後ますます外国語教育への関心が高まるなかにあつて、その学習法や、それを教える上でのコーチング技術について、保護者、教員等（教員研修の枠組みで、多くの教員の皆様にもご参加をいただいた。）の理解を醸成する事を目指した。
- ・所感：あこのオープンから半年（プレオープン期間含む）にもあたり、「学び」とは何かを改めて問い、各々がその再定義をできる場となった事には大きな意義があつた。英語の学習法もさることながら、「学び」をコーチングという概念から問い直すことにより、学びが主体的かつ、よりその各人の人生設計の上で実践的なものとなつてゆくことに寄与できたと考える。



9.【座談会（小国士朗）】

- ・実施日：12/5
 - ・参加人数：85名
 - ・実施概要：小国士朗氏（NHKデレクター,注文を間違える料理店発起人）を講師にお招きし、実施。注文の多い料理店（認知症の方々がウェイトを勤める料理店）の発起人であることから、そのような寛容な雰囲気如何に醸成していくかなどについてお話しをいただいた。当時は、社会福祉協議会の協力もあり、普段とは異なつた層の参加も多く見られた。
 - ・所感：注文の多い料理店という場がどのような雰囲気であつたかを学ぶ事は、それ自体現代社会や、各人の生き方といったものを再考する契機となつたと考える。小国氏には、あこの持つ雰囲気についてもお話をいただき、それが注文の多い料理店の目指した価値にも類似するところがあつたとお話をいただいた。この事は、参加者や運営にとつても、あこという場の目指すものについて再認識を促すことにもつながつたと考える。
- また、今まであこを訪れたことのない層の参加が多くあつたこともまた大きな収穫であつた。



d.【知財セミナー】※独自事業

・実施日：1/12

・参加人数：

・実施概要：高知県/日本弁理士会事業（知財・商標に関するセミナー）をあこにて実施した。知財や商標といった、普段馴染みのないものが如何に社会において重要視され、地方創生といった文脈においても必要不可欠な知見である事をお話いただいた。

・所感：普段からそういった商品開発、観光というに携わる方々にとっては、知識の醸成、付与に寄与するとともに、居合わせた中学生らにとっても、そうした社会的なしくみの成り立ち、弁理士というキャリアについてよい学びになったと考える。

10.【落語会（福々亭熊助）】

・実施日：1/18

・参加人数：73名

・実施概要：アマチュア落語家の福々亭熊助さんをお招きし、落語会を開催。落語という話芸を通じての表現力について「学ぶ」とともにあこの認知向上なども目指した。

・所感：いままでと趣向を変えた会であったこともあり、いままであこに来たことのない方々も含め多くの参加があったことは収穫であった。次回以降、プロの落語家を招いての、落語会も決定しており、今後も継続的にこうした会の開催も行っていきたい。



e. 【高知大学公開講座】 ※独自事業

- ・実施日：1/25
- ・参加人数：10名
- ・実施概要：高知大学による公開講座（音楽/作曲）をあこにて実施した。
- ・所感：作曲の技法を学ぶとともに、普段生活の中で触れている音が、どのように構成されているかなど、認識についても学ぶ契機になった。

11. 【座談会（新田理恵氏）】

- ・実施日：1/31
- ・参加人数：36名
- ・実施概要：新田理恵氏（tabel代表,食卓研究家）をお招きし、実施。伝統茶を題材に、食卓から自身の健康、生活を捉え直してゆくことの意義などについて講演を行っていただいた。
- ・所感：健康がテーマのひとつであったことから幅広い層の参加があった。一つの価値観に偏りがちの食や健康について、様々な観点からお話をいただいたことには大きな意義があったと考える。また、今回の座談会ではお茶の試飲という試みも実施したが、石原地区や、海士町といった遠隔配信地にも協力をいただき、同じお茶の試飲をしてもらうなど、食という身体的な経験を共有することによる、遠隔地との価値の共有という新たな可能性を探ることができたことも大きな収穫になった。



f. 【ミニ座談会（中込考規氏）】 ※独自事業

- ・実施日：2/21
- ・参加人数：17名
- ・実施概要：中込考規氏（ダンサー,元ベネッセコーポレーション）を招き、「好きなこと」を通じて世界を巡る事についてお話をいただいた。途中留学中の嶺北高校生とも遠隔でトークセッションを実施した。また、中込氏には嶺北高校でも講演を行っていただいた。
- ・所感：嶺北高校での講演も併催した事から、夜のあこでの講演にも、多くの嶺北高校生が参加することにつながった。自身英語が不得意であったという中込氏の話から、現在英語学習に抵抗感を感じている学生に向けても、改めてその学習意欲を喚起することにもつながったと考える。



12.【座談会（廣瀬幸雄氏）】

・実施日：2/22

・参加人数：82名

・実施概要：廣瀬幸雄氏（金沢大学教授、イグノーベル賞受賞者『ハトに嫌われた銅像の研究』）をお招きし、実施。「学びとムダ」と題し、汎く学び一般について考える講演を行っていただいた。また、同様の講演を土佐町中学校でも行っていただいた。

・所感：自身の幼少期の経験が、現在の学びや、研究に直結しているという氏のお話は、学生に向けて、実生活上の経験を大切にすることや、観察力を磨くことの必要性を認識させるとともに、その保護者世代に向けては、子どもの行動の、その一つ一つが学びの契機となりうるのだということを知ることができた。また、氏の学びに向かう姿勢からは、学問する事の楽しみというより本質的な部分についても参加者にとって得るものが多くあったのではと考える。



g.【大西正泰氏講演（遠隔受信）】※独自事業

・実施日：2/23

・参加人数：14名

・実施概要：大西正泰氏（地域再生コンサルタント,一般社団法人ソシオデザイン代表）による講演をあこにて受信（海士町,久米島を含む三拠点開催）。「街づくり」や、「地域活性」一般に対する再考をテーマに、お話をいただいた。

・所感：観念論で語られやすい「地域」に関する諸問題について、あらゆる視点から、再考する必要性を、海士町や久米島といった、複数の地域とともに共有し、考察できたことには大きな意義があったと考える。



13.【座談会（瀬戸蘭美氏）】

・実施日：3/20

・参加人数：15名

・実施概要：瀬戸蘭美氏（奈良女子大学助教）をお招きし、実施。氏の開発したボードゲーム『がちかん』を題材に、多角的な視点から、環境問題一般について参加者全員で考察するとともに、同テーマについて瀬戸氏より講演を行っていただいた。

・所感：環境問題を為政者の立場になって考える『がちかん』をつかった今回の座談会は、これまで抽象論や、観念論で語られがちであった環境問題について、より実際的な立場からこれら諸問題を捉え直すという意味においてよい教材であったと考える。



土佐町マイプロジェクト 実施報告

特定非営利活動法人SOMA
代表理事 瀬戸昌宣

【概要】

期間：6/1～3/30の間、適宜

利用者数：117名



【所感】

レギュラー参加者は中学生5名、高校生10名のうち3～5名程度が常であった。1回二時間程度で、計74時間実施した。自らの進路を考え、それについて思いを語るなかで、お互いの差異を理解し、それに経緯を持ちながら、参加者が歩いていくことができるようになった。県外の高校生・大学生が参加する中で行ったマイプロジェクトでは、普段とは違う相手に話すことで、普段耳にするフィードバックとは違う言葉を耳にすることによって、大きく考えが進んだ個人もいた。プロジェクトは、進路についてが最も多く、家族との関係性についてが次に多かった。正確に何パーセント実施というのは基準によるが、期間中に設定したアクションを一度でも履行したものは、3割程度いた。

土佐町アイデアソン 実施報告

特定非営利活動法人SOMA
代表理事 瀬戸昌宣

【概要】

期間：6/23、6/29、7/2、7/11、7/18、8/20-21、9/3、10/28、11/4、3/13、3/27、3/29
利用者数：102名（3/13現在）

【所感】

1回、2時間換算で、計40時間実施した。7/2、8/20-21での開催で計70名の参加があった。教育や町づくり、若者の参画というテーマでアイデアソンを行った。その他、6月～11月は農業従事希望者や企業希望者などへのアイデア出しのワークを行った。基本的にはオンデマンドで行っていたため、3月までは広報はほとんどしなかった。9月あたりから、教育アイデアソン、町政懇談会の教育版などという枠組みでやろうという話があがり、タイミングを探っていたが、3月までは実施できず。未来を語る懇談会第1回の3/13は石原で行い、8名の参加があった。非常に有意義な会となり、あこの外でアイデアソンを行う意味を見いだした。来年度もこの3月の形で、SOMAが各地域に出向く形をとっていきたい。

学校教育支援事業 実施報告

特定非営利活動法人SOMA
代表理事 瀬戸昌宣

【みつば保育園「えいごであそぼ」】

期間：9月～3月まで計28レッスンを提供

対象者：4歳児31名、5歳児26名、計57名

所感：遊びや歌を通して挨拶や数字、その他身の回りの物を表す英語を楽しく、違和感なく覚えることができた。また、3月7日には、「えいごであそぼ」ファイナルコンサートを「あこ」で行い、保護者や地域のご老人約30名を招いて披露した。授業やイベントを通して、多くの方々に感謝され、地域貢献の実感を得ることができた。



【小学校英語学習指導・オーストラリア遠隔授業】

期間：10月～3月。延べ26回の授業を支援した。

対象者：1年生～6年生までの全学年。

所感：この事業を通して、土佐町小学校の生徒たちは、歌や遊びを通して英語に親しむことができた。また、2020年からの新学習指導要領の実施に向け、土佐町小学校の英語教育を効果的に支援することができ、支援した学級担任からも感謝された。最初は朝の15分間だったが、途中から3、4年生は週1時間の正規授業に格上げされ、英語教育研究指定校となった翌年度は、さらに英語学習指導事業の拡大が予想される。

また、オーストラリアの小学校との遠隔授業では、英語で現地の小学生とコミュニケーションをとることで、中山間地域にいる子どもたちの世界を広げることができた。

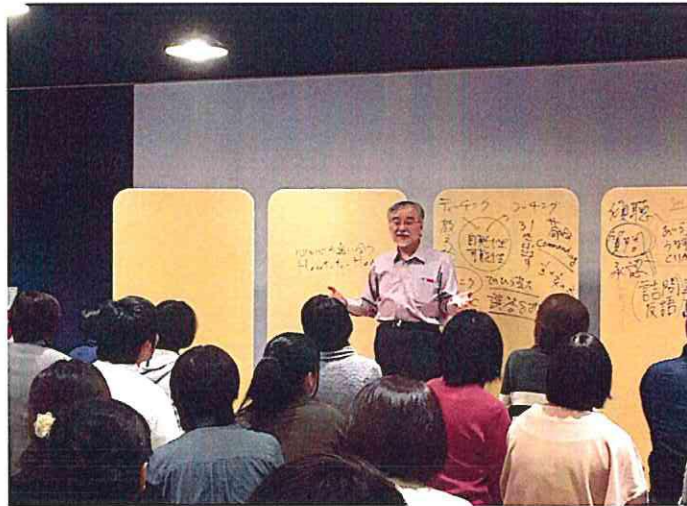


【小中学校教員研修】

期間：12月2日

対象：土佐町小学校・中学校教諭

所感：京都造形芸術大学教授である本間正人先生をお招きし、小中学校教員研修を行った。当日は、英語指導及びコーチングについてご講義頂いたが、参加した教員や校長からの高評価を頂いた。両テーマとも、校長が必要としていたもので、効果的なサポートができた。今後も、学校のニーズに沿った研修の機会を提供していきたい。



【中学校英語検定特別指導】

期間：29年度に行われた全3回の英語検定をサポート。計57回の授業を提供。

対象者：中1～3年生、合計35名。

所感：（別紙①参照）

【小中学校キャリア教育】

期間：1月20日、2月22日

対象者：小学校6年生、中学1～3年生の生徒約100名と地域住民約15名が参加

所感：今期、総合学習の時間を用いたキャリア教育を2度にわたってプロデュースした。1回目は、土佐町在住の元カヌー世界チャンピオンを講師に招き、インターナショナルデーの一環として講演会を行った。2回目は、金沢大学名誉教授である廣瀬幸雄氏を招き、講演頂いた。中山間地域に住む子ども達にとって、両氏の話はとても刺激だったようだ。今後も子どもの自己実現を促すために様々な選択肢を提供していきたい。



【嶺北高校学校キャリア教育】

期間：6月5日、2月21日

対象：1、2年生及び地域の方

所感：今年度、鈴木と大辻が嶺北高校の学校支援地域本部コーディネーター並びに「開かれた学校づくり」推進委員として学校を支援した。6月5日には、日本カーヌー連盟ジュニア強化委員長である尾野藤直樹さんを招き、『夢を叶え目標を達成するためには』というタイトルでご講演頂き、2月21日には旅とダンスで世界をつなぐ仕事をしている中込孝規氏を招き、『旅とダンスで世界をつなぐ ～好きが広げる人生の可能性～』というタイトルでお話し頂いた。



【嶺北高校学校魅力発信プロジェクト】

期間：10月～3月

対象：嶺北高校生・教員

所感：世界津波サミットへの参加や高校生レストラン開催など、学校の魅力発信を学校のHPやフェイスブックを用いて実施した。「嶺北高校の活動が地域に見えてこない」との要望を受けて実施したが、学校や地域の人々だけでなく、嶺北高校の卒業生にも喜んで頂いている。来年度は高校の活動が更に活性化される見込みなので、様々な行事に積極的に参加し、しっかりと嶺北高校魅力化の過程を発信していきたい。（別紙②～参照）

■学校教育支援事業

1) 学校教育ICT化支援

【背景】

内閣府は「ICTの発達により新たな経済価値が生まれる現代」を第四次産業革命と位置づけている（※1）。しかし様々なサービスの創出や経済域の拡大が見込める一方、イギリスの建築関係コンサルタント企業MaceはロボットやAIなどの技術革新により、2040年までに60万人以上に相当する仕事がイギリスの建築業界において自動化されると発表している（※2）。

このような世界の潮流のなか、来るべきAI時代には日本の労働人口の49%はコンピューターやAIに取って代わられる（※3）、と言われおり、AIの研究者である英オックスフォード大学のマイケル・A・オズボーン教授は「なくなる仕事」「生き残る仕事」を以下のようにまとめている（一部抜粋）。

人工能に変わられる仕事		生き残る仕事	
電話営業員	タクシー運転手	ソーシャルワーカー	警察と探偵
手縫い裁縫師	レジ係	聴覚訓練士	人事マネージャー
不動産ブローカー	クレジットカード審査員	作業療法士	学芸員
税務申告書作成者	小売り営業員	外科医	看護師
経理担当者	医療事務員	内科医	聖職者
データ入力者	モデル	栄養士	マーケティング責任者
保険契約審査員	飛び込み営業員	振付師	小学校教員
不動産仲介業者	銀行窓口係	セールスエンジニア	心理カウンセラー
ローン審査員	保険営業員	経営者	指導コーディネーター

今後のまちづくりを推進していくためには、このような来るべき社会において活躍できる人材の育成が必要であり、そのため教育現場における「タブレットPCの活用」「プログラミングの授業」「ITリテラシーの向上」は今後、必須になってくる。また地域外の児童生徒との交流により多様な価値観に基づく教育も必要であるが、そういった機会を増やすためには、遠隔授業を実践することで解決可能となる。

このように多岐にわたる「教育のICT活用」を広げていくことが、今後の教育には必要となってくる。

※1 「日本経済2016-2017」第1節 第4次産業革命のインパクト - 内閣府

http://www5.cao.go.jp/keizai3/2016/0117nk/n16_2_1.html

※2 Media centre (2017年10月31日) -

[macehttps://www.macegroup.com/media-centre/171031-next-industrial-revolution-set-to-transform-more-than-half-a-million-construction-jobs](https://www.macegroup.com/media-centre/171031-next-industrial-revolution-set-to-transform-more-than-half-a-million-construction-jobs)

※3 日本の労働人口の49%が人工知能やロボット等で代替可能に - 野村総合研究所

https://www.nri.com/jp/news/2015/151202_1.aspx

【実践】

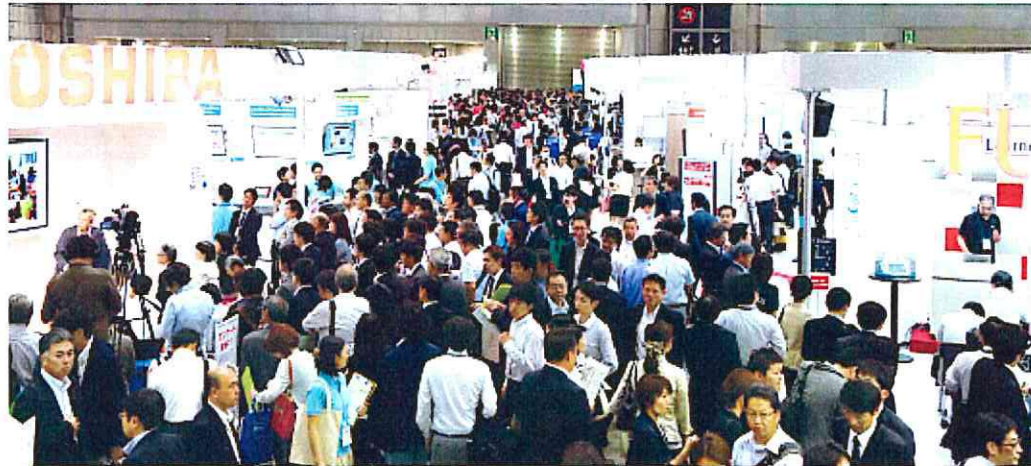
以上のような背景から2018年度、土佐町小中学校は教育のICT化を推進する。学校教育におけるICT環境の予算作成をするにあたり、どのようなタブレットPCがよいか、どのような環境を整えることが適切かを多くの実践事例や視察経験をバックグラウンドとして進言を行った。以下、助言を行った内容。

<内容>

・一般的には教育委員会が主導で学校にタブレットPCを導入する場合、WindowsやAndroid端末が多く見られるが、Windowsは便利なアプリが絶対的に少なく結局初心者には活用されないことが多い（熟達者になると協調学習アプリなどを使いこなすことは可能）。またAndroidの場合、セキュリティに不安が

残るのに、UIがiPadほど優れており、ミハイノなどによるヘッドレスを感ずることがある。一方、教育委員会ではなく教員主導でタブレットPCを導入した茨城県古河市、多摩市立愛和小学校などではiPadが導入されており活用が進んでいる。そういった事例からも土佐町小中学校でもiPadを導入したことは今後の活用に期待が持てると言える。なおiPadよりもややグレードの高いiPadProを導入したため、先駆的な取り組みが今後可能になると言える。

・教育委員会の担当を大阪で行われた教育ICTEXPO（EDIX）の案内を行った。過去の実践事例と比較して、各ブースにおける見どころや着眼点・昨年度と対比した新規性などを説明し、教育委員会の知見を深めることができた。特に校務支援システムの説明は時間をかけたため、今後高知県教委が推進していく校務支援システムの一元化説明会においても視察のアテンドは十分に機能したと言える。



2) 教員研修コーディネーター

文科省が今後推進する「主体的・対話的で深い学び」「英語教育」「プログラミング授業」について教員が参加可能な研修会をコーディネートした。

・主体的・対話的で深い学び（アクティブラーニング）／英語学習研修

講師：本間正人（京都造形芸術大学副学長・学習学提唱者）

日時：12月2日13：30-17：30

場所：あこ



概要：アクティブラーニング

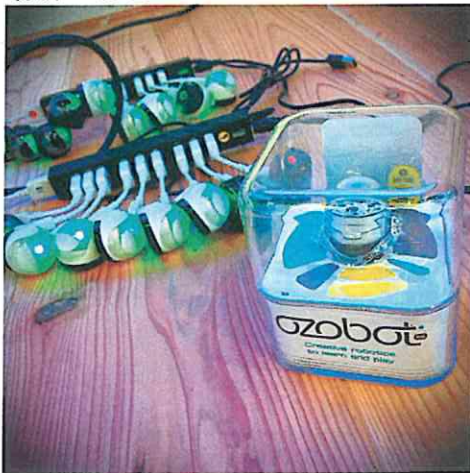
子どもは生まれながらにしてアクティブラーナーであり、そして大人も一生学び続けることは可能である。そう考えると最終学歴という言葉は悲しい。ともに「最新学習歴」を更新し続けることが大事。「最新学習歴」を更新し続けるような主体的な子ども（或いは大人）を育てるためには、ティーチングではなくコーチングをすることが重要である。教え込むから学び合うような環境も合わせて重要であり、「あこ」のような場所はそれに相応しい。

概要：英語学習方法

一般的に「つかえる」と言われる英語を習得するには総合2000時間必要である。実際に計算してみると中高等学校であわせて700時間ほどしかない。しかも大半は日本語を話して指導しているため、学校学習だけでは不足している。日常に英語を学ぶしかけづくりが重要。そのためにゲーム性のある英語学習を導入することを提言する。具体的には「英語しりとり」「英語連想ゲーム」などが挙げられる。これらを講演の中で実際に実施して頂き、英語に対する興味関

心が高まった。

・プログラミング講座
講師：NTT西日本
日時：12月15日9：00-11：00
場所：あこ



概要：私達の身の回りにはたくさんの「プログラミング」が潜んでいる（例：自動販売機、ロボット掃除機など）。それらは勝手に動いているのではなく、緻密にプログラミングされて作動しているという仕組みを知ること、着眼することが重要である。そのためにロボットとiPadを用い、簡易な自主プログラミングを作成し、実働することで体験を通して知る機会が重要であり、その場を創出。プログラミングの入口となる「繰り返し」「条件分岐」をロボットを動かすことによって学んだ。

3) オーストラリア遠隔授業

土佐町小学校は英語学習に力を入れており、地域の英語熟達者を教室にいらして指導を行っている。しかしネイティブはALTのみしかおらず「外国人に英語で話して通じた」という経験は限定的であった。その課題を克服するためにICTを活用した英語学習を導入。SOMAがメーカーや販売店との折衝にあたり、最新システムであるSparkBoardを導入し学校に設置した。またハードウェアだけでなく、ビジネスSNS「Spark」を利用してオーストラリアとの遠隔授業をコーディネートし、9月～12月に合計9回の言語交流を行った。



なお実践事項は以下の通り（要約は後述）





2017 Videoconferencing Outlines

Oakleigh South Primary School, Victoria, Australia and
Tosa town Elementary School, Shikoku, Japan

1. Schools

- Oakleigh South Primary School, Victoria, Australia: 61 (0)3 9570 1016
<http://oakleighsouthps.vic.edu.au/>
Riley Street, Oakleigh South, Victoria, 3167, Australia
- Tosa Town Elementary School, Shikoku Island, Japan:

<http://www.kochinet.ed.jp/tosacho-c/>

2. Teachers

- Mami Martin: Japanese language teacher: martin.mami.m@edumail.vic.gov.au
- Mr Suzuki: daiyu@nposoma.org
- Mr Yusuke Otsuji: Japan School Leader: yusuke@nposoma.org
M:+81-90-5509-0669
- Ayumi Mochizuki: Japan Coordinator & Japan Program Manager: amochizu@cisco.com Tel:
+81-3-6434-6751 M: +81-90-1651-7741
- Dr Myung-Sook Auh: Program Director of the Asia ConneXions program, University of New
England: mauh@une.edu.au Tel#1: 61 (0)2 6773 2917 Tel#2: 61 (0)2 6772 5705
- Chunxia Wang: Program Manager of the Asia ConneXions program, University of New
England: cxwang7@gmail.com Tel: 61 (0)2 6773 3093

3. Students

- AUS: Years 4-6 children
- JPN: Years 4-6 children

4. Class times: 15mins.

- Term 3 = September: **Tuesdays, VIC/NSW 9.20 – 9.35am = JPN 8.20 – 8.35am**
- Term 4 = Oct/Nov: **Tuesdays, VIC/NSW 10.20 – 10.35am = JPN 8.20 – 8.35am**
 - The NSW daylight savings start on **2 October**, 2017. So, NSW becomes 2hrs ahead of Japan in Term 4 = Oct/Nov.

5. Videoconferencing VMR#: Always the same!

- Oakleigh South calls: **182.255.112.21##966820394**
- Tosa Town calls: **966820394@182.255.112.21**
 - UNE's Emergency bridging for Tosa: Ayumi's personal Webex ID:
amochizu@cisco.webex.com We call the Oakleigh South Zoom# and also call Ayumi's Webex ID to bridge the two schools.

6. VC Class dates/times and Topics

- VC #1: **5 Sep (Tues), VIC/NSW 9.20 – 9.35am = JPN 8.20 – 8.35am**
Topic: Show & Tell Topic #1
 - AUS & JPN:
- VC #2: **12 Sep (Tues), VIC/NSW 9.20 – 9.35am = JPN 8.20 – 8.35am**
Topic: Show & Tell Topic #2
 - AUS & JPN:
- VC #3: **19 Sep (Tues), VIC/NSW 9.20 – 9.35am = JPN 8.20 – 8.35am**
Topic: Show & Tell Topic #3
 - AUS & JPN:
- VC #4: **17 Oct (Tues), VIC/NSW 10.20 – 10.35am = JPN 8.20 – 8.35am**
Topic: Show & Tell Topic #4
 - AUS & JPN:
 - Note: NSW daylight saving starts on 1 Oct (Sun).
- VC #5: **24 Oct (Tues), VIC/NSW 10.20 – 10.35am = JPN 8.20 – 8.35am**
Topic: Show & Tell Topic #5
 - AUS & JPN:
- VC #6: **31 Oct (Tues), VIC/NSW 10.20 – 10.35am = JPN 8.20 – 8.35am**
Topic: Show & Tell Topic #6
 - AUS & JPN:
- VC #7: **14 Nov (Tues), VIC/NSW 10.20 – 10.35am = JPN 8.20 – 8.35am**
Topic: Show & Tell Topic #7
 - AUS & JPN:
- VC #8: **21 Nov (Tues), VIC/NSW 10.20 – 10.35am = JPN 8.20 – 8.35am**
Topic: Show & Tell Topic #8
 - AUS & JPN:

- VC #9: 28 Nov (Tues), VIC/NSW 10.20 - 10.35am = JPN 8.20 - 8.35am

Topic: Show & Tell Topic #9

- AUS & JPN:

7. **Class structure and design:** 15mins conversation and interaction

- Show & Tell topics: Experience-based engagement

8. **UNE team and Technical support**

- Dr Myung-Sook Auh: Program Director of the Asia ConneXions
mauh@une.edu.au Tel: 61-(0)2-6773-2917. M: 0410-611-642
- Chunxia Wang (Xia): Project Manager: cxwang7@gmail.com
 Tel: 61-(0)2-6773-3093 M: 0431-619-329 (from Korea: 61-431-619-329)
- 24/7 VC test numbers: Project office: 129.180.237.14

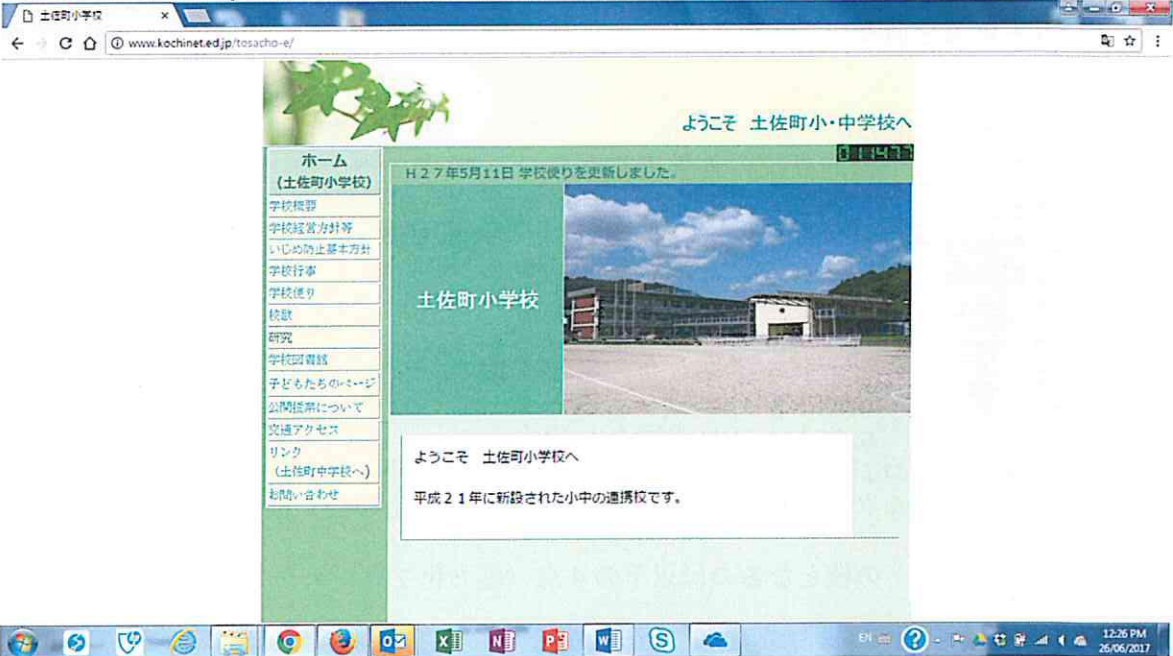
9. **Office Use Only**

- Oakleigh South: The VC room is used for after-school daycare centre. Mami's free time: 8.50 - 9am; 10.45 - 11.10am. 1 - 1.30pm Lunch. Victoria, Polycom VC equipment.
- Tosa: Global Connections Project. Cisco Spark Board will be used for the video link. Cisco Japan cannot call UNE directly because of the Cisco VC call policy. Goals for this project: To develop global communication skills, and to provide new digital experience (non-language based).

Oakleigh South Primary School, Victoria, Australia: <http://oakleighsouthps.vic.edu.au/>



Tosa Town Elementary School, Shikoku Island, Japan: <http://www.kochinet.ed.jp/tosacho-e/>



(要約)

■内容

Show and Tell

生徒を4-6人ずつ交代で行う
(テーマは現地の先生と相談)

■日程 (9月から11月の火曜日)

以下すべて日本時間の8時20分-8時35分

- ・9月5日/12日/19日
- ・10月17日/24日/31日
- ・11月14日/21日/28日

上記、想定のもと遠隔授業を開始したが、担当教員の希望などもあわせクラスを合併して授業を実践したり、1クラスの生徒で実施したり開始後の調整やコーディネートもSOMAが行った。当初、Show & Tellで予定していた授業内容も生徒の語学力に合わせて自己紹介やクイズなどを取り入れる授業方式に軌道修正を行った。なお土佐小学校教員とは対面形式の会議を行ったが、オーストラリアの担当教員Mami先生とはビジネスSNSであるSparkを用いて円滑にコミュニケーションを行った (以下、事例)。

🗨️ Oakleigh South and Tosacho connection



あなた・2017/12/1, 午前11時15分

KentaM、システムの起ち上げをあともう一回、学校応援団に依頼してください。11日17時に。

年12月2日



KentaM・2017/12/2, 午後3時56分

Yusuke_Otsuji、了解しました!

年12月8日



あなた・2017/12/8, 午後7時10分

Masa、次回12日火曜日の遠隔授業ですが大辻が出張中で立ち会えず申し訳ないのですがよろしくお願い致します。

KentaM、11日17時にシステムアップお願いしますねー。

Mamiさん、今年最後の遠隔授業を楽しみにしております! よろしく申し上げます。

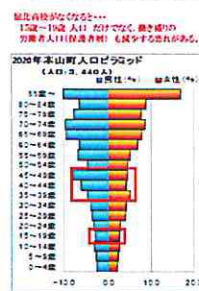


あなた・2017/12/8, 午後7時15分

Masa、もしかしたら外付けスピーカーを持参したらよいかもしいい。

土佐小中学校の唐岩校長からの評価は高く、是非2018年度も継続してほしいというお言葉を頂戴している。

4) 嶺北高校魅力化プロジェクト



嶺北高校の入学者数が年々減少傾向にあり、「子どもが『行きたい』、保護者が『行かせたい』、地域が『活かしたい』と思える学校づくり」を目指した「魅力化プロジェクト」を推進した。学校支援地域本部のコーディネーターにSOMAの大辻雄介、鈴木大

■嶺北地域高等学校「魅力化」組織図



裕が就任しプロジェクトの立案・創設を担当した。特に振興会や行政が一体となってプロジェクト活動を可能にするための「魅力化の会」創設は功績として大きい。

プロジェクトの核となるのは以下の4点 (魅力化プロジェクト資料より)

■自らやりたいことを実現する「自主活動」

嶺北高校にはもともと「生徒が自主的に地域づくりに貢献する」自主活動が行われているが、もともと生徒が多数在籍していた頃の活動を引き継いでおり現

仕運用面で古しくなつてきている。今一度「生徒自身かやりたいこと」に焦点をあて、生徒たちのキャリア教育にも貢献する。

■地域づくりに貢献する「農業コース×商業コース」の実学化

自主活動や農業コースが現在、嶺北の地域食材を活かした商品開発を行っている。それらをただ販売するだけでなく、商業コースがマーケティングをすることで地域づくりに貢献するプロジェクト型学習を実践する。



土佐あかうしで肉みそ「おもしろい」 JAが嶺北高、高知FDと開発

Facebook ツイート

JA土佐れいほく(本所・高知県土佐郡土佐町)が嶺北高校、高知ファイティングドッグス(FD)と共同で、嶺北産の土佐あかうしなどを使った肉みそ「おもしろい」を開発。同校生徒らが9日、高知市の高知球場で肉みそ入りおにぎりとともに販売した。



同JAが昨年11月ごろ、FDに「自社の商品を球場で販売できないか」と相談。嶺北高にも声を掛けて3者で食材や味付けなどの協議を重ねてきた。食材には嶺北産のユズの皮や土佐あかうし、イノシシのミンチを使った。

ユズの風味と肉のうま味が口広がり一品に仕上げ、高知球場でおにぎりを口にした来場者は「こりゃ、ご飯に合う」、「おもしろい」は1個90グラムで670円。今後、高知FDの試合やAコープとさ(土佐町)などで販売する予定。

■進路進学の実績づくり

現在、国公立大学に進学するのは推薦がほとんどであるが一般入試に対応できる学力の向上を目指し環境を整える。その補習補講などはICTを活用する。また補習における教員の多忙感を少なくするために生徒の学習の伴走者として地域の人材を活用し、サポーターとして学校にはいる。それにより「開かれた学校づくり」も推進する。

また今まではあまり視野にいれていなかった「海外留学」もサポートする体制を整え、幅広い進学進路実現を可能にする環境を整える。

■カヌー部を中心とした部活動見直し

「嶺北カヌー推進協議会」と連携し、高校のカヌー部を運営する。そのための連携体制を「魅力化プロジェクト」で対応していく。これにより学校予定にしばられないカヌー活動を可能にし、強化をはかる。

また中学生の進路選択においては部活動が重要な要素となっているため、中学生が行きたくなる学校づくりの観点で部活動も魅力化していく。



以上、4つの柱を軸に「嶺北高校魅力化プロジェクト」を推進していくが、SOMAメンバーはその中核を担っており、学校を核とした地域づくりに貢献している。



以後、嶺北高校の魅力を発信していく媒体として今年度、作成した「嶺北高校Facebookページ」を活用していく。

(なお土佐町Facebookページ創設にもSOMA大辻がアドバイザーとして企画に参加している)

今までは嶺北高校を「魅力化」するための組織は振興会・PTAなど各々独自に活動を続けてきた。しかし各団体単独でのプロジェクト推進には限界があることや、今後地域外の生徒の受入を進めていくにあたり行政の体制づくりが必須であり一定の予算化も必要になってくる。また地域外の温度差も見受けられるなどの問題も存在していた。しかし2018年度に本格化する魅力化プロジェクトにおいては、四町村の首長が参画する「魅力化の会」が創設される。また「地域・教育魅力化プラットフォーム (http://c-platform.or.jp/)」への参加校にも選出され、今まで以上にプロジェクトが加速化することが予想される。「魅力化プロジェクト」の推進にはすべてSOMAがそれぞれの立場(コーディネーター・カヌー推進協議会)で役割を担っており想定通り学校や行政をつなぐHUBとしての機能を果たしている。

不定期で行われた「魅力化」に関する会議体

2017年7月4日：学校支援地域本部運営委員会

2017年8月17日：学校支援地域本部運営委員会

2017年11月30日：受入準備委員会

2017年12月19日：受入準備委員会

2018年1月16日：魅力化会議

2018年2月27日：魅力化会議

2018年3月2日：魅力化の会プレスリリース

なおこれとは別に嶺北四町村の担当者への連絡をSOMAで担っている。

■遠隔授業事業

【背景】学年30名程度で推移する土佐町で、各学生の通学時間は非常に幅広い。中には片道一時間弱かかる学生もあり、スクールバスや公共交通機関の便の関係で、放課後に同級生と共に勉強をする時間などをとるのが非常に難しい。また、学生のみならず、一般社会人も交通の弁の関係で、様々な学びの機会が制限されている。ICTを使った学習環境作りのプロフェッショナルとともに、様々な場所でパソコンなどを通して、人材育成事業を通した提供サービスを受けられるように環境整備を行う。

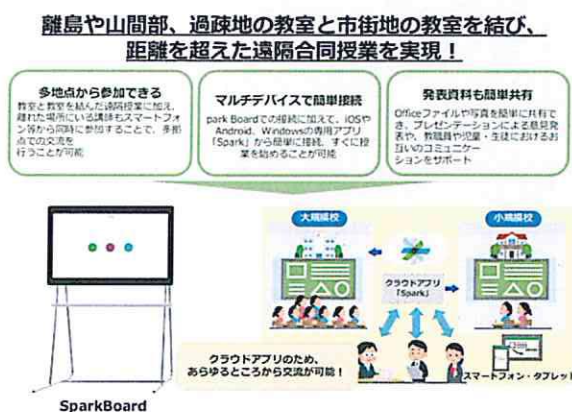
1) 小中学校における遠隔授業（実践は学校支援事業の頁参照のこと）

・システム構成

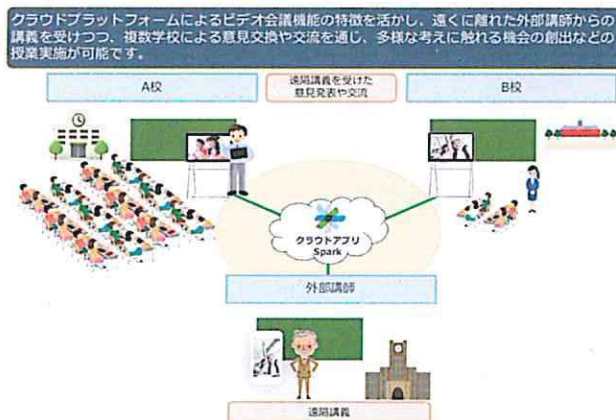
遠隔授業のシステムとして最新デバイスである「SparkBoard」の導入をSOMAで支援した。NTT西日本・Cisco社と協働し土佐町小中学校の一階に設置。

SparkBoardの仕様は以下の通り

1. Sparkについて



2. Spark 多拠点参加について



3. Spark マルチデバイス対応について

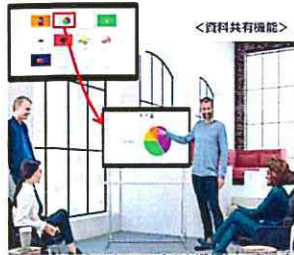
SparkBoardによる利用に加え、iOS・Android・Windows・MacOSの専用アプリ「Spark」により、遠く離れた場所にいる外部講師や教職員とも簡単に接続でき、どこでも遠隔交流が可能です。





4. Spark 資料共有について

PowerPoint・Word等のOfficeファイルやPDFや写真をSparkへアップロードすることで、プレゼンテーション資料を簡単に共有できます。また、ホワイトボード機能により、SparkBoardに書いた文字や図をリアルタイムに共有することで、意見発表や、児童・生徒におけるお互いのコミュニケーションをサポートします。



アップロードしたファイルを選択し、表示することでビデオ会議の参加者とファイルをシェア



SparkBoardに板書した内容をビデオ会議の参加者とシェア

5. SparkBoard

Hardware

- ・LED液晶パネル
- ・4K解像度, 120 Hzのリフレッシュレート
- ・4K対応のハイエンドカメラ
- ・指向性マイクとスピーカートラッキング
- ・デフォルト画面に戻るホームボタン
- ・デジタルペンとマグネットペンホルダ
- ・タッチパネル採用による簡便操作
- ・強化ガラスによるディスプレイ保護

6. SparkBoard 主な特長

Cisco Spark Board

3つの機能が1つになったコラボレーションデバイス

主な機能

- ・ホワイトボード
- ・プロジェクター
- ・ビデオ会議

プロジェクター Spaceに保存したファイルを表示

- ・Office・PDF等資料を表示
- ・保存したファイルの一覧表示
- ・ファイルをプレビュー表示
- ・表示したファイルに書き込み (今後のリリースで対応)

ホワイトボード

Spark Board と iPad で書き込み

- ・双方向で同時に書き込み
- ・データはクラウドに保存
- ・マルチデバイスで閲覧

ビデオ会議

- ・ボリュウムを自動で最適化
- ・1080p 30fps でビデオを表示
- ・クリアな音声 (OPUS)
- ・話者に自動でフォーカス (今後のリリースで対応)

TP, Cisco TelePresence

(参考) SparkBoard その他特長

項目	特長
デザイン	Red Dot Best of Best® 受賞
利用開始	スマートフォンやPCを持って近づくだけで自動で認識し、よく利用するスペースへ簡単に接続できます。
資料の表示	Sparkのクラウドプラットフォームに保存されている資料表示、外部接続PCとのHDMI接続により表示できます。
ビデオ会議	参加しているスペースへワンクリックでビデオ会議を開始できます。その際スペースに参加している拠点/メンバーへは自動的に一斉呼び出しされます。
ホワイトボード	付属のデジタルペンに加え、指でも書き込めます。PCやスマートフォンからも相互に書き込み可能です。
会議後のデータ保存	Sparkのクラウドプラットフォーム上のスペースにデータが保存されます。

※ドイツの「プロトタイプ・ベストフォーレン・デザインセンター」が選定を行っているレッドドット・デザイン賞は、過去2年以内に製造化されたデザインを対象とし、デザインの革新性、機能性、人間工学、エコロジー、耐久性など9つの基準から審査されます。

1) 「あこ」における遠隔授業（内容は座談会の頁参照のこと）
 社会教育として地域の学び文化の醸成として行っている座談会を「いしはらの里」でも受講できるようにシステムを構成した。当初、配信地が「いしはらの里」のみを想定していたためappear.inを活用していたが、配信回数を重ねるごとに他の地域（例：島根県海士町・沖縄県久米島町）の参加が増えたことと、アーカイブの保管しやすさを考慮してYouTubeLiveに配信システムを移管した。今後は双方向性も担保するためにZoomの活用も視野に入れている。



いしはらの里や隠岐島前で「あこ」からの遠隔授業を受信する様子

・システム構成

右図の体制を基本配信システム構成として、様々な「座談会」に対応するよう各配信において以下のようなオプションを行った。

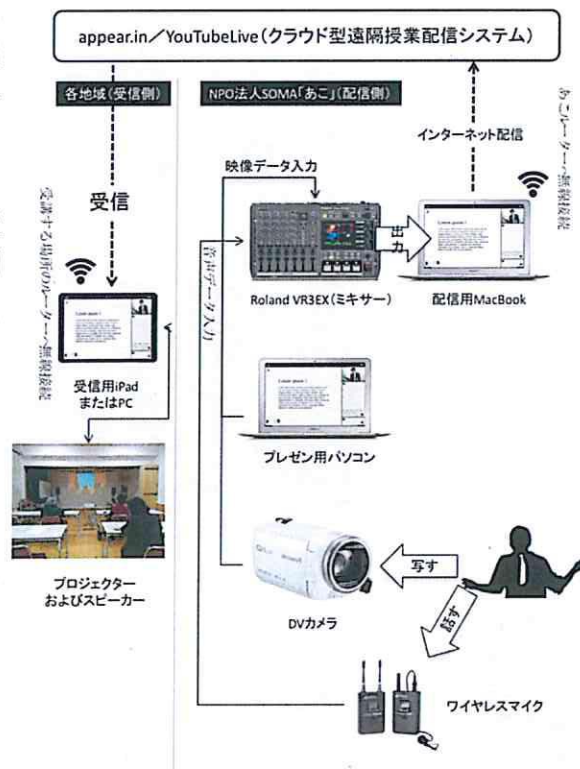
■「注文を間違える料理店」講演において講演者より「動画を流したい」というリクエストがあったため、プレゼン用PCで動画を流し、VR3にてミキシングしてYouTubeLiveで配信を可能とした。

■「ラクガキワークショップ」講演において講演者より「手元のiPadに描いている様子を配信したい」というリクエストがあったため、実物投影机を別途準備しVR3にてミキシングして配信を可能とした。

■「落語」において落語家より「出囃子を流したい」というリクエストがあったため、プレゼン用PCにおいて音声ファイルを出力した。

■「伝統茶」講演において、海士町との双方向性を担保し、交流している様子をYouTubeLiveで配信する必要があったため、プレゼン用PCでappear.inにアクセスし、VR3にてミキシングした。

■「ガチで環境を考える」講演において、「実際にゲームをしている様子を俯瞰で撮影し、その様子を配信したい」というリクエストがあったため2つDVカメラを用意し、仮設櫓を組んで俯瞰で撮影しVR3でミキシングして配信を行った。音声は俯瞰カメラのデフォルトマイクを使用するため、他のゲーム者の音声は気にならない程度にレイアウトを工夫した。



教育コンサルティング事業 実施報告

特定非営利活動法人SOMA
代表理事 瀬戸昌宣

【『かすかな光へ』上映会】

期日：7月1日

対象者：保護者、地域住民

所感：子育て支援の一環として行った上映会だったが、当日は議員4名を含む老若男女30人ほどが参加し、映画をもとに子育てや教育について皆で考える機会を得た。



【土佐町・本山町議員連盟】

期日：8月17日

テーマ：『嶺北高校の活性化を目指して』

参加者：土佐町・本山町議会議員

所感：嶺北高校存続の危機を背景に、土佐町と本山町の議員連盟に招聘され、大辻と鈴木がプレゼンをし、嶺北高校魅力化の展望を示した。議員からの反応もよく、今後は行政、学校、及び学校支援地域本部が連携して魅力化を進めていくことで合意。来年度もさらなる連携の強化が見込まれる。

【高知県町村教育長会議】

期日：1月19日

テーマ：『大量生産のナンバーワンからここでしかできないオンリーワンへ』

参加者：高知県町村教育長、高知県教委生涯学習課ほか

所感：高知県全域の町村教育長によるSOMAの視察。過疎に苦しむ地域の教育長らに、過疎を逆手に取る革新的な教育の展望を提示し、共感を得た。今後、高知

県内の過疎地のネットワークづくりにおいてSOMAが提供できることは少なくないように感じた。



【あなたの夢、応援します！プロジェクト】

期間：1月～

対象者：6年生2名、4年生2名、計4名

所感：将来ものづくり職人になりたいY君、得意の英語を使って海外で働きたいOさん、作家になって人を感動させる本を書きたいAさん、そして酪農家になりたいM君の4名を応援してきたが、保護者からも好評を頂いている。今後はこのプロジェクトをより体系化し、人数も増やしていきたい。



【個別指導】

土佐町中学生3名、嶺北高校生3名に対して、進路希望別に指導を行った。学生および保護者から相談があった場合に、対応をした。SOMAのスタッフが対応できる教科に対しては、個別に指導体制を組み、指導を行った。進路希望通りに進学を決めた。

【高齢者に対するスマートフォン、タブレット、パソコン指導】

60～80代の高齢者に対して、スマートフォン、タブレット、パソコンの使用方法を教授した。一週間に数名程度、のべ100名程度の対応を行った。

SOMA英検指導実績

28年度第1回英検結果				29年度第1回英検結果			
1次試験		2次試験		1次試験		2次試験	
受験者	合格者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格者	合格率
2級							
準2	3	1	33%		1	1	100%
3級	2	2	100%	4	4	3	75%
4級				7	5		71%
5級							
		合格者数				合格者数	
		83.3%				9	
		平均合格率				平均合格率	
						88%	
28年度第2回英検結果				29年度第2回英検結果			
1次試験		2次試験		1次試験		2次試験	
受験者	合格者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格者	合格率
2級							
準2	5	4	80%	1	1	1	100%
3級	4	2	50%	6	3	5	83%
4級	3	3	100%	3	3		100%
		合格者数				合格者数	
		8				10	
		平均合格率				平均合格率	
		81%				92%	
28年度第3回英検結果				29年度第3回英検結果			
1次試験		2次試験		1次試験		2次試験	
受験者	合格者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格者	合格率
2級	0						
準2	4	4	100%				
3級	4	4	100%	4	1	1	25%
4級				7	7		100%
		合格者数				合格者数	
		8				10	
		平均合格率				平均合格率	
		100%				85%	
指導前平均合格率				指導後の平均合格率			
82.1%				91%			
平均合格者数				平均合格者数			
5.5名				9.3名			

(5) 高知県立嶺北高等学校 - 投稿

(5) 高知県立嶺北高等学校

10月4日、嶺北高校農業コースの2年生が、石原で「天敵農法」という素晴らしい取り組みをしている米ナス農家に見学に行きました。野菜を荒らす様々な害虫をそれぞれの天敵である虫に駆除させ、農薬に頼らない農業を実践している窪内さん。

ただ、その年ごとの自然環境に大きく左右される天敵農法は困難で、ビニールハウスの中の生態系をくまなく見る鋭い観察力と労力が要るそうです。天敵が害虫をしっかり食べてくれる年もあれば、害虫の繁殖を止められず、止むを得ず農薬を使う年もあるそうです。また、様々な害虫を餌とする天敵を買い揃えるお金もばかになりません。

しかし、そんなに苦労して作られた窪内さんの野菜も、市場では農薬を使った他の野菜とごっちゃになってしまい、高い値がつくわけではないそうです。それなのに、どうして窪内さんは天敵農法を実践し続けているのでしょうか。

それは、できる限り農薬を使わずに野菜を作るという、窪内さんの「こだわり」だそうです。

この課外学習を企画した萩原陽子先生の、「あらゆる観点から農業を学べるようにつとめてます」という言葉通り、窪内さんの話は、害虫、土の養分、食物連鎖、気候の変動、バブル期と今日の野菜の値段の変動など、非常に多岐にわたる、生きた学びの詰まった課外学習でした。

帰り際、萩原先生が同行した生徒たちに向けた言葉が、とても印象的でした。

「嶺北ってすごいがで。」

(文：高知県立嶺北高校学校支援地域本部コーディネーター 鈴木大裕)





(6) 高知県立嶺北高等学校 - 投稿

(6) 高知県立嶺北高等学校

歴探、天空で舞う！

10月12日、嶺北高校歴史探究会で、民謡土佐柴刈り唄を踊りました。

刈田と晩稲とが、美しいモザイクを描く、土佐町は相川の棚田。

土佐柴刈り唄は、ここ相川・高須地区に、その原型が古くから伝わる民謡で、いわゆる仕事唄の一つであったとされています。

ここで言う“柴刈り”とは、化学肥料の無い時代、田植え前に柴草を刈り取り、肥やしとした作業のこと。

言うまでもなく、機械のない時代において、これは大変な作業でありました。

柳田國男の『鼻唄考』にこうあります。

「歌をうたふ気になれないような仕事は、昔だってそれは有ったらう。しかし、羨ましいことには最も多くの仕事は其の反対に、歌って働かずに居られなかった。さうして其様な仕事のみが、國の歴史にも人の傳記にも記憶せられ又感歎せられて居る。だから我々の過去は美しく見えるのである。」

「嫁も取るう～」

この柴刈唄のフレーズも含め、こうした踊りや唄の価値は、それがあまりに平俗であるが故に、文化としてはある種正當には評価されてこなかった嫌ひがあります。

だが、神祭にせよ、酒宴にせよ、はた盆踊りのようなものであらうと、「せずには居られない」のだからそれはすなわち彼ら、彼女らにとって仕事であったに違いないのです。

「獨り戀ばかりが、其外で有った筈は無いのである。是をせねば人は寂しく、家は悉く草原の原となつたらう。」

柳田國男『鼻歌考』

柳田の指摘に従うならば、ひとびとはまさしく一つの生活を生きただけでしょう。そして、そこに生まれたものは紛れもなくひとつの文化であった。そういうわけでありましょう。

最後に、柳田が「歌」というものの意味について述べたところを、少し長いですが引いておきます。

「人の若い時は夢の間に過ぎ去って、再びもとの舊巢を訪れるという事は無い。それだから力の及ぶ限りの活躍をして、空しく青春の日を費やし盡くさぬやうにといふ、余韻を含んで居たればこそ聴く者の胸を打ったのである。人の若い時の計畫と認めて居た時代などは、遠い遠い大昔の事になってしまった。しかも一つの民族の團結が続く限り、この老いて行く者の心からの嘆きが、新たに目覚めた人々の激動となることは、学芸の上でも変わりはないのである。過ぎて返らぬ若い時を振り回って、うまくしおほせた、完全であったと、自得し得る者などは一人だって無い。同じ緑の野の草を踏み、笑ひさざめいて後から来る人々に、つまらぬ路草の爲に疲れてしまはぬやうに、早く正しく學び且つ覺えて行くことを勧めるにも、やはり斯ういった自ら憐む歌と、高く唱えることが最も痛切なる手段だったのである。」

柳田國男『民謡覺書』より

民謡とは、それを歌い継ぐことで如何に生くべきかを学び、考えるための手段だったのでありましょう。我々にとって生活とは、労働とは、生きるとはどういうことであろうか。そうした素朴な人間性が捨象され、バラバラに分断されたかのような現代にあって、我々が民謡を愉しむという事の意義については言うまでもなく大きなものがあるのです。

無筆謙遜なる老教師の引退によって途絶えた傳統の糸を再び見つめ、それをつむぎ直すこと。学問をすることは、なにも書物を繰ることだけではありません。歌い、舞うこと。それが、そのみが学ぶことであった時代に思いを馳せてみる。

今回の歴史探究はまさに、“歴史を生きてみる”
そんな時間になったのではないのでしょうか。

(文 嶺北高校学校支援地域本部サポーター 岡田光輝；踊指導 澤田美恵子；撮影 大辻雄介)





+2

『人と自然、世代と世代をつなぐ』

2017年11月27日



「ねえねえ、（コロッケの）かたちは？」

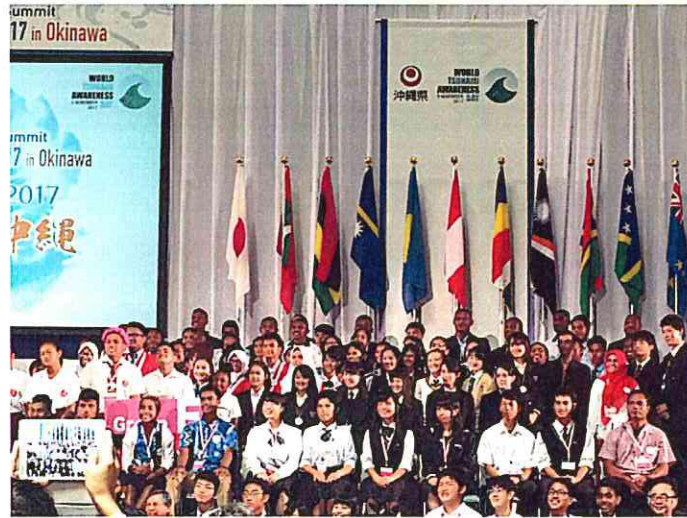
「なんでもいいけど、できたら丸がいいなあ。」

小学生の質問に優しく答える嶺高生は、何だかいつもと違った雰囲気でした。この日は嶺北高校農業コースの3年生が、吉野・本山小の生徒たちを招いて行う『さつまいもパーティー』の日。春と一緒に植えたさつまいもを秋と一緒に収穫し、一緒に調理し、一緒に食します。商業コースの生徒も皿洗いなどで活躍しました。メニューは、さつまいもごはんのおにぎり、さつまいものコロッケ、サラダ、さつまいもの具たくさん味噌汁、そしてかんたんスイートポテト。「みんなつぶせた？」「じゅんばんにとりに来て下さい！」と、子どもの扱いがとても上手な高校生も。そんな高校生に小学生は思わず呼びかけます。

「せんせい、みて！」

（文：鈴木大裕）

山に守られている私たちだからこそできること
～嶺高生2人が世界津波サミットで発表！～
2017年12月12日



今から1ヶ月ほど前、嶺北高校から二人の生徒が沖縄に向けて出発しました。『「世界津波の日」2017高校生島サミット in 沖縄』に参加するためです。それは、世界25カ国から高校生255名が参加するという、嶺高生二人にとっては、かつて経験したことのない大舞台でした。



津波サミットに参加した2年生の二人

でも、そもそも高知県の中山間地域に位置する嶺北の高校生たちが、津波サミットでいったい何を発表したのでしょうか。そこには、中山間地域ならではの視点がありました。

南海トラフ地震で確実に被害を受ける高知県。
そして、同じ高知県でも、海から遠く、山に囲まれた嶺北。
津波の直接的な被害を受けない私たちに、何ができるだろうか。

そうしてたどり着いたのが、肥沃な土地を生かして野菜を育て、嶺北ならではの災害食を開発し、被災した人々に届けよう、というアイデアでした。

こうして、防災をテーマに活動する RGA と、地元の食材を活かした食品開発などを手がけてきた RYN という嶺北高校の二つの自主活動グループのコラボが始まったのです。

津波サミットに参加した和田さんと原さんに話を聞いてみると、沖縄に向かう飛行機の中、ワクワク感よりも緊張感の方が強かったそうです。その一つの原因は、サミットではプレゼンもディスカッションも全て、英語が公用語に決められていたことにありました。そのため、夏休み明けから2ヶ月半、二人は発表の練習を重ねてきたのです。

2人のプレゼン指導を担当したのは、英語科の横山先生と ALT の Tosin。横山先生は、これまでも多くの生徒たちにプレゼンテーションやスピーチを指導してきた非常に積極的な先生です。「人前できちんと自分を表現できるひとになって欲しい。そのために嶺高生にはいろいろな場に出てたくさんのかんことを経験して貰いたい。」それが横山先生の願いです。

写真

目標は「絶対にプレゼンを成功させること！」

ALT 以外の外国人と話したのは初めてという二人は、インドネシア、クック諸島、バヌアツ、タイの生徒たちとグループワーク。「3人1組でのディスカッションのときなどに自分の英語力が足りず上手く話せなかったのが、これからはもっと英語が使えるように勉強していきたいと思うことができました」と振り返ります。

写真

自己紹介をする嶺高生の二人

写真

ディスカッションも英語！

また、高校生とは思えないほど身長が高い外国人もたくさんいたり、逆に小学生のように小さい人もいたり、体の大きさも肌の色も言語も様々な同世代の学生に出会えたことが、二人にはとても新鮮だったようです。

二人に、サミットで印象に残っていることを聞くと、沖縄で出会った海外の人と SNS でも繋がることで自分の世界が広がったことを話してくれました。

「生まれて初めて海外へメッセージを送りました。」

これからも、嶺北からたくさんメッセージが、外国の友人たちに届きますように。

写真

(文：嶺北高校学校支援地域本部コーディネーター 鈴木大裕)

カヌー留学、はじまる。

豊かな自然に囲まれた高知県立嶺北高校では、来年度から「カヌー留学」を開始します。ベテランの日本人指導者に加え、世界最強国ハンガリーの元世界チャンピオンや、自身もオリンピックを目指す有望若手選手を揃えた最強のコーチ陣と、地域中を流れる吉野川そして西日本最大の早明浦ダムという贅沢な環境で、本気でカヌーに打ち込みたい生徒（高1～高3）を若干名募集します！県内の生徒はもちろん、県外の生徒も受け入れます。是非拡散にご協力ください！！

カヌー留学、始まる。

日本にいながら、世界チャンピオンに学ぶ。

平成30年度
留学生募集中！！
(高1～高3)



ラヨシュ・ジョコシュ
(Lajos Gyokos)
嶺北高校カヌー部
外部指導者。
2006年世界選手権
金メダリスト。

高知県立嶺北高等学校 0887-76-2074

『旅とダンスで世界をつなぐ ～好きが広げる人生の可能性～』
2018年2月26日



2月21日、旅とダンスで世界をつなぐおしごとをされている、中込孝規さんを嶺北高校にお招きしました。

高校時代いじめられ、人間不信になった。英語が苦手で、人とコミュニケーションを取るのが下手だった。そんな彼が、安定を約束されていた大手教育会社の仕事を辞め、ずっと好きだったダンスを武器に、世界一周旅行に飛び出した。中込さんの話からは、自分に自信を持ってない一人の青年の成長の過程が垣間見られました。



「やりたいことを口に出してみる。そして小さな一歩を踏み出してみる。」



そう語る中込さんに頷く生徒たち。後半は中込さんと一緒に楽しく踊りました。



講演の後、一人の生徒に訊きました。

どうだった？

「自分にとっては貴重だった。」

どんな意味で？

「人生規模で貴重でした。」

椎葉村のテーマ：「これからの関係人口構築のあり方」

～秘境の村で日本の未来づくりを挑戦～

日本三大秘境と呼ばれる九州の山深い村

故に残されている貴重な資源

- ・ 圧倒的な大自然
- ・ 神楽をはじめ多くの伝統芸能
- ・ 世界農業遺産認定資源の焼畑
- ・ 「かて〜り」と呼ばれる相互扶助の理念

これらに通じるのは「自然との共存」





自然の恵みに感謝し生きる術を培ってきた



大きな課題 とどまらない人口減少

人口ビジョン			2018.2月の現住人口 (A)	2015→2020増減率での 2018目標値(B)	A/B
年齢	2015年	2020年			
0～9	210	157	191	178	107.30
10～19	147	118	140	129	108.53
20～29	110	100	76	104	73.08
30～39	233	211	243	220	110.45
40～49	260	230	261	242	107.85
50～59	425	306	361	353	102.27
60～69	473	453	510	461	110.63
70～79	425	369	366	391	93.61
80～89	425	395	437	407	107.37
90～	95	120	108	110	98.18
総数	2803	2459	2693	2595	103.82

移住政策などを行ってきたが・・・

人口減少による 問題点

- 地域の伝統文化が継承できない
- 集落の維持管理（道路の除草など）
- 貴重な知恵や技が失われて行く
- 自治組織運営が困難
- 買い物弱者の増加 など

人口対策でU・Iターン政策の
取り組みをどこでも行っている

移住成果は容易に出ない。
しかし、時間的猶予はない

地方が抱える問題には関心がある・
関わりたいと思う人はいる。
関係人口の創出が地域存続のカギ

住まなくても地域に関わり持続可能な
地域づくりを行っていく関係をつくっていこう

「関係人口」創出の課題

地域の課題と「ソトの人が関わりたいと思うコト」のマッチング
関わりやすい場の構築（現地までの移動、現地の滞在など）
受け入れ側の体制

東大FSで取り組んでもらいたい事

「実際に「課題解決に関わる」を体験しながら「関係人口」を考える

テーマ1：交流拠点における「関係人口の創出」を考える

椎葉村中心地に交流拠点整備を行う計画であるが、その施設で
関係人口を生み出すために、どのような「仕掛け」が考えられるか

テーマ2：山間地域におけるこれからの教育環境について考える

椎葉村には高校がなく、中学卒業と同時に村外に転出してしまう。
また、椎葉村は広いため中学校も1校で6割ほどの生徒が寮生活である。
しかし、近年は通信インフラを活かした学習環境や自然を活かした
教育の事例も多く見られる。

将来、椎葉村の力になってくれる人材の育成教育は出来ないか

東京大学フィールドスタディ型政策協働プログラム 課題説明

宮崎県椎葉村

テーマ：「これからの関係人口構築のあり方」
～秘境の村で日本の未来づくりに挑戦～

概要

日本全国で人口減少に伴う地方創生の取組みがなされており、特に移住促進は重点施策です。

しかし、条件不利地域においては移住成果が出ているのは多くはありません。

人口減少はとどまらず地域において様々な問題が生じており、その対応は急務です。

一方、現住とは違う地域と関わりを持ち活動するという人たちも見られ「関係人口」というワードがよく聞かれるようになっていきます。

地域の維持は待ったなしの状態に移住成果には時間がかかります。こうした事から、椎葉村と関わる人や場を増やし、地域活性化や課題対応に取り組んで行く事が有効な手段だと考えています。

このため、椎葉村においては「関係人口の創出」をテーマに活動を行っていただきたいと考えています。

しかし、「関係人口」といっても漠然としすぎていますので、具体的に取り組む詳細テーマを設けています。

条件が最も厳しい秘境の村でこれらに取り組みながら、日本における「地方が持続するための施策」モデルを見出す手がかりになればと思っています。

皆さんは椎葉村に行かれた事はないと思います。昨年度にこられた学生のお二人もかなり衝撃を受けたようです。

どんなところか、下記サイトをご覧くださいと少しはわかるかもしれません。

<http://shiiba.jpn.org/>

詳細テーマ1：交流拠点における「関係人口の創出」を考える

椎葉村では、中心地付近に交流拠点施設を、2年後を目処に整備する計画です。保育施設やコワーキングスペース、図書機能など多様な人々が集う施設をイメージしていますが、そこでどんな繋がりを得られ、どんな事を知り、面白い新たなモノが生み出されるかというワクワク感のある施設にしたいと思っています。

そのために、どんな仕掛けがあると良いか全国の事例などを参考に、考えてもらえればと思っています。

施設が出来上がってから取組を始めるのではなく、有効なアイデアであれば、早くから着手し、施設利用開始となった時にはその動きが加速することを目指したいと考えています。

施設基本計画プロポーザル情報

http://www.vill.shiiba.miyazaki.jp/promote/2017/12/post_114.php

詳細テーマ2：山間地域におけるこれからの教育環境について考える

村内出身者も当然、関係人口の対象者です。もちろん椎葉村にUターンしてもらいたいのですが、それぞれの夢や事情があるので村外で暮らすという事も仕方ない事であると思います。

村外で暮らしていても、椎葉村の力になってくれる人材育成の教育というのも関係人口の構築では必要な事であると考えています。

また、理想の教育環境を求め移住するという事例も聞かれます。

通信環境が整備された今では通信高校なども見られる一方、自然の中で学ぶという教育事例も見受けられます。

椎葉村の環境の中で、「関係人口の創出」を意識した教育環境の構築というものについて考えて戴きたいと思っています。

A wide-angle photograph of a suspension bridge spanning a deep, lush green valley. The bridge has two tall, silver metal towers on either side, connected by a network of cables. The bridge deck is a light blue-grey color. The surrounding landscape is covered in dense, vibrant green forest. In the foreground, there are some trees and a rocky outcrop. A white rectangular box with red text is centered over the bridge.

宮崎県綾町

世界中の99.9%の人が知らない

ユネスコエコパーク

地球を救う

ユネスコエコパークの3つの機能

保全

学術研究
支援

利用

学術的研究支援

持続可能な発展のための
調査や研究、教育・研修の
場を提供している

生物多様性の保全

人間の干渉を含む生物地理学
区域を代表する生態系を含み、
生物多様性の保全上重要な地
域であること

経済と社会の発展

自然環境の保全と調和した
持続可能な発展の国内外のモデル
となりうる取組みが行われていること

平成29年度 大学・研究機関と綾町との連携分野一覧

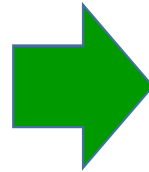
分野	内容	調査研究テーマ ※	連携先
教育分野	地域活性化のための教育及び人材育成	・綾町における幼児向け環境教育に関する研究	南九州大学 人間発達学部
農業分野	自然生態系農業の振興	・綾町果樹栽培における持続可能な循環型モデルの構築に関する調査・研究	南九州大学 環境園芸学部
		・綾町における果樹生産に関する調査・研究	南九州大学 環境園芸学部
健康・食品科学分野	地域資源を活用した新たな食品開発	・綾の野生酵母および乳酸菌に関する調査	宮崎県食品開発センター(南九大と共同)
歴史・文化分野	地域文化の保護・振興	・綾町の魅力を海外観光客にアピール:地域と連携した実践的英語教育	宮崎大学 地域資源創成学部
林学・生態学分野	綾の照葉樹林を中心とした自然環境の保全	・綾町周辺における森林林床植生のニホンジカによる食害について	宮崎大学 農学部
		・綾照葉樹林におけるナラ枯れ発生初期の被害拡大の傾向	宮崎大学 農学部
		・綾町の林業遺産登録に向けた現状把握	宮崎大学 農学部
		・宮崎県綾町におけるニホンイシガメの生態学的研究	宮崎大学 教育文化学部
		・綾町・猪八重溪谷の自然照葉樹林帯での哺乳類相(ヤマネ・モモンガ)調査	九州保健福祉大学 薬学部(宮大と共同)
		・ブナ科常緑広葉樹コジイの種子生産パターンおよび種子食昆虫相の地理的な違い	京都府立大学 生命環境学部
		・カシ類に特異的な葉内生菌Tubakia属菌の多様性 (予定)	東京大学大学院 新領域創成科学研究科
景観・工学分野	ユネスコエコパークの特性を活かした景観づくり	・綾ユネスコエコパークの農産物ブランド化に向けた生態学的研究	宮崎大学 農学部
		・窒素の需給バランスが地域社会の持続可能性に与える影響に関する研究	宮崎大学 地域資源創成学部
領域をまたぐ調査・研究	広域的な分野における調査・研究	・ユネスコエコパークに関する町民意向に関する研究	宮崎大学 地域資源創成学部

宮崎県
綾町

課題の設定

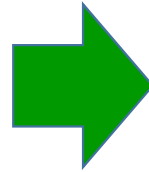
学術的研究の地域社会文化経済活性化への活用について

自前の研究機関や大きな予算は持ち合わせていないが、ユネスコエコパークに認定され、大学、研究機関からの社会系、自然系、様々な研究が展開されている



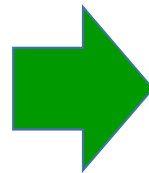
研究の成果をどのように地域活性化に活用できるか

個別の研究またはその成果を相互に関連づけて相乗効果を出せないか



今後どのような研究が展開される可能性を秘めているか、全く異次元の研究もアリではないか

綾ユネスコエコパークセンターが開設された



どのように活用することが、より効果を発揮できるか

2015国勢調査

人口

7, 224人→7, 345人

121人増加

15歳以下人口比率

15.7%

県内26市町村中4位

世界を変える

ユネスコエコパーク

地球を救う

それはあなた次第です



鹿児島県

平成30年度フィールドスタディ型政策協働プログラム オリエンテーション



熊本県天草地域・鹿児島県北薩地域の概要



熊本県の概要

面積	7,409.44 m^2	(国土地理院データ)
人口	1,786,170人	(平成27年国勢調査)
い草, すいか, トマト, テコポンなど全国一位		

天草地域の概要

面積	878.35 m^2	東京23区の1.4倍
人口	112,934人	昭島市とほぼ同じ

(天草市, 上天草市, 苓北町の2市1町で構成)

鹿児島県の概要

面積	9,187.01 m^2	(国土地理院データ)
人口	1,648,177人	(平成27年国勢調査)
豚, フロイラー, さつまいも, 養殖ブリなど全国一位		

北薩地域の概要

面積	1,567.27 m^2	東京23区の2.5倍
人口	199,149人	小平市とほぼ同じ

(出水市, 阿久根市, 薩摩川内市, さつま町, 長島町の3市2町で構成)



天草・北薩地域の観光の概要

観光客の動向

1. 宿泊客の動向

(単位:人, %)

	全国	熊本県	鹿児島県
宿泊者数	498,191,140	7,597,320	8,068,430
対前年比	+1.2	+4.4	+12.0

出典:観光庁宿泊旅行統計(平成29年速報値)

※ 熊本県, 鹿児島県の観光統計から, 両県宿泊客の約8%がそれぞれ天草地域・北薩地域に宿泊していると推測される。

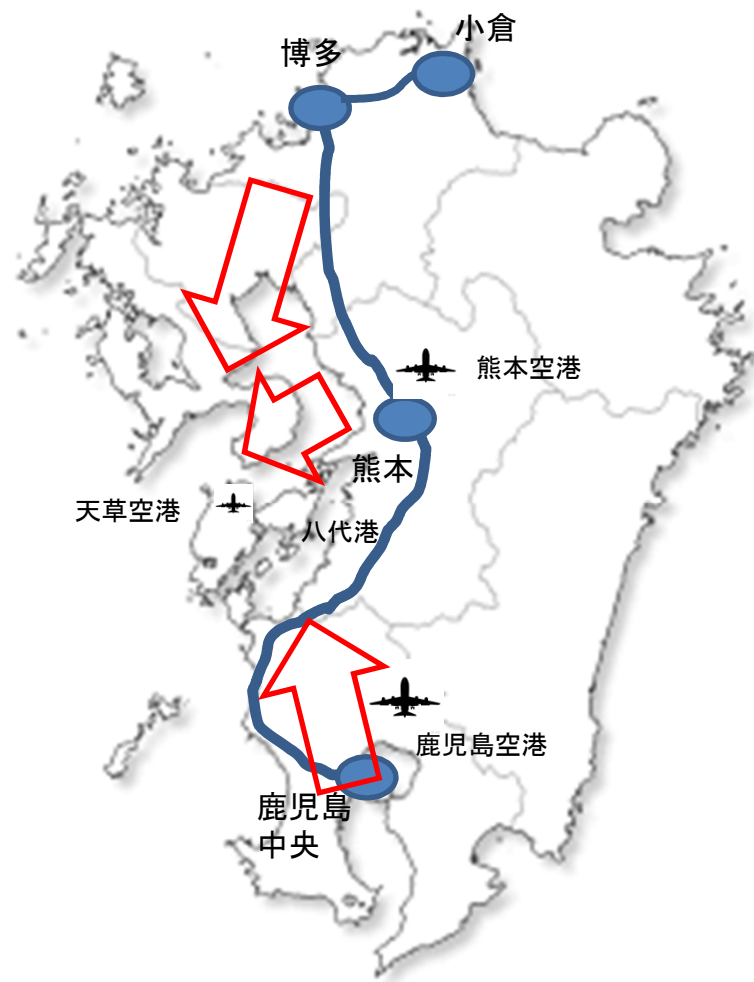
2. 外国人宿泊客の動向

(単位:人, %)

	全国	熊本県	鹿児島県
外国人宿泊者数	78,003,570	787,170	715,320
対前年比	+12.4	+51.7	+48.7

出典:観光庁宿泊旅行統計(平成29年速報値)

※ 熊本県へは韓国・台湾から, 鹿児島県へは香港・台湾からの宿泊客が多い。



拠点となる長島町

鹿児島県長島町とは

場所	鹿児島県の最北端
人口	10,431人
面積	116.12㎡

天草は目と鼻の先
(フェリー2航路 約30分)

九州新幹線出水(いづみ)駅まで約50分

特産品は養殖ぶり、ばれいしょ、焼酎



フィールドスタディ型政策協働プログラム

鹿児島県北薩地域・熊本県天草地域への SNSを活用した効果的な方策の検討

首都圏から九州に観光で訪れる方の8割は、ネットで予約・情報収集等を行う個人客



将来は10割の人が
そうなるのでは？

デジタルネイティブである学
生の皆さん、どのような情報
発信が効果的ですか？

こんなことをしていただきます！！

政策を考える


- ①市役所, 町役場, 観光協会関係者へのヒアリング
- ②宿泊施設, 物販店関係者へのヒアリング
- ③観光客, 関係者へのアンケート調査

田舎暮らしを体験

- ①地域イベントへの参加, 農業・漁業体験
- ②地域おこし協力隊の活動を体験
- ③地域住民との話し合い

観光客を増やすためには,
どのようなPRが有効か？



A wide-angle photograph of a tropical beach. The foreground is a wide expanse of light-colored sand. The middle ground shows the ocean with gentle waves washing onto the shore. The water is a vibrant turquoise color near the beach, transitioning to a deeper blue further out. The sky is a clear, deep blue with a few wispy white clouds. The overall scene is bright and sunny.

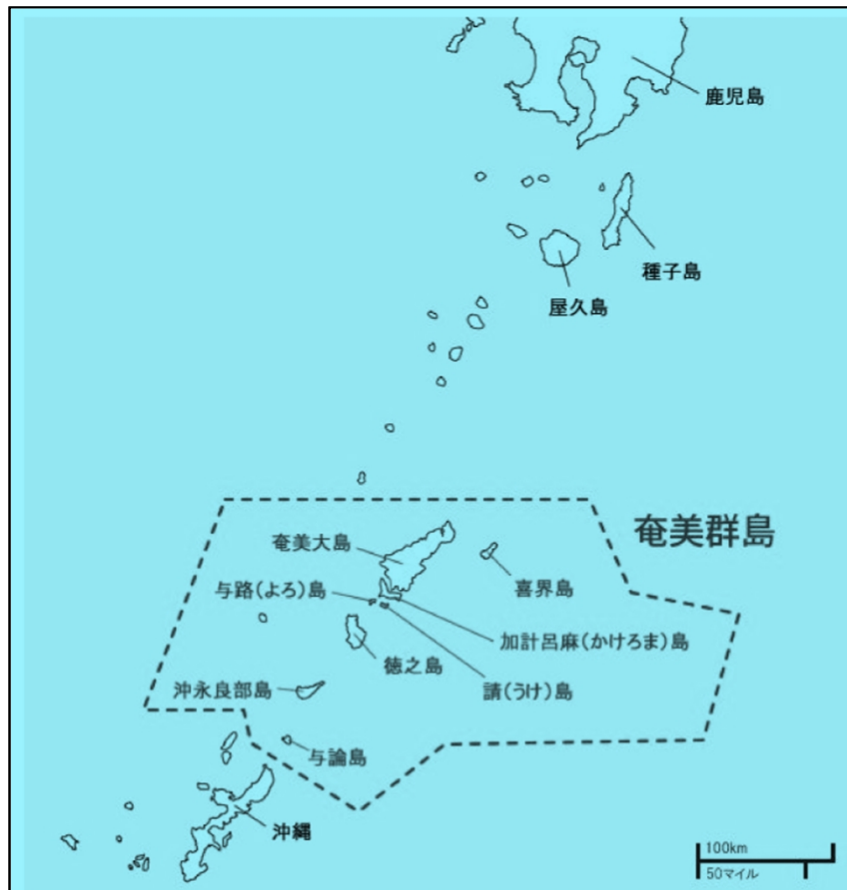
奄美における文化の 保存・継承と活用

鹿児島県

(奄美市土盛海岸)

本県における離島の概要

(本県離島の位置図)



- 離島人口(159,486人)
- 離島面積(約2,485平方Km)
→ いずれも, 全国第1位
- 有人離島数(26) → 全国第4位

温帯から亜熱帯にわたる南北約600キロメートルの広大な県域に広がる26の島々は, 真っ青な海をはじめとする温暖で豊かな自然環境や個性的な伝統文化, 健康的で特色ある郷土料理など, 個性あふれる島々ばかりです。

奄美群島の概要

(奄美群島の有人離島)

奄美大島, 加計呂麻島, 請島, 与路島,
喜界島, 徳之島, 沖永良部島, 与論島



- ① 市町村数 12 (1市9町2村)
- ② 人口(H27国調) 約11万人
・65歳以上の割合は約31%(国平均 27%)
- ③ 郡民所得 2,090千円(H26年度)
対県格差 87.5 対国格差 72.9
- ④ 気 候
 - ・亜熱帯・海洋性に属し, 四季を通じて温暖多雨
 - ・年間平均気温は21°C前後, 降水量は約3千ミリ
 - ・台風の常襲地帯

★ 奄美-鹿児島 約370km
-東京 約1300km

★ H29入込客 約82万5千人

○LCCの就航等により, 平成29年の入込客数(奄美各島への客数)は過去最高になった。



大浜海浜公園 (奄美市)

奄美の美しい自然



① マングローブ（奄美市住用）



② 東洋の美しい真珠“与論島”



③ アマミノクロウサギ



④ 金作原原生林のヒカゲヘゴ



⑤ リュウキュウアカショウビン

①②④の写真は、鹿児島県観光連盟提供

奄美の文化



佐仁の八月踊り(奄美市)



油井の豊年祭(瀬戸内町)



闘牛・徳之島



シヨチヨガマ・龍郷町



諸鈍シバヤ(瀬戸内町)



十五夜踊り(与論町)



ヒラセマンカイ・龍郷町

近年、過疎や高齢化、生活様式の変化等により、
伝統行事(文化)の担い手が減少傾向

(1) 伝統行事

- ・各集落の豊年祭, 八月踊り, 諸鈍シバヤ, 秋名のアラセツ行事, 油井の豊年祭 など



演者などの後継者が減少

(2) 島唄や方言(島口)



豊年祭や生活の中で歌われたり、
日常会話で島口が使われたりする
ことが少なくなっている。



★保存継承の取組

- ・各保存会の活動
- ・各市町村・文化協会からの支援
- ・DVD,CD等のアーカイブ化
- ・広域文化祭, 島唄大会, コンクール等の開催 (H27は国民文化祭)
- ・方言劇, 方言の授業, 方言によるFMラジオ放送
- ・危機的な状況にある言語・方言サミット(奄美大会)の開催 等



文化の普及啓発や保存継承に一定の効果

地域の文化や魅力を 地域づくりに活用

○ LCC等の影響で観光客が増加

- 受入体制の整備が必要
(宿泊, 交通, 体験型の観光メニューづくり等)
- ・ 奄美を訪れた観光客を集落に誘導する。
(地域の文化や魅力(集落の宝)のPR)
- ・ 各集落(シマ)を観光客が訪れ, 地域の文化・魅力を体験してもらうことで, 地域の活性化(シマおこし)にも資する。
- ・ これらの取組が, 文化の保存・継承にもつながる。

(さいごに)

★東大の皆様へ！

・奄美は, 豊かで美しい自然(エメラルドグリーンの海や貴重な動植物が生息する森など)や, 集落(シマ)ごとに異なるといわれる多様な文化など, 魅力にあふれています。

・住んでいるわたし達とは異なる視点を持っている皆様方に奄美を訪れていただき, 新しい視点から課題に取り組んでくれることを期待しています。